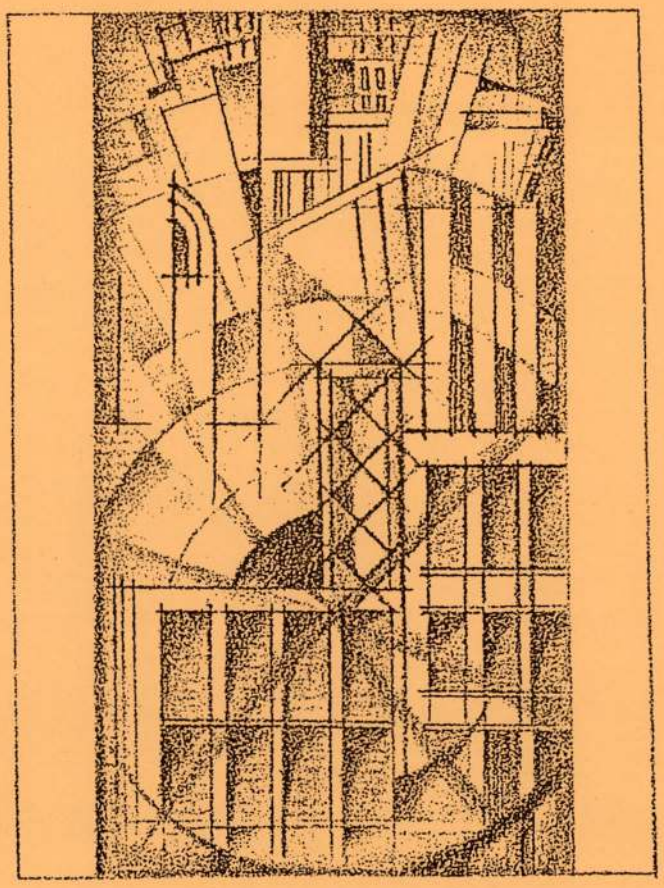
建築と社會

第八輯　第參號

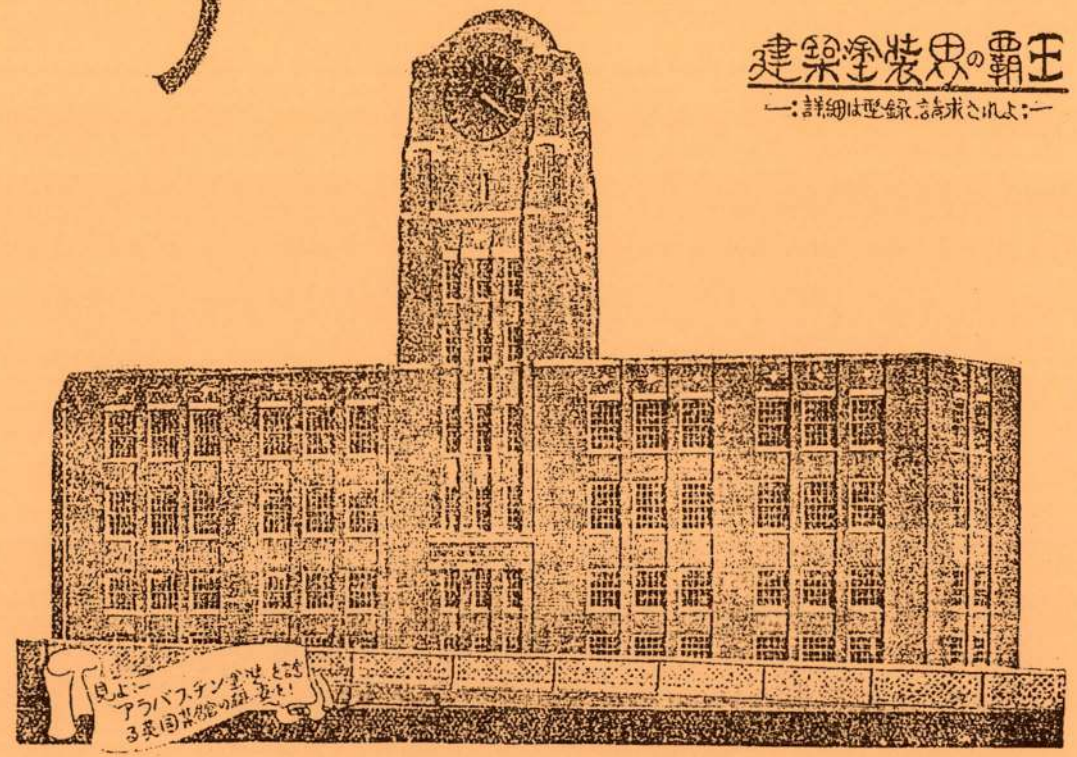


大正十四年三月一日

総合アラバスチン

建築塗装界の覇王

一：詳細は要録、請求されよ：一



日本總代理店

資本金 田中源太郎商店塗料部

（大阪）北区堀上町　（東京）丸ノ内報知ビル　（札幌）北八條西四

高級昇降機

エー・ビー・シー

▼現在ノ最大建築ニ使用サレ！

▼今後ノ高層建築ニ採用サレントス！

最近御採用御先方御報告

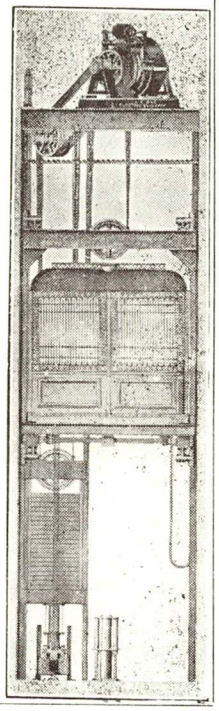
丸ノ内ビルヂング	十一臺
日本郵船	八臺
日本興業銀行	四臺
中外商業新報社	一臺
特許局	一臺
阪急電鐵	一臺
泉尾土地會社	二臺
大學病院	二臺
松竹キネマ座	二臺
神戸商船ビルヂング	四臺
明治海運ビルヂング	四臺
淺野物産	一臺
村井銀行神戸支店	一臺
ブラナモンド社	二臺
内田ビルヂング	三臺
明治屋	二臺
其ノ他	十臺

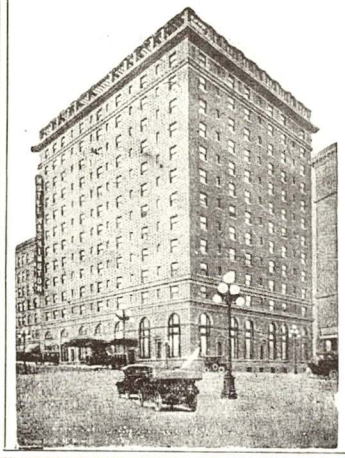
A, B, See!

ELECTRIC ELEVATOR CO.

220 Broad Way New York

ESTABLISED IN 1883





Esteemed enquiries solicited!

東洋總代理店

内田商事株式會社機械部

東京　神戸　大阪



■寶梅園土地合資會社事務所透視圖
口繪 ■同外觀（寫眞）
■同上平面圖及客室と食堂

□ □ □

▽文化價値の發見者……（一）
▽家族を含む自畫像（二）……本野精吾…（二）
▽患者からの註文……岡戸武平…（五）
——サナトリアムの構造に就いて——

□ □ □ □

◉鐵筋構造と木材加工
剛節架構の彎曲力率解法考察と其研究（二）……大野直平…（三）
木材利用の研究（二）……藤園…（一六）

□ □ □

▽「コンクリート」塗料の性質に就いて……大島重義…（二六）
▽希臘時代の彫刻概論（三）……古塚正治…（二一）
▽家屋移轉用「ローラ・ジヤツキ」に就いて……復局建築部…（一〇）



八輯第三號目次

古社寺建築

○榮山寺……池田谷久吉…（六一）
○古社寺建築に就て……天沼俊一…（五一）
▽開路市＝＝城西土＝＝解纜……八戸成蟲樓…（二七）
暴夜墓
―續々埃及紀行―（二・終）
▽建築線の言ひ草……加藤善吉…（四四）
▽住宅のよきといふこと……御牧邦生…（四八）
▽建築の眞實と虚僞其他……櫻木生…（六三）
―歪みなく生きるといふこと―
▽建築隨想記……M・H…（七〇）
世曼荼羅……池田谷久吉…（八二）

創作

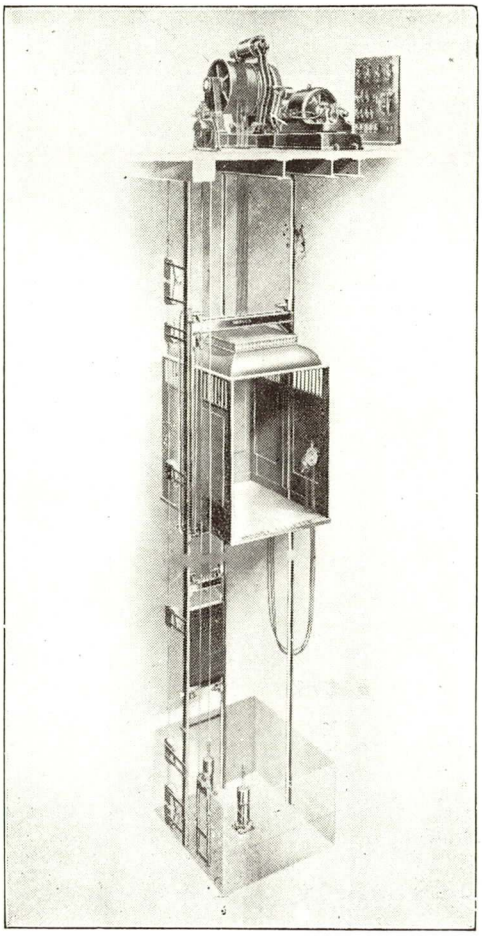
小さき刺戟……八畑幸二…（七五）

■俳壇……溪舟選…（八三）
■課題に就いて……溪舟…（八四）
■建築時事……（八五）
■建築主要材料値段……（八七）

THE WARNER ELEVATOR MFG. CO.
CINCINNATI, OHIO.

最新式高級エレベーター

◎カアーに惰力を有する時其惰力と反對の方向にスキッチを入るゝも故障を生ずる事なく上下何れの方向の場合に於ても一定の整限時間を經過しカアーの停止したる後始動すべき樣特殊の安全裝置を有す
◎最新式にして設計巧妙運轉圓滑にして絶對安全なり
◎見積を要する節はカアーの容量(荷客の別重量又は何人乘用)全昇降呎數及階數一分間の昇降速度明記の上御照會を乞ふ



營業課目

米國ウオーナーエレベーター會社、エレベーター
米國トライアンフ製氷機會社、製氷機
米國ノーウオーク鐵工會社、空氣壓縮機
米國ダベンポート發動機會社、石油發動機
米國プラックマーロータリーポンプ會社、ロータリーポンプ
米國ケーシヘッヂス會社、水管式汽罐各種
米國ロトスヒード會社、輪轉復寫器

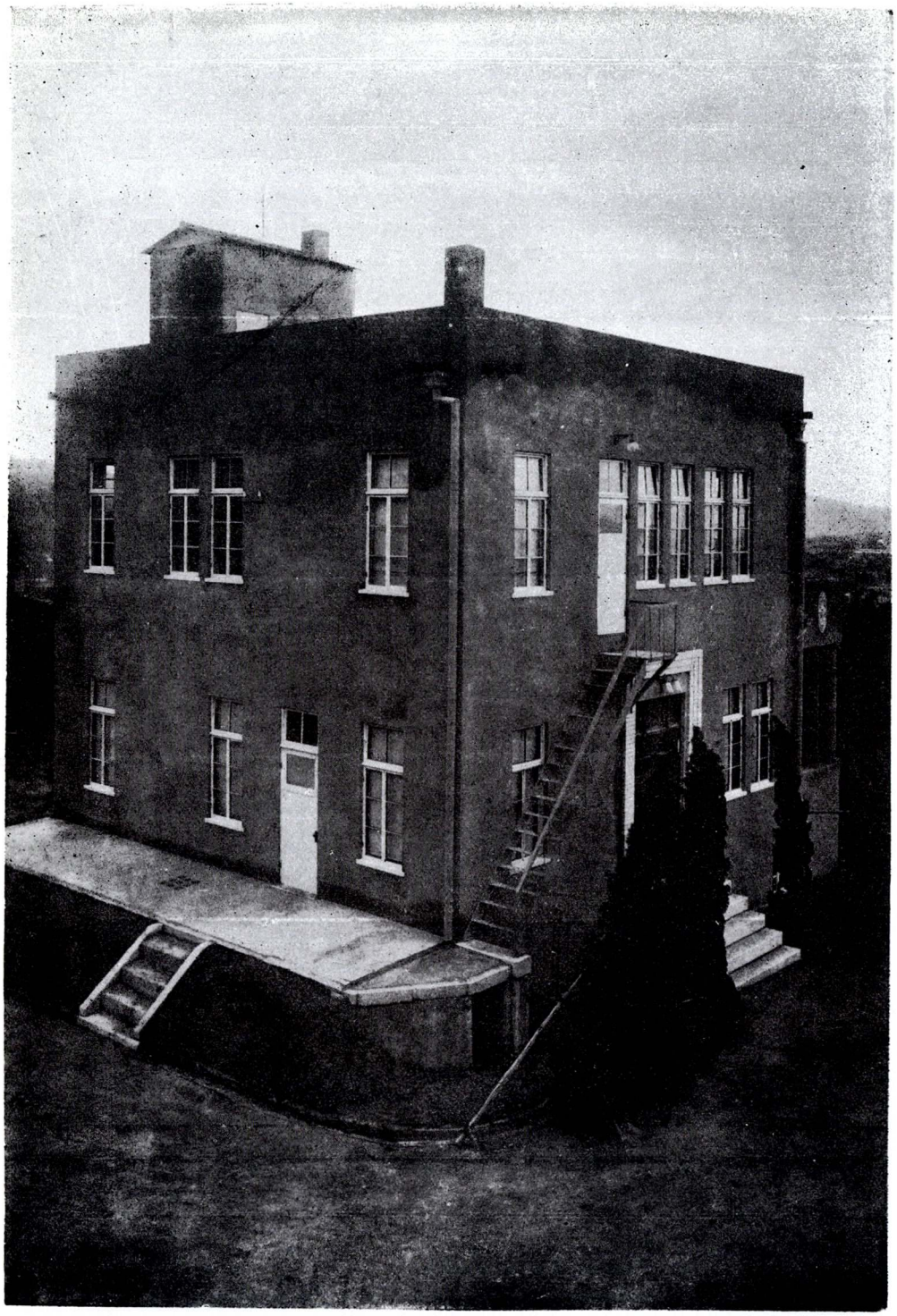
右各社日本總代理店として輸入取扱申候

米國ウオーナーエレベーター會社
日本總代理店
ミドリ商會機械部
神戸市播磨町二十八番地
電話三宮 長三一一九番 五五〇九番

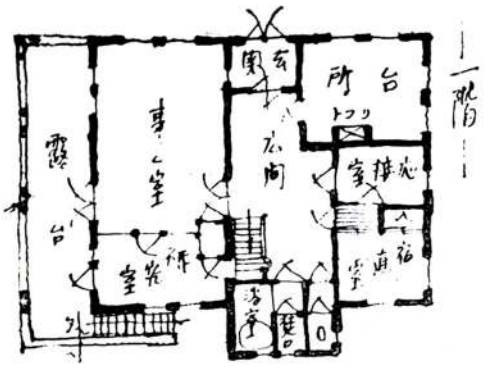
熟練せる技術者に依り据付試運轉結了迄充分の監督を爲し試運轉完了の上御渡しす

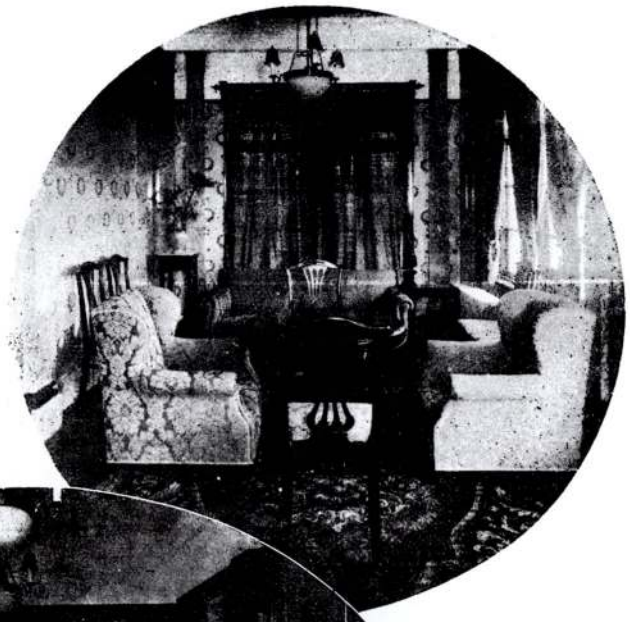


寶梅園士地合資會社事務所



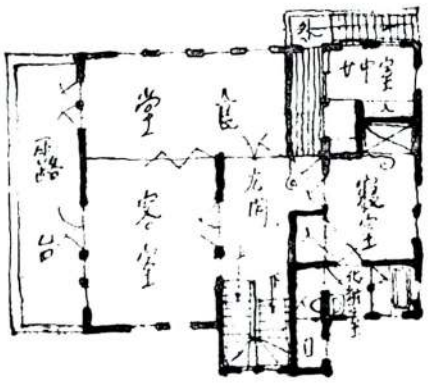
寶梅園土地合資會社事務所——阪急沿線寶塚







同上食堂



口繪說明

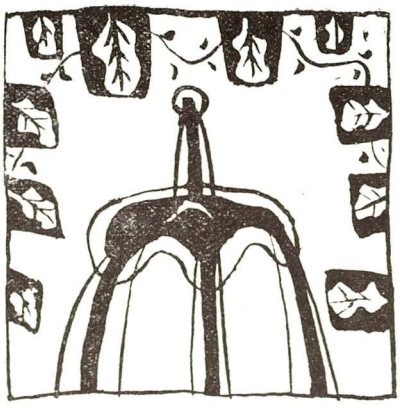
一、名　稱　寶梅園土地合資會社事務所
二、位　置　阪急沿線寶塚南口西南八丁寶梅園内
三、構　造　鐵筋コンクリート造三階建
四、建　坪　地下室　三十九坪
　　一階　三十三坪
　　二階　三十二坪
　　屋上塔家　二坪
　　計延　百六坪
五、工　費　約四萬圓
六、設計及監督　古塚建築事務所
七、請負人　摧陽工務所
　　室内裝飾及家具工事　高島屋吳服店裝飾部
　　電燈裝飾　高島屋吳服店裝飾部
八、竣工　大正十三年四月三十日



文化價値の發見者

氏ハインリッヒ・リッカートは、歴史科學を、普遍史としての歴史哲學系統を樹てた。而して、氏は、その以前に於て價値哲學の創成者である。氏の哲學的觀點は、凡ての歴史科學に普遍なものであつて、それと同時に、その本質的な原理を成すものである、とわたくしは想ふ、而して、歴史は個別性を有するとともに、一回性を有するが故に、歴史は繰り返さない、その個別性の各に於て、人生價値の創造者である。建築史も亦、歴史科學の一つとして、單に事實の叙記でなく、樣式又は構造などの説明でもなく、所詮は價値創造の釋明者である。而して、建築歴史は、實に、文化價値の發見者であらねばならぬ。

氏リッカートは『價値の附帶する「現實」なるものは一に文化生活（Kulturleben）といふものに於てのみ直接し得る。文化とは、財（有價値的現實）の概念としてのみ了解し得る。文化財の裡に、價値の多樣性が、恰も沈澱し來る。斯は無論歴史的進展の長い年月間に行はる。されば、哲學は、文化財に眼を注ぎ、其處に於て、價値の種々相を、發見しなければならぬ。斯る目的の爲に、哲學は、文化を現實とし、客觀化して取扱ひ、個別化して、その豐富な内容と多樣な姿とを展開する識分を有する學に之を求むべきである。而も斯る職分を成すものは實に歴史である』と。……（郊邨）



家族を含む自画像 (二)

木野精三

計畫の基本——私は過去十年間自身の家の生活に向つて實驗し考察した結果を今新らしき家の計畫の基調にしました。ソウして最初に掲げました指揮者なしに運轉するに最も理想的な樂器を構成し樣と企てたのであります。コノ事から生れて來る必要條件を次に掲げて見ますと、

(一)家の總ての部分が家族の總員に依て或る部分は獨專的に或部分は共通的に常に用ひられる事。ソウしてソレ等の部分が相互に親密の關係を保ち決して分割孤立しない事。コノ前半は極めてたやすく實行し得るのでありますが、コノ後半の分割孤立しない事は計畫の上に最も周到の用意を要する部分になります。何となれば孤立せざらむが爲めには混亂繁雜に陷り易いのであります。御互の生活内容が充分に發揮され乍ら整然たる生活相を保つて進行する爲めには各自の生活動線が重なり合ひ乍ら混亂錯雜しない樣に計畫する事が肝要であります。各自の生活動線が餘りに離れ過ぎる時家は散漫に流れソウして家族を一團とした集團生活にならなくなります。又餘りに動線が重り合ふ場合には各自は各の生活内容を進める上に支障を來します。又各の生活動線が十字形に交錯する場合には生活相の衝突を來して運轉の上に故障を生じます。尚又生活は動にのみよつて成り立つものでなく靜の半面を持つて始めて完成するものであります。之等の總ての方面が各員の精神と肉体との上に適應されて行かなければならないのでありますから計畫を遂行する上には二重三重の考察を要する譯であります。

(二)外部との關係でありますが之れは家族の總員の動線の延長と考へる事が出來ますから別に一項を掲けて述べる事ではないかもしれません。けれども之れは家全體の運轉に對しては重要な分子でありまして外部との關係の接觸點が適當に解決されて居ない場合に家の有機性は著しく減退されます。此の事は然し乍ら一般に家を考へる場合に誰しも考へる事であると想ひますから今茲で述べる

事を止めますが唯私が特に注意を拂つた點は此の接觸點に肉體的及精神的のギャップを少なくする事であります云ひ換へれば家の外から内へ、ソウして内から外へ、極めて自然に心持の移つて行く樣に計畫する事であります之れは計畫の中では極めて精神的な部分に屬しますし其の上家の内と外と云ふ全然異なつた雰圍氣の連鎖でありますから計畫の上に可なり困難な部分であります。

(三)生活の整理――云ひかへれば慌ただしくして繁雜なる生活樣式からの解放と云ふ樣な事になります。私は今迄普通の借家としては可なりよく考へられた家に住んで居たのであります。ソウして其の家の使ひ方を全然在來の約束から離れて腰かけ生活に移して使つて居ました。けれども其の間にはドウしても避け難き矛盾があり繁雜な生活に陷る傾向を常に生じたのであります。ソウして其の原因が在來の日本風の家の考案にあると云ふ事に考へ及んだのであります。此の事は可なり抽象的な事で具體的に述べる事が困難でありますから今は唯繁雜なる生活から逃れソレに伴なう生活の慌しさからの解放と云ふ事を。モットーとして計畫を進めたと云ふ事を記すに止めます。繁雜なる生活からの逃避ソレは退嬰を意味するのではなく簡潔に整理されたる生活のみ豊かなる生活を形造り得る素質を持つと云ふ私の信條に基くものであります。豊かなる生活ソレは勿論物質の豊滿を意味するのではなく精神生活のうるほひを意味するのであります。

(四)文化への反逆――私は日本で用ひられて居る文化と云ふ言葉に對して反逆の心が絶えないのであります。生硬安價、簡易と云つた風な感じが伴なうのであります。ソレでなければ反つて繁雜になり、高價になる傾を感じます從つてソレを基とした生活は輕薄にして浮動的なものになるか或は却て繁雜に流れる事を感じるのであります勿論眞の文化と云ふものはソンなものではないには違ひありません。眞の意味の文化からはシンミリとした落ち付きと健實な趣とが生れる筈であります。此の點から日本に於ては文化(Kul tur)と云ふ言葉が誤つた意味に用ひられて居る事を感じるのであります。コノ意味から私の家の計畫は近來盛んに用ひられて居る所謂文化住宅と云ふものには全然當てはまらないのであります。私の愛着を感ずる心持はとぢ込められた歐洲人の生活でもなく又きらびやかな米國人の生活でもありません。やはり美しき日本の天然から生れる生活であります。日本の土地に生れ日本の天然の中に育つた私共には爭ふ餘地なき特殊な何物かを持つて居る事を感じるのであります。人として人類に共通な或物と人種として各自に特殊なる或物とは自ら別であります。其の共通性と特殊性とが二つながら相混つて全體を形成するのであります。

(五)計畫の細部――生活線と云ふ言葉も私の考へ出した言葉であります。具體的に說明しますと歐洲風の生活と日本風の坐生活との間には生活線の高サに約四〇センチメートル餘の差があります。コノ說明で明瞭になると想ひます。ソレで私が採つた生活線の高さは此の中間を基準として一般には歐米の風より低く日本のより高く取つたのであります。ソウして其の前後を可な

り廣い範圍に採つてあります。此の事柄は窓とか天井とか戸とか云ふ樣な細部の高サ大サ等の計畫に標準を定める上に基本となるものでありますから計畫に當つて重要な要素の一つになります。一例を申しますと私は窓臺の高サを約六〇センチメートルと云ふ極低いものにしたのは此の生活線の高サに關係を持つて居るのであります。氣候風土に對する關係——之れは家の計畫に當つては最も重大な要素であります。日本の中部は極短かいけれども可なりに寒い氣候と可なりに永い暑い氣候とを持つて居ます。

ソウして其の中に中庸を得た之れも可なりに永い二つの氣候を挾んで居ます。其の間には梅雨期と云ふ他の土地には類の少ない氣候を持つて居ます。コウ云ふ氣候に對する準備は可なりに困難であります。之等に對して私の採つた方針を次に書きます。

(イ)寒に對して——中部日本の寒氣は寒いと云つても知れたものです。家の構造をシッカリして置けば僅かな暖房裝置にてすむ。之れは私の今度眞冬に這入つた經驗が明瞭に證明して呉れました。之れは室を密閉するの意味ではありません。

(ロ)暑に對して——可成傳熱度の少ない材料で構造して庇は必ずつけ窓及戸を可成家の四面に明けて置く事庇は冬の寒にも雨にも風にもあらゆる氣候に對して役立つ。

(ハ)濕に對して——防濕壁體を用ゆる事にて充分である庇を用ゆれば壁の雨に濡れる機會を著しく減少するから壁體の問題は餘程輕減される。約六メートルの高サに對して七〇センチメートルの庇が風雨に對して著しい効果を奏する事が證明せられました。空氣より來る濕氣に對しては通風と暖房とによるより他はないと想ひます。之等に對して私の採つた實際問題を申しますと、壁體は中村式鐵筋コンクリート構造法であります。中村鎭氏の考案になる二重壁體構造法で此の事に就ては中村氏の論說も已に發表された事でありますから今茲では申し述べませんが私が之れを採用する事に決心した當時此の方法は未だ餘り多く實行された後でありませんでしたし中村氏自身も未だ研究の途上にあり、殊に寒暑乾濕に對しては最も研究を要する點であると云ふ事を申されたのでありましたが、私は此の方法に信ずべき點を發見したのと一つには私のモルモット性を發揮する上に絶好の機會でありましたから之れを用ゆる事にしたのであります。此の實驗の結果に就ては一年の後改めて報告する事に致しますが今迄短期ではありますが極寒の經驗は極めて良好であります。尙一つ日本に於ける住宅の根本問題の一つとしてコンクリート構造の良否が論議せられて居る際私の計畫が一ッの實驗材料になつて向後の方針に幾分のヒントを與へる事が出來れば仕合せであると想ひます。尙細部に亘つて說明を續けますと暖房の問題でありますから之れは浴場、炊事と關係を持つた問題でありますから一括して御話します。風呂は靑柳博士の考案になる保溫裝置を風呂と元湯のタンクとに應用しました。炊事は石炭を用ゆる鐵の料理竈の最も普通に用ひられて居るもの。室の暖房は石炭或は薪を用ゆる古代英國風の樣なものに

しました。炊事に電熱を用ひなかつた理由は極めて簡單でありまして設備と經常費が高くかゝるからであります室の暖房の方はたゞへ費用が少なくて濟む時代が來ても私は恐らくコウ云ふ原始的なものを用ゆるだらうと想ひます。之れには火を圍んで物語ると云つた風な單なる溫度の高さ丈では得られない味を含んで居るからであります。文明の進んだ英國で今だに古風な暖爐に薪をたいて暖を採る事がやまらないのを單なる傳統に縛られた習慣性と見るには餘りに根強い執着であります。日本でも私は北國の農家で爐を圍んで暖を採る味を此の上なく悦ぶのであります。此の心持から私は暖房に最も原始的な方法を擇んだのであります。炊事竈は別に特殊なものではなく世已に定評のあるもので長い年代の間に洗練されたものでありますからコヽに記す必要を感じません。風呂の青柳氏の考案にタンクを附屬したのは私が始めての考案で一つの炊き口を風呂とタンクとに分けた烟道に導き再び一つの煙突に合して其の二つの熱の配分をダンパーに依つて加減する事を考案しました。此の方法は全く成功しまして僅かの燃料に依てタンクと風呂とを適當に熱する事が出來る結果を得ました。卽ち風呂をたく丈の燃料に依て餘分のタンクを熱する事の出來るのであります此の方法は青柳氏の考案を更に擴張して電熱を用ひない場合に家の中の熱湯の供給を容易にする方法として多くの燃料を要しない燃料節約の上の最も好き手段と考へられます節約は豐かなる生活への手段であると云ふ私のモットーの實現に一つの助けとなります。（未完）

物臭先生にはお誂へ の博士の新住宅

永田町の高臺に建つ帝國議院の普請奉行である大熊喜邦博士が今度これこそほんとうの文化住宅を建てたその噂を傳へ聞いて建築家や物好き連抔が麹町下六の新邸へ續々參觀に押しかけるので若い女中さんが閉口してゐる、博士の前の住ゐは、お祖父さんが佐渡の金山奉行時代に建てた先祖傳來の古家で、安政の大地震には持ち堪へたが、九月一日には土藏諸共一と潰しにされたソコで博士は持合せた智慧の有りつたけを搾つて子孫に傳へるに足る文化住宅を建てたものだ二階とも六十坪ばかりだから、大きさから見ると中の上位だが、その結構の凝り方には驚く、萬一の場合には防火戸さへ閉れば貴重な藏書が皆安全に助かる、鐵筋コンクリートの部分は五坪ばかりで、他は木造だが、骨組みは皆獨特の鐵の鍵で、貧乏搖ぎもせぬやうに止め、外部は火を防ぐ爲にフエルトと金物を張りモルターを塗り腰には石を積んで風は絕對に飛込ませない、大地震で、屋根一杯の瓦が振り落されても、雨から下へはカケラ一枚落ないし、樋は又逆さにして掃除ができる、左官屋とは全く縁切りで壁より効能の多い獨逸輸入のウオルボートと云ふ板壁に、今はやりの壁紙を張り天井もそのボート張りの上にペンキを塗り、汚れたら石鹸で洗ひ落すのださうな、緣側も一尺餘も座敷より低く落したのは、搖き出されたパチルスを座敷に逆戻りさせない用意だとある、緣側はキルク張り、柱は木地を出して塗り立て雜巾がけと云ふものは全く必要がない雨戸は米國ウイツコー會社へ直註文し、恐らく日本では初めてだらうといふ最新式なもので開け立てには始め一枚を引出せば、後から〳〵と附いて來てゐざりでも用が足りる重寶なものだ、玄關は一つで中へ入ると片側に內玄關がある、その玄關の扉も客が出て行けば自動的に錠が掛かり、內から卽一つ押せば直ぐに開く仕組だ、その外、臺所の御用聞きが女中とベチヤ〳〵無駄口を叩いて居られないやうな窓口の裝置など奇拔な點を擧げ立てたら際限もない「坪どの位の建築費がかゝつてるか未だ精算もして見ない」と博士のお得意は大したものだ。

患者からの註文

＝サナトリアムの構造に就いて＝



岡戸武平

ある有名な畫家が理想的なアトリエを建てやうと自らプランを立て自ら監督をして自分の意の儘に建築させた。急勾配な赤い屋根、表現派型の窓、氣の利いた露臺、總て理想通り出來たのであるが、サテその畫家はそのアトリエに引越して來た夜初めて、『あッ便所が無かつた』と、叫んださうだが、（藝術家の造りさうな事ではあるが）あたまにのみ頼つて仕事をすると得てかういふ事になり易い。私は曾て大阪の新聞社に勤めてゐる時　記事を取る可く市立やわたくし立の病院に幾度も足を運びその度に　實に完備したものだ』などゝ院長に本氣でお世辭を云つたものであるが今自ら病んで斯うして入院してゐると『あッ便所がない！』と叫びたいことが度々ある。今迄見て來たのは大道具ばかりである、芝居に必要なのは小道具である大道具がいか許り立派でも小道具に缺けてゐる物があつては芝居はおぢやんである。

私は建築に關しては全く素人である。しかしその素人であるが故に便所の存在を忘れるやうな事はない。さう云ふ意味でこれから結核療養所（サトリアム）（重に内務省の命令に依り各都市に建設される施療患者を收容するもの）に就いて患者からとしての注文を書いてみる。舞臺監督は專門家に任せることにして——。

先づ茲に結核サナトリアム療法の鼻祖獨逸のヘルマン、ブレーメルの流れを汲んだ英國のアーサ、レーサム氏のサナトリアム構造の憲法（飯野氏紹介『レーサム氏サナトリアム療法』に仍る）を摘出し之に依つて一々注文なり批判なりを加へて行きたいと思ふ。

一、患者は各一人毎に別室に收容され、其備設は快適のものたる可し。建物の位置は日當り良く、寒風に吹き曝されざる傾斜ある高地にして、其周圍は樹木繁茂せる平野たることを要す。地質は乾燥し、且つ水分の滲透性に富み水の供給は潤澤にして水

質は純良なる可し、且つ衛生設備は最も進歩せる形式による可し。

結核療養所（サナトリアム）は患者に理想的な衛生々活を送らしめると共に一面初期患者にその療養法を教育する學校でもあるし、且又一室に十數人の患者を收容する方法よりも一人一室制の方が如何程その治癒率の上に好結果を齎らすかは火を睹るよりあきらかであるが、限られた財源によつて可及的多數の患者を收容せやうとする現存各都市の狀態では一人一室制は到底許されないところである。現存東京　大阪、名古屋、（その他も殆どさうであらう）の各療養所は危篤室を除く全部は大病室を使用してゐるしかし強ち大病室が惡いと云ふのではない、一人一室の如き高淨な空氣と規律的生活の出來得る自制心があれば寧ろ患者は無聊を感ずることなく、且つ看護婦の手數も省け、その上建設費が比較的僅少で濟む譯であるから大病室また一利あるものである。わたくし的營利病院ならイザ知らず施療病院に於ては強いて一人一室制を採る必要は更にない。

建築物の位置、その周圍、地質等はそれぞれ專門家に依らなければ成らぬが、患者は寒さに對しては比較的抵抗力を持つてゐる――ベットに仰臥してゐると左程寒くは感じないが暑氣に對しては反對に抵抗力が非常に鈍るからその點に注意して位置並に日除け、換氣の方法に留意して貰ひたい。尙療養所の位置はその都市から三十分內外にて行き得る交通の便な郊外を選ぶことも必要である。斯うした『罪なき流人』の生活をしてゐると面會人は非常に慰められるものであるし面會人自身も交通の便がよければそれ丈行き易いから双方にとつて便利と云ふものである。

二、室內及び廊下の空氣は汚濁の危險なく、清純の度に於ては外氣の空氣と匹敵し同時にドラフト（隙間風）の發生せざる事

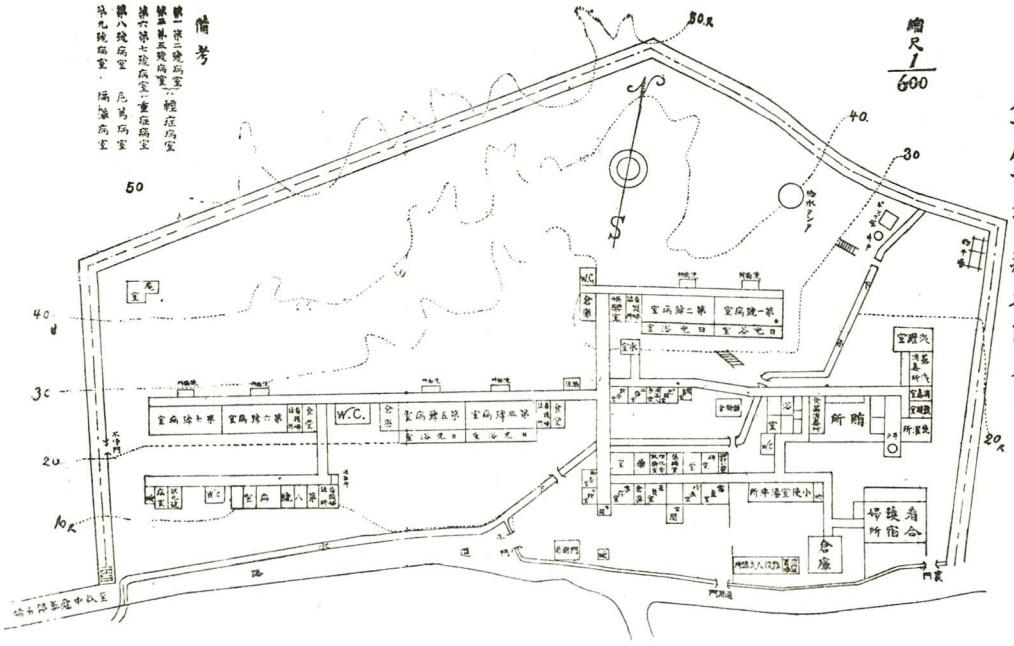
三、建物の位置及び樣式は出來得る限り塵埃を避け得らるゝものたる事

四、建物及び什器は塵埃の發生避け難き場合にも容易に掃除し得る構造たる可き事

（この三箇條は病室の建て方に關するものであるから一括する）

近頃『肺病は決して不治の病ひでない』と云ふことが一つの合言葉のやうに結核學者の口から叫ばれてゐるが、然らば全治さするには如何なる治療法をすればよいかと問へば、『それは君、やつぱり自然療法だよ』とくる、依然として肺結核の療法は迷宮裡にあるのである。

其處でその唯一の一握の藁である自然療法――即ち空氣、安靜、榮養、攝生の四箇條を死守するより他に手の下しやうがないのであるからその療法に最も適應した病室を建てなければならぬ。その第一の條件は何んと云つても空氣の問題である。その點から云へば一人一室制は必須な條件ではあるが前記の如くそれは許されない。とすれば大病室としての最上の方法を考へなければ成らぬ。それに就いて四千八百坪の地を擁し二十五萬七千圓を費して療養所として最も最近に建設されしかもその位置、設備等比較的理想に近く設計されたと云はるゝ名古屋市八事療養所に就いて云へば



（1）大病室

大病室の廣さは八間に三間（二十四坪）に九尺のヴランダ、病室の北側に六尺の廊下が附き、窓はヴランダ全部六尺の硝子戸に三尺の欄間があり、ヴランダと病室との境ひには二尺五寸の仕切りの腰に五尺の硝子戸とヴランダに通ずる一間の入口が東西に各一個、それに一尺五寸の小廻轉窓が附いてゐる。病室と廊下との仕切りは大部分壁にして一間の窓二つと一間の出入口が東西にある許りである。廊下には五尺の窓が連續に付き大病室一個につき一つ宛の洗面場が北側の庭に面し突出してある。病室の樣子は雜ッとこんな風である、之に就いて少し注文を云へば、大阪市立刀根山療養所は廊下がなく（廊下の無いのはしかし不便である）直接庭園に面してゐる爲め北側のベットの者も新鮮な外氣を呼吸する事が出來尙眼の慰めにもなるが名古屋は廊下と病室との仕切りが大部分壁であるため北側のベットの者は庭園も見得ず外氣は南側のベットの者の殘滓を呼吸し然も終日壁と睨み合ひをして居なければならぬのであるから非常に不幸である。どうか、この廊下との仕切りを全部窓にしてほしいものである。

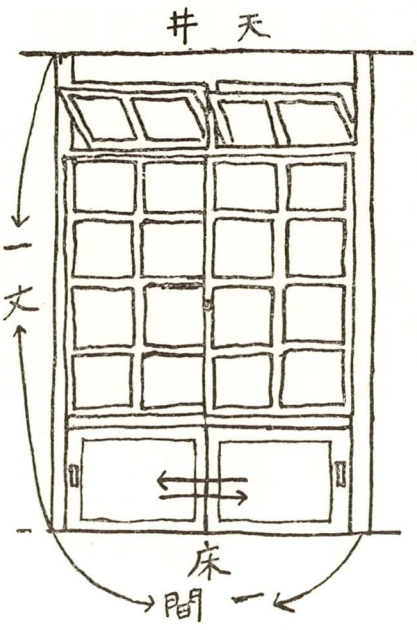
またヴランダとの仕切りの腰も掃除の爲めにも換氣の爲めにも撤廢して床板スグに硝子戸にするか、その腰を板戸にして開閉の自由に出來得る窓にしたらばどうかと思ふ。この點日赤名古屋支部の療養所の病室の構造は當を得たものである。

天井の高さは一丈一尺であるが之れ以上高くする必要はない。尙この天井に六個の通風孔がついてゐるが之はたゞ天井に一尺四寸の穴をあけたに過ぎないもので、隨つて少し強い風が吹くと天井裏の塵埃が一ぱい其處から吹き下ろされて來る。こんな名ばかりの通風孔なら無い方がいゝ。二三箇所紙が貼つてあるところも見受けた。しかし完全な通風孔は

是非必要である。

これは構造に就いての問題ではないが、現存名古屋市の療養所では二十四坪の大病室に十六ベット置かれてあるが、これは餘りに多すぎる、せめて一人當り二坪——即ち十二ベット位を最少限度としたいものである。因にこの大病室は散歩し得る輕症患者を收容してゐる。

（個室の窓）



（ロ）ヴランダの無い大病室

これは絶體安靜を要する稍々重症の患者を收容するために建てられたもので前記の病室にヴランダを取除けたものである。ヴランダが無いため、動けない患者には仰臥してゐて日光を浴することも出來るので衛生上にも良し且つ非常に慰められる。長い間仰臥生活を續けてゐると日光、蒼空、樹木等は非常に慰められるものである。たゞヴランダの無いのは夏季に困るがこれは卷上げ式の大型の日除けを設ければよい。尙南庭に面した窓の腰（闌の下）も板戸にして自由に開閉の出來停るやうにした方がよい。

（ハ）個　室

此處（名古屋市療養所）の個室は危篤者のみを收容するために建てられたもので一棟七箇室と別棟に急性傳染病用として二箇室建てられてあるが、その構造は病室三坪に圖（個室の窓の如き窓）が付きそれに附添室として三疊（疊敷き）この別室とそれに三尺の押入れが附き、之に六尺の廊下が通してある。レーサム氏の持論は個室としても五坪を最小限度としたいと云つてゐるが先づ六疊か八疊あれば病室としては充分である。それよりももつと窓の構造に就いて改良を加へた方が効果を上げる事が出來る。この個室の一間の窓は圖の如く床上から天井まで全部開放される。前記の大病室のヴランダと病室との仕切りの腰、及びヴランダのない病室の南庭に面した窓の腰を、腰にせないで闌の下に板戸を附け自由に開閉の出來得るやうしたいと云つたのは斯うした構造の事である。病室は概ね高地に建てられてあるから塵埃の入るやうな惧れは全くない、換氣のためにも掃除の上にもこの方が餘良い。

ドラフト（隙間風）は重に各季の問題であるが若し發生する場所があつたら新聞紙をして密閉すればよい。塵埃を除けるには總てに直角を避け圓味をおばせ面は成るべく滑かにすることが必要であるが、それより掃除のし易い構造にしてその心懸けを忘れぬ方が完全である。各古屋の如きは硝子戸の棧まで直角を避けてあるが何時も塵埃がたまつてゐる。人間が

塵埃を作つておいてその責めを建物に負はせやうとするのはチト蟲がよすぎます。

五、病毒に感染せる器具を完全に湮滅し又は消毒する裝置を有す可き事

大阪、名古屋、(東京にも、私は知らないがおそらくあるだらう)には蒸氣消毒の設備があるが、消毒の完不完は設備の問題と相俟つて消毒係の人の努力(好意)が無ければ駄目である。

六、建物は醫師の巡回監督に便利なるやう設計さる可き事

七、醫局を設る可く構内を俯瞰し得る位置に置く事

建物は醫師の監督巡回の便ばかりでなく總てに連絡がつき便利でなければならぬ、(七)の問題は先づ現在の療養所としては必要を認めない。それよりも看護婦詰所を病室と病室との中央に硝子戸のボックスを作り患者の監督並に看護に便を圖る方が寧ろ必要である。大阪市本庄中野町に在る濟生會大阪府病院の看護婦詰所はこの注文通りのものである。尚夜間は不寢番の看護婦詰所に通ずる電鈴が是非必要である、夜中咯血したり腹痛を起したりした場合に同室の病人が態々呼びに行かねばならぬのは不便でもあるし、又時間も要する未だに各古屋市の療養所にはこの設備がない。『便所がない!』と叫びたいのはこの邊のことである。もう一つ醫員宿直室は是非危篤室の間近くに設けて貰ひたい呑氣なセンセイが長い廊下をとぼ〳〵とやつて來る内には急の病人はもうこと切れになつて終ふ。

八、成る可く男女の寢室の棟を別つこと、但し食堂又は運動場まで區別するの必要なし

男女の寢室を別たなければ安心出來ないやうな患者は、たとへ別つたとて安心は出來ない。先づそんな必要はなからう

九、サナトリアム内部及び構内の設備は次の四種類の患者に對し用意せらる可き事

イ、稍々自由に運動し得る患者

ロ、平地に於て僅少の運動をなし得る程度の患者

ハ、自己の病室に孤獨にて靜臥を要する程度の患者

ニ、運動し得ざるも他の數名の患者との接見を許可し得る程度の患者

以上の如く四種類にすれば申分ないが先づ施療を主とした療養所としては(イ)散歩の出來得る程度の患者(ヴランダ付の大病室に收容する者)(ロ)、絶體安靜を要する程度の患者(ヴランダの無い大病室に收容する者)(ハ)危篤患者(個室に收容する者)の三種類に別けそれに應じた設備をすればよい

一〇、訪問者に對する設備を制限する事。

しかし患者專用の應接は是非一つ必要である。

一一、建物内には圖書室兼用の娯樂室以外に娯樂に對する設備を要せず

一二、上肢を働かした亢奮を促す玉突庭球の如き競技に對する設備を要せず

一三、數箇の外氣室は有用なるも靜臥室に類似のものは建設の要なし

外氣室には据付けのベットか藤の仰臥椅子なり又は簡單な腰掛けを設備しておく必要がある。患者は何事も据え膳式でなければならない、ズルいのではなく無駄なエネルギーを

費すことがをしい故に。

一四、食堂及び料理場は全然患者の病室より隔離せしむること

大阪市の療養所は料理場と食堂と密接してゐるし餘り大きすぎて食べるのに慌しい氣持ちがする。食堂は大病室二箇に對し一つ宛設備し、成るべく眺望の利く所を選びたい。

一五、料理場の設備は最新式の様式に則り衛生的たる可きこと

一六、模範的の搾乳場及び農園を經營すべきこと

經費が許せば是非經營したい、輕症患者ならば養鷄や花園位の世話は退屈まぎれに喜んで遣る。

一七、水治療法に對する諸種の設備をなす可きこと

不必要。

一八、煖房裝置を備ふるも室内の溫度は外界の溫度より著しく上昇せしむ可からず、さすれば患者が其病室を離るゝ場合も溫度の激變を感ずる事もなく又室内の濕度も著しく減ずる虞れなき事。

大阪の療養所の話ではスチームを通し始めると定つて血痰を出す患者が續出すると云ふことである。名古屋の療養所ではヴランダの東西に大火鉢が二個ある許りでスチームも石炭ストーブの裝置もないが格別感冒に罹る者もなく左程寒いとも感じない。寧ろ衛生上にも抵抗力をつくる上にも無い方がよい。あればあつて良し、無ければ無くて濟む。無くて濟めばそれに越したことはない。

一九、風、過度の日光、或は激雨に備ふるため適當なる小バラックを構内及び其他適當の場所に設備すること

二〇、衣類を乾燥するため適當なる裝置をなすこと

二一、天候惡しき時の運動のために屋根を有する特別の設備をなすは不用なるも、建物の間を連絡するための屋根附きの通路を設備することは閙へなし

二二、實驗室其他の設備によりて治療診斷の方法を完全にすること

等、以上であるが要するに患者をして理想的の衛生々活を送らしめると共に、患者を居心地よくすればいゝのである。とまあ私の注文はこの位で切上げてさてと云ふかたちに結論ならざる結論に入る。

エピローグ

結核も恐ろしいが地震も恐ろしい。昨年關東地方に起つたあの大震災で無慘な最後を遂げた人が實に十餘萬人、と云ふに至つては今更戰慄を禁じ得ない。しかし茲に、飜つて考へてみるに結核のために毎年死亡する人が内務省の調査に依れば十四萬人を下らず、その罹病者に至つては無慮百三十萬人を算するに於ては之れ地震以上の戰慄を覺えるではないか。然るにその結核に依つて殪された十四萬人の生命に對しては一向驚かない。昨年の如き大震災は恐らく近き將來には再度突發することは先づ無からう、が結核地震は明年も明後年も十四萬餘の人命を惜みなく奪つて行く事は火を見るよりあきらかである。この奪はれて行く生命をフエータルな問題として、不可抗力にこと寄せ等閑に附しておいてよいか。

結核から受ける國家の損害は震災のそれの如く表面に現れるものではないがその額に於ては侮る可からざるものである當局が見えざるが故にその損害を成るが儘に任せて置くと云ふならば矛盾も甚しと云ふ可きである。政府が震災當時投げ出した救恤資金を今結核豫防並に治療に費したならば幾多の人命を救ふと共に遂には結核をして閉熄せしむる事も出來得るかも知れない人命に貴賤あるを聞かず。當局は宜敷く一奮あつて結核地震の徹底的豫防をなしその莫大なる國家的損害を未然に禦ぐ可きである。先づ『六分一乃至二分の一の補助』などとケチ臭いこと云はず政府は國庫を以つてどし〳〵結核サナトリアムを建て一日も早く結核軍を激破すべき時である一分遲るれば一人の生命を失ふ――。（完）

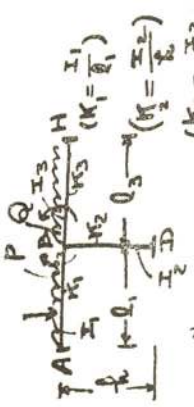


剛節架構の彎曲力率解法考案と其の研究（其の二）

大野直平

1 緒言（の2）

解方の趣意（の11）



第十五圖

第十五圖$ABHD$のT形フレームの公式$M_{BA}AB$を構材のB點のmomentとし、M_{BH}をBH構材のB點のmomentとし、M_BDをBD樣のB點のmomentを表し、PQはAB,BH梁上の load に依る load term ΣP又はΣQ、AHDは構材固定狀態の定數とす、

$$M_{BA}=\frac{(HK_3+DK_2)P+AK_1Q}{AK_1+DK_2+HK_3}\quad(9)$$

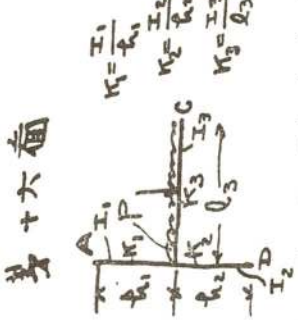
同樣に

$$M_{BH}=\frac{-(DK_2+AK_1)Q+HK_3P)}{AK_1+DK_2+HK_3}\cdots(10)$$

$$M_{BD}=\frac{DK_2(-P+Q)}{AK_1+DK_2+HK_3}\cdots\cdots(11)$$

A.H.D.點の momentは隣接 spanの member及びload termに關し、次にこれを表はす從つて梁のpossitive momentは次に表を得、

第十六圖橫T形フレームの公式



第十六圖

M_{BA}はAB柱のB點のmoment,

M_{BD}はBD柱のB點の moment.

M_{BC}はBC梁のB點のmoment.

PはBC梁上の load に依るΣ load term.

A.C.D.は固定狀態を表はす定數、

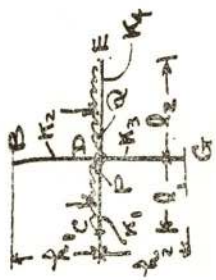
$$M_{BA}=\frac{+PAK_1}{AK_1+DK_2+CK_3}\cdots\cdots(12)$$

$$M_{BD}=\frac{+PDK_2}{AK_1+DK_2+CK_3}\cdots\cdots(13)$$

$$M_{BC}=\frac{-P(AK_1+DK_2)}{AK_1+DK_2+CK_3}\cdots\cdots(14)$$

A. C. D.の moment は他の基本公式に夫々該當して得られpossitive momentも從つて、兩端の momentを得たる後定まるものとす、

第十七圖十字形フレームの公式、



第十七圖

M_{DB}をBD構材D點のmomentとし、
M_{DG}をDG構材D點のmomentとし、
M_{DE}をDE構材D點のmomentとし、
M_{DC}をDC構材D點のmomentとし、
CD構材I_1.BD構材I_2.DE構材I_4.DG構材I_3.とを以て、$K_1=\frac{I_1}{l_1}$ $K_2=\frac{I_2}{h_1}$ $K_3=\frac{I_3}{h_2}$ $K_4=\frac{I_4}{l_2}$ P及びQは夫々構材に相當するΣ load term とす、$B.C.E.G.$は各々相當構材の固定狀態による定數とす、

$$M_{DC}=\frac{QDK_1+(BK_2+GK_3+EK_4)P}{CK_1+BK_2+GK_3+EK_4} \quad \cdots\cdots(15)$$

$$M_{DE}=\frac{-PEK_4-Q(CK_1+BK_2+GK_3)}{CK_1+BK_2+GK_3+EK_4} \quad \cdots\cdots(16)$$

$$M_{DG}=\frac{(-P+Q)GK_3}{CK_1+BK_2+GK_3+EK_4} \quad \cdots\cdots(17)$$

$$M_{DB}=\frac{BK_2(Q-P)}{CK_1+BK_2+GK_3+EK_4} \quad \cdots\cdots(18)$$

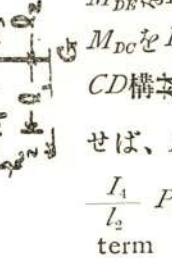
$B.C.E.G.$點のmomentは他の基本公式に夫々該當し possitive momentも從つて兩端の moment を得たる後定むるものとす

以上四基本公式に於て、基礎に該當する點は適當に假定するものとす、

4、(前記)公式中Kに乘ずる定數につきて、

slope deflection 公式中に適當に固定の條件を假定すれば、或一定の數を得べし、乃ち$2EK(2O_A+O_B)$に於てEKは構材に與へらるゝ定數と考へ$2(2O_A+O_B)$は構材B端の固定狀態を表はすと考ふるを得、而して下圖に於て、實際設計上近似的に往々假定し得る定數を得れば次の如し、

第十八圖



第十八圖に於てB端をヒンヂとせば slope deflection公式 (3) より、

$M_{AB}=2EK(+2O_A-O_B)-Q=4EKO_A-2EKO_B-Q$ 公式(4)より

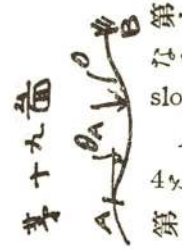
$M_{BA}=2EK(-2O_B+O_A)+Q=-4EKO_B+2EKO_A+Q=$

$\therefore -2EKO_B-EKO_A-\frac{Q}{2}$ これをM_{AB}式中に入れる、

$M_{AB}=3EKO_A-1.5\times Q$

乃ち定數は3となり、B點のload termは$A.B.$點剛節の場合の1.5倍となる、load moment の表參照せば明なり、逆に考ふれば定數3を得る場合はB點にmomentを有せざる意味となる

第十九圖



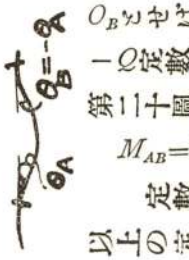
第十九圖に於てはB點を固定と考ふれば$O_B=0$となる

slope deflection 公式に於て

$M_{AB}=2EK(2O_A+O)-Q=4EKO_A-Q$ 定數$A=4$となる、

第二十圖に於ては兩端のslopd等しき場合、$O_A=-O_B$とせば、$M_{AB}=2EK(2O_A-O_A)-Q=2EK_AO-Q$ 定數、$A=2$

第二十圖

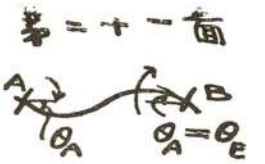


第二十圖第二十一圖に於て、$O_A=O_B$とせば、

$M_{AB}=2EK(2O_A+O_A)=6EKO_A$

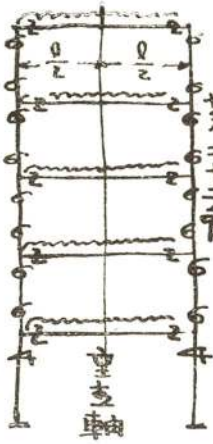
定數、$A=6$、となる、

以上の定數は架構の梁間の中心を垂直に立て

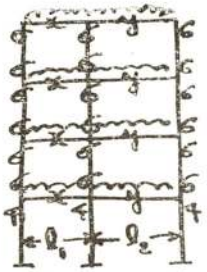


第二十一圖

たる軸に、對稱なるKの價を有し、且つ其loadが軸に對稱なる場合に、凡そ想像し得られ、定數を取れば前條基本の公式より、各剛節點の〇(slope)を求めずして momentを 求め得べし例へば二十二圖の如きone spanの架構に於て、側柱のK_cを各々等しく、梁のK_B を同じくする時略々圖示の如き定數を得るなり、勿論各階のloadは simmetory loadにして略々一致せるものと假定す、基礎は固定と假定す、

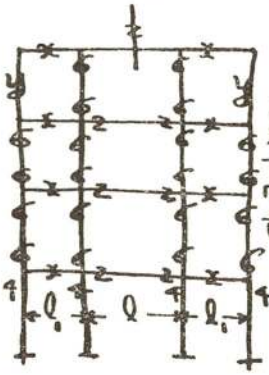


第二十二圖



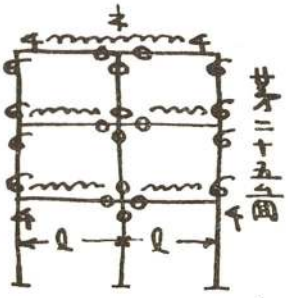
第二十三圖

多くの架構は或程度迄、此想像的定數を得るに、左程の困難を感じない、第二十三圖第二十四圖の如き圖中記入の數字は假定的のものなれども相當に近似的なり、xyは次章に於て明にする勿論第二十三圖に於ては對稱的ならざる爲に deflection（水平移動）を生ずれども假りに、適當の方法により之れを防ぐ場合を考へたる時、又は移動による momentを加減する場合を取りたるものとす、

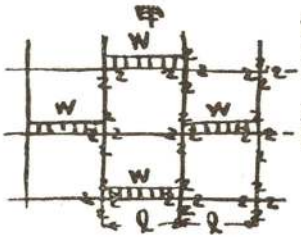


第二十四圖

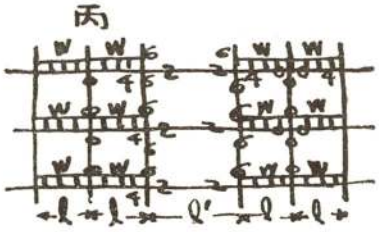
第二十五圖は各階左右spanのload term を中央垂直軸に對稱的に等しく取りたる場合、第二十六圖に示すものは、buildingの如き架構の一部分を取りて考ふるものにして、各階梁のK_Bを略々同じくし且つ柱のK_cを大體に一定し loadの simetory なる場合を想像すれば、圖示の如き定數を得、loadは同じ W



第二十五圖

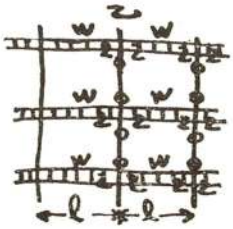


甲

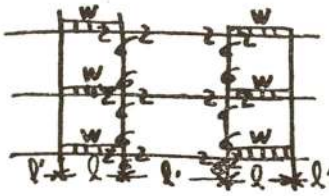


丙

第二十六圖



乙



丁

斯の如き定數は、常に一定不變のものにあらずして、構材の剛性はload termの狀態と、により變化する變動なれども、slopeの比を constentに取れば、自ら此數は定數となる、乃ち$2EK(2O_A+O_B)$に於て load termの有無に關せず、O_AとO_Bの 比を定むる事により、例へば、$O_B=SO_A$、にて表はす時$2EK(2O_A+O_B)=2EK(2O_A+SO_A)=2EK$

$O_A(2+S)=EKO_A(4+2S)$ ∴ 定數、$A=4+2S$、とし得べし

第二十一圖に於て、$O_B=O_A$ となせる時、slope の比 $S=1$. なり故に、$A=+4+2S=6$、の結果を得、斯の如くslopeの比を知れば、A,B,C. 等定數を得る故に、前記基本公式を使用して、復雑なる架構を解かんとすれば從つてOの比を求むる事が重要なる問題となる、

次に $\frac{O_B}{O_A}=S$ を種々變化して得たる定數を上ぐれば第一圖表の通りとす slope の比を下方横軸に取り相當する elastic curve に當り左して定數を得るものとす

5. Member 夫れ自體に transverse loads を受けざる場合他の member より傳はる moment 分布の割合、

第廿七圖を架構の一部分とし他の member よりmomentが傳つた場合、

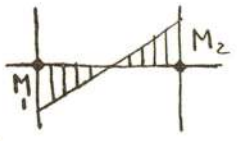
1.2構材の $\frac{I}{l}$ を K_1 とし、1點の slopeを θ とし2點のslope を $S\theta$ を以て表はせば slope deflectionの公式より

$$M_1=EK_1(2\theta+S\theta)=2(2+S)EK_1\theta$$

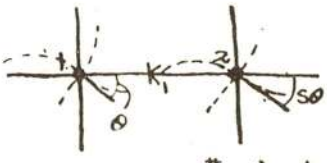
$$M_2=EK_1(2S\theta+\theta)=2(2S+1)EK_1\theta$$

member 兩端の moment の比は

$$\frac{M_2}{M_1}=\frac{2S+1}{2+S}\quad\cdots\cdots(19)$$



第廿七圖.



勿論



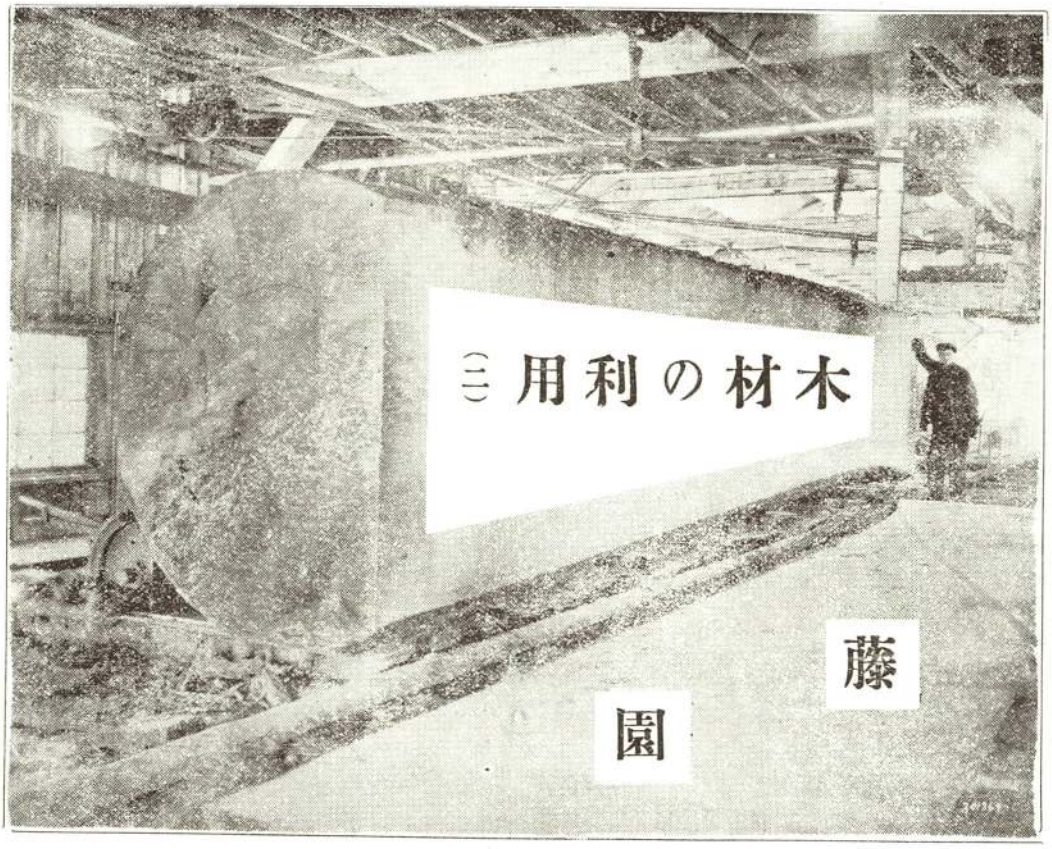
又は



の如き場合はSは一となる此 moment の比は構材の兩端よりmoment の傳はる場合及一方のものより傳はる場合何れにも用ふる事が出來る(19)式は架構のloadを別々に取扱ふてmoment の合計を得る場合に用ふると便利だと思ふ故に slope の比と固定の狀態による定數との關係を次にラインで表はし momentの比を擧げて置く、

七章に於て slope 比の公式を擧げて後に(19)又は同圖表の應用を例示する、

此の項未完なるも原稿組合せの都合上次號へ續く



木材の利用（二）

工業的性質（2）

◆紋　理

これは眠芽分岐して同心環狀に生長せる瘤、菌絲繁殖し爲めに生じたる瘤、各種の損傷により生長を不規則にされたるによりて生じ、又老木の幹形凹凸甚だしき部分、殊に根元の擴張部の爲めに生ず、凡そ年輪の走行不規則となる奇なる模樣を生ず、又曲面を與ふることによりても生ず。

今利用せらるるものを擧ぐれば

(イ)板目、柾目、木口の三切斷面の錯綜を利用するもの　ケヤキ、クス等の杢板を床廻り、裝飾材、指物材に用ふるが如し

(ロ)纖維、波狀を利用せるもの——光の反射によつて生ずるモミヂ、トチ、クスノキ等の皺紋の杢を利用す

(ハ)材に曲面を與へて生ずる杢を利用せるもの——皮目の方に年輪の密なるものを尙ぶ。桐胴丸火鉢の如し

(ニ)人工にて美化せられ、擬作せらるゝ杢を利用せるもの——スキの庭下駄の如きは燒きて摺り其杢を鮮明にして賞用するが如し

◆雅　致

我國の建築材、指物材、彫刻材等には、普通の美觀以外尙ほ一種あり、所謂粋なもの、凝つたもの、溢きもの等なり。

此等のものは多くの茶室、又は料理店の建築に賞用せられ、其他種々の細工を施し、文人墨客の愛玩する所なり

今利用するものを擧ぐれば

(イ)神代木(スギ、ケヤキ、カヤ)は其他雅味を帶ぶるを以て建築的裝飾用材、指物用材、時には置物彫刻用材として使用するが如し。

(ロ)埋木——其色黑色を呈し、光澤あり盆、茶托其他種々の器具を作りて愛用するが如し。

(ハ)名栗丸太——波形、竹節形、突鑿の三種あり、何れも雅致あるを以て其細きものは天井竿緣、格子、壁止、床用緣等とし、其太きものは棚、欄干等に使用するが如し。

(ニ)肥松——アカマツ、クロマツの根部等の樹脂浸潤し半透明となりたる部分を取り茶托、茶盆等に鏇作し、又は彫刻用材として愛用するが如し。

(ホ)古船材——船食虫の蝕孔一面に散布し、材色の暗灰なるものを板塀等に用ふれば、風雨に曝らさるゝも殆ど變化なく、目凝つたものとして愛用するが如し。

(ヘ)樹梢——殊に針葉樹の樹梢部の枝を少しづゝ殘して伐り落し剝皮して磨きたるものを門柱、又は床柱として使用すれば妙なるが如し。

(ト)大節材——ヒノキ、スギは板塀、天井板、欄間、等に賞用するが如し。

(チ)瘤の大なるもの——挽割りて額面となし、小なるものは其儘掛花活又は煙草入となすが如し。

(リ)水蝕材(深山の谷川中より發見せらるゝ枝節の水飾材)——磨きて掛花活となすが如し。

(ヌ)風飾材——(立枯木の多年風雨に曝されたるもの)——磨きても雅致あり、多くは床廻りに供し賞用するが如し。

(ル)虫蝕材——火鉢其他の指物用とし雅致あり。

(ヲ)腐朽材(木材の蒸朽して種々の模樣を現はしだるもの)——ブナ、モミヂ、トチ等に多く、ナラの老木にも往々蜂巢狀をなせるあり。此等は多く指物材に採用するが如し。

(ワ)洗出及砂摺はスギ、キリを磨き春材部凹陷し、秋材部を隆起せしめて材面に一種の趣を與へ指物、下駄等に利用し、又スギの柾目板の表面に細砂を散布して、磨擦すれば春材部に點々淺き砂痕を生じ、一種の雅致を呈するが故に戶棚、又は本箱等の鏡板に愛用するが如し。

(カ)皮附の儘磨きてアカマツ等を床柱に使用する如し。

(ヨ)友を剝ぎ磨きて床柱、棰、棹緣等に使用するものはスギの磨丸太の如し。

◆精　組

木材の精緻は粗野に對する名稱にして、其橫斷面に於ては年輪初明ならず、縱斷面に於ては秋材と春材とを區別するに困難なり。即ち春秋材の硬度の差少く孔環なく、且一般に導孔小に且髓線極めて微細なるをいふ。俗に『目の立たざる木』といふもの即ち是れなり。

木材の精粗は木材の外觀を左右するしみならず、木材工作の方法幷に工作品の價値を上下するものなり。是れは木材の種類によるのみなず、其立地氣候の關係によりて大なる影響を及ぼさるものなり。

今利用するものを擧ぐれば

(イ)彫刻材に利用せるもの——サクラは版木彫刻材として唯一の良材なり。ツゲは我國に於ける精材中の王にして美

術的繪畫の版木、木版、母字、印判等に賞用せらる、殊に灰木は木口強きを以て此斷面を利用する場合甚多し。其他ホホノキは又佛檀欄間彫刻の微細なる處に用ひ、ヒノキは少しく粗なる處に用ひ、ヒメコマツも亦用ひらるが如し。

『ロ』鏇作に利用せるもの——挽物は凡て木材の横摺りになすものなるを以て春秋材の差甚だしき時は平骨に仕上らず且材軟かなるときは光澤に乏し、故にサクラ、クワ、ホホノキ、ツゲ、ブナ、ヒノキ等を使するが如し。

(ハ)漆器板物木地に利用せるもの——ヒノギ、マアテを用ふるが如し。

(ニ)製圖板に利用せるもの——製圖板は針を挿すに容易なるものを要す、ヒノキ糸柾を最上とし、カツラ之に次ぎ、又サハラはヒノキに代用す、ホホノキは木理部分少しく堅く針を挿し難し。

(ホ)裁縫板、組板、蒲鉾板に利用せるもの——刀刃を損せざるものを要す、ホホノキを最上とす、裁縫板にはカツラを代用し、組板にはヤナギを可とし、ヒノキ、カツラを用ひ、蒲鉾臺はケヤキを以て作るも其表面にホホノキを附着せしむ、蒲鉾板はサハラ、モミ等を用ふるも上等の料理にありてはホホノキを用ふ、然らざれば刀刃を損す

(ヘ)張板に利用せるもの——カツラを最上とし、サハラ之に亞ぐ、ホホノキは狂ひを生ず。

(ト)洗濯板に利用せるもの——カツラを可とす、近來センノキを用ふるも木理粗なるを以て布質を損ずるといふ。

(チ)刀劍鞘に利用せるもの——古來よりホホノキを用ふ、刀刃を損せず、樹液の爲めに錆を生ずることなし。

(リ)道具の柄に利用せるもの——手鉤の柄、庖丁の柄にホホノキを用ふるは手に痘を生ぜざるを以てなり。

(ヌ)櫛に利せるもの——ツゲ櫛は齒先尖ることなく、毛髪に柔かく且平かに當り木櫛中の最食品なり。ツバキ、ビハイヌツゲ等を用ふるが如し。

(ル)尺度に利用せるもの——細き目を盛るにはツゲに限る、ツバキは之れに代用す。

(ヲ)鑄物木型に利用せるもの——齒輪其他微細なる處はホホノキを用ふるが如し。

(ワ)碁盤及將碁盤に利用せるもの——カヤ、イテウ、カツヲ等を使用するが如し。

(カ)學校塗板に刻用せるもの——イテウを使用するが如し。

(ヨ)機具及糸繰器械に利用せるもの——糸の當る部分はホホノキ、又はヒノキを用ふるが如し。

(タ)鉛筆に利用せるもの——ビヤクシンを最上とし、アララギ之れが代用材なるが如し。

◆形狀

一般の木材利用上より見れば、木材の形狀は直眞圓、長大にして完滿なるもの即ち圓柱狀に近くして、形數の大なるものを最上とす、殊に檣電柱、磨丸太、椽桁、竹材等に於て必要なり。唯或利用上屈曲材を要することあり、又斷面の歪圓形なるも妨なきものあり。

今利用するものを擧ぐれば

(イ)枝及根元の屈曲部を利用せるもの——造船材としてケヤ

キを最上とし、マツ、クを代用するが如し。

(ロ)堀取りたる根株の屈曲部を利用せるもの——各洋杖、洋傘柄の手元には、各種の濶葉樹の根堀を用ふるが如し。

(ハ)斷面歪圓形なるも妨なきもの——櫛、下駄の如きものにツゲ、キリを用ふるも歪圓形にても妨なし。

◆大　サ

(大材を要するもの)

今利用せらるものを擧ぐれば

(イ)堂宮建築——奈良の東大寺は我國に於ける最大なる木造建築にして聖武天皇の願に依り天平年間の創立係り寧樂朝時代に於て發達したる技術の代表者として、輪奐の美を極めたりしが、一度治承の兵燹に遭ひ、二度永祿の戰亂に烏有に歸し、僅かに元祿の再興により吾人をして昔時を望想せしむるも、建物は縮少し、權衡は破壞せられ、裝飾は殆ど皆無となり當時の壯觀復尋ぬべからず近世の建築に係る寺院と雖も、其柱梁材の如きは巨大なるものを要す、將來に於ては之れを得るに益々困難を感ずべし。

(ロ)造船材——大材を要し規程により最小限の龍骨を構成する各材の長さは船の首尾兩端に用ふるものを除く外三十有餘尺とせるが如し。又河船に於ても長九間板を要すと稱せらる。

(ハ)檣材——是亦大材を要しヒノキ、スギの長六十餘尺のものを使用するか如し。

(ニ)橋梁用材——亦同樣大材を要す。

(一定の大さを要するもの)

(一)用途を特定せざるもの

今製作利用せらるものを擧ぐれば

(イ)スギ柾板——目理齊整且つ紅色を帶びたるものより製材し天井板、戸板、障女の腰板、腰羽目等に使用するが如し。

(ロ)割材——直徑二尺內外のものを四ツ割となし酒桶、天井柾板、額緣、襖緣、屋根板等に使用するが如し。

(ハ)磨丸太——直徑二寸內外のものは庇樋、天井棹緣となし四寸內外のものは柱とし、四寸以上五寸位までは緣行とするが如し。

(ニ)丸太材——建築、土木工事に廣く使用せらるが如し。

(二)用途を特定せるもの

今製作利用せらるものを擧ぐれば

(イ)鐵道枕木——普通のものにありては長七尺、巾六寸七分厚四寸六分に製材するが如し。

(ロ)松丸太——多くは松の皮付のまゝ、直徑三寸より一尺位まで、長きも六尺より二十四尺に至るものを適當の所に使用するが如し。

(ハ)足場丸太——末長丸太は長三間より十間、末口直徑二寸五分より五寸に至る五分上りのものを使用し、切丸太は末口直徑一寸、三寸五分、四寸五分六、六寸のものを使用するが如し。

(ニ)電柱——長二十四尺より五十尺に至る二尺上り末口直徑は五寸より八寸五分に至る五寸上りを使用するが如し。

(ホ)川舟(川舟、渡舟、荷舟)——向野杉を以て船板を作るときは長三間より九間、巾は八寸より一尺二寸位、厚一寸二分位より二寸二三分までのものを適當に使用するが如し

(ヘ)兵器用材——カシ材より多く製作し、轅桿、標桿、手斧柄等に使用するが如し。

(ト)漆器木地——丸物は木口挽にして、末口直徑三寸以上のものを用ひ、大さにより二ツ割、三ツ割、六ツ割として適當の大さに製作して使用するが如し。

板物は輪島にて用ふるマアテは周圍四尺以上とす、膳の鏡板は必ず一枚板を用ひ、決しく矧ぐことなし、之れに反し會津塗は板を二分して再び之を反對に矧ぎ合せて使用するが如し。

(チ)四方柾の柱——之れは末口直徑二尺以上あるを要すと稱せらる。

(リ)琴甲——キリ材長六尺五寸、末口直徑九寸以上一尺三寸位、周邊の年輪狹くして數多きを可とす。磯の厚凡一寸五分に對し年輪數三—四のもの最下等とし、七—八を中とし、十五以上を最上と稱せらる。

(ヌ)彫刻——置物彫刻にありては高さ一尺のものなれば直徑一尺五寸のもの半割材、高二尺五寸のものなれば直徑三上のもの丶半割材を使用するが如し。

(ル)荷棒——スギ材直徑五寸より一尺までの心材を去り、邊材のみを使用するが如し。

(ヲ)艫——イチヒガシの目通周圍五尺以上、長さは最小十一尺、最大に十四尺位のものを多く二ツ割として、長さ十尺より二十三尺までのものを製作するが如し。

(ワ)艫枕——ウバメカシの直徑三四寸、長六尺の丸太材より製作するが如し。

(カ)指櫂——長さ一丈より二十二尺迄あり。オールはシヲジ目通周圍六尺以上年輪の幅凡そ一分位のものより製作するが如し。

(ヨ)檣　多くは杉材を用ひるが如し。

(タ)酒樽——目通周圍二尺五寸乃至五尺のものより製し、周圍三尺五寸のものを最可とす、末木は建築用材として使用するが如し。

(レ)裁物板——和服用長さ鯨尺三尺乃至四尺、巾一尺三寸、厚さ一寸乃至一寸三分。洋服用は長六尺、巾三尺、厚三寸より製作するが如し。

(ソ)張板——長六尺、巾一尺三寸、厚六分のものより作る。

(ツ)桐胴丸火鉢——直徑一尺以上一尺六七寸正圓なるものより製作するが如し。

(ネ)下駄——キリ長六尺四寸、末口周圍一尺九寸乃至二尺のものを用ひ、周圍一尺二寸以下のものは心を去り足駄甲良とす、周圍九寸前後のものは小供用心持下駄として使用するが如し。下駄はキリにありては木理の數多く且其間隔均一なるものにして材の下等なるものを用ふるが如し。

(ナ)櫛——直徑九六寸のものを用ふるが如し。

(ラ)臼——直徑一尺乃至三尺高さ二尺内外のものを用ふ。

(ム)洋傘柄——長さ三尺七八寸より四尺、直徑四分より六分五厘位まで用ふるが如し。

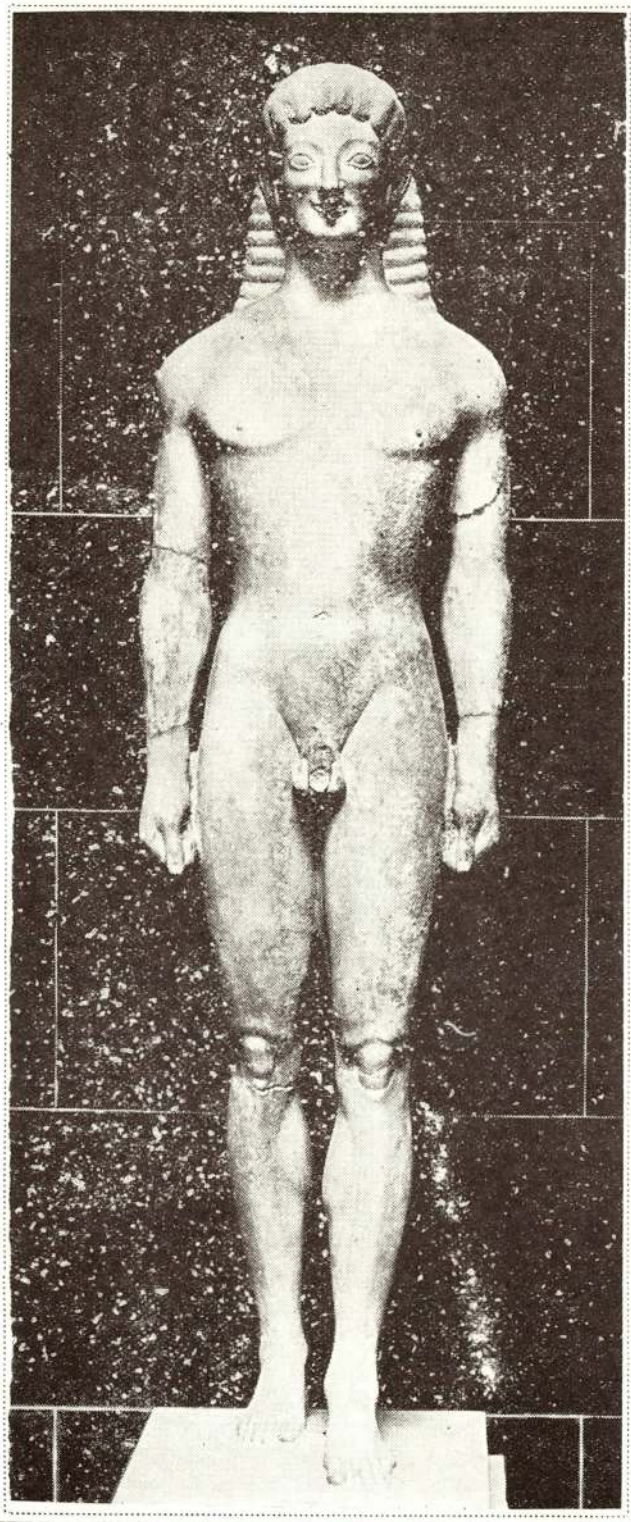
(ウ)洋杖——長三尺乃至四尺にして直徑は一定せざるも、洋傘柄よりき太き故、多くは其不合格品を用ふるが如し。

(井)碁盤——柾目取となすときは直徑四尺前後の大木より製作するが如し。

(ノ)燐寸軸木——最適なるは直徑一尺乃至一尺二三寸にして六寸以上は用に堪ゆと稱して使用するが如し。(未完)

希臘時代の彫刻概論

(3)



古塚正治

前號まで

■緒論　■第一期時代（起源）（第一類）

■第二期時代（紀元前約七世紀以降同約七世紀半頃迄）（1）

編頭挿圖

■テネアから發掘せるアポロン像
"Apollon" von Tenea

■（所在）ミュンツヘン市グリプトテーク所藏
（材質）大理石（年代）紀元前六世紀（樣式）イオニアン樣極々初期

第二期時代（2）

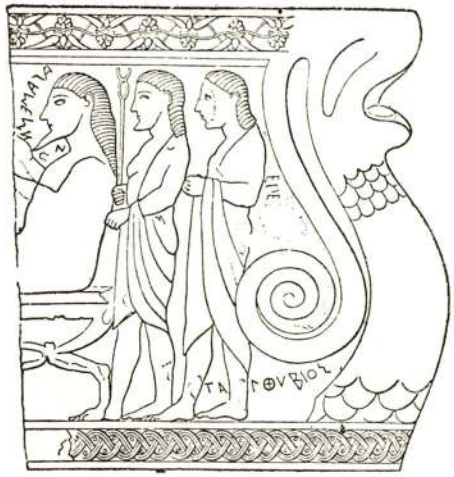
其後人間立姿の裸體像を形どりて造られたる彫刻物として現存するものにアポロ神の彫像がある。――或は其他の名稱を以てすべきかも知れない、挿畫解說參照――兎に角、紀元前六世紀の前半以降になつて斯うした彫刻が人間死後の迷路の導者として時の衆庶が歸依禮拜の的とした神の偶像の主なるものであつた。斯種の彫刻上に注がれたイネニヤン及びドリヤン民族の手法はなほ顯著に區劃することが出來る、例へば圓滑な氣分に富み肩が隋轉れ、形而上に倦怠と疲勞的な氣分が多分にあつて潑溂たる氣力のあるところが見られない、それがイオニヤン民族の氣風であり表現の手法でもあつた。ドリヤン民族のスピリットの入つたものにはあく迄で力強い感じが明瞭りとうけとられる、頑張つた男らしい肉の感じの表徵が感得出來る。斯うした二つの相異つた形而化上の特異な手法が齎てアヂック丘上に相混樣したまでの間、尙少時くその儘に分れた二つの道程を辿つてゐる。

獨逸ミュンヘン市のグリプトテークに蒐集せられてゐるペロポネーズ（テネア）より發掘せられたと云ふアポロン神を見ると、それは未だ完成の境への過渡期のものではあるが且つて此期に到る迄で見たことのない異常な發達が認められようと（斯の編の首めに揭げたるアポロン女像參照）

その腕と身體との間が今までのものゝ如うに密着しないで離れて來たと云ふことである。兩足の一方が他方より少しく踏み出してゐるのは、尙完全ではないが兎に角少しく歩むと云ふ動作の氣持を表現することに努力し始めたことが了る。關節は明らかに寫實せられ、身體の各部の均衡にもさして無理がない如うである全く此時期までに見られた、醜惡な相貌と、遲緩した肉の表現の跡を斷つて、あでやかな微笑を以ておき換へられたところに隔世の進境を見出し得るのである。斯の微笑が衆庶信仰の上に善眞の標的となり、渴仰の焦點として、疑惑の迷想を解くに何れ程強い力となつたかは想像に難くない。

けれ共前にも言つた通りまだ彫刻の醇眞善美の神境に入つてゐないのは爭はれない、そこには卒直な氣分が溢れてゐない。生氣の充滿と云ふまでの趣きが不足してゐる。彫刻家の靈が深刻に注ぎ込まれ希臘彫刻藝術が、異常な細心の努力と吾人が憧憬するところの理想境への道程がこの期に於て極めて急速に接近しつゝあるのを想はしめる。手が放心の形態か

ら脫して、その由緣を明らかにし、身體の容姿が埃及土人のなした如うな一種規範に捉はれた形から脫して、身振を豐かに自由な氣分を表現して來たことは確に此時期に始つた新手法である。所謂希臘彫刻の特徵の一とする、何れの彫刻の上にも動作の表現の內に肉體美の描寫を驚く可き微妙に寫實し、鬪士と、神の彫刻との神境を創造する前提として明かに認め得られよう。



第六圖

其他、アポロン系に屬する彫刻にベチオに於けるオルコメーヌ、テーラ、ミロ、アリチン、等に於て發見せられたるものが數個、今アデンの博物館に蒐集せられてゐる。就中、デルヒにある、ボリメデス、ダルゴスは活氣の横溢せる表情を以て著名である。

また此時代に屬するものゝ內に着衣の女像を表はしたものもある。巴里ルーブル博物館に所藏せられてゐるサモスラス島より發見したる薄肉彫刻は斯種に屬するものである——第六圖參照——それはアガメノン神が椅子に腰掛けたる後方にエペイオスとタルチイビオスの二侍女神が扈從してゐる構圖となつてゐる。圖は見らるゝ通り眼が其顏全體であるかの如うな氣分から未だ完全に脫し切らないでゐる。頭髮は唯だ規則的に正しく束髮狀に梳付けられ、身體には布を卷きつけた狀の衣服を着してゐる。それに刻まれた記銘によると、その意匠せられた主旨も大體に推考出來る。それは紀元前七世紀より六世紀の前年即ちオリンピアッドの四十年頃の人情風俗の表徵せられたものであることが了る。こゝにも亦、それが木彫から出發したものであろうと云ふ根蹟を物語つてゐるのが了ろう。

そして木彫から發達したものであると云ふ說を裏書するものにデロスのアルテミス神へナクソスの或女から捧げた敬幕のシンボルである『美しい像』と云ふのがある。木の角を丸めたに過ぎないと云ふ感じがする。

重ねて云はう、吾人の賞讃するところの所謂希臘の彫刻も、その始めは斯うした未成期の經驗が幾度も重ねられ、絶へざる酷苦精研の練磨が繰り返へされた結果であることを。彼のアフロデイトの空前絶後の美の表徵も實はデロスの貧弱な繪馬の薄肉彫刻の內に胚胎してゐた譯であつた。

これを要するに紀元前六世紀の前半を界として希臘時代の彫刻藝術は格段の進境に入つたのであつた。これ迄での直立姿勢と按倚の姿勢とを採つた彫刻は漸次減じて、動作の表徵に意を灌いで來た傾向が明かとなつてゐる。蓋し亞典の國立博物館に藏するデロスの勝利は、この過渡期を語るに最も好適な遺蹟である——第七圖參照——その着衣の內はピッタリと身體に添ひ付いてゐる。けれ共、尙ほ形而上の抑揚に粗野な原始味が拔け切らないでゐるのが見られる。踏み出した足にも甘味らしいところが見られないで、

唯だ前方へ角々しく屈膝した迄での如うにしか想へない。このポーズによつて、吾人は歩行が可能であるとは考へ得られまい。しかし、上半身は下體部を斯うした表情においた場合の姿勢としては無理がない。頭髪は波狀に箝付けられて、下げ髪に兩肩から胸の上へ垂れてゐる。そして彩色仕上げとなつてゐる。即ち眞の甘味には缺けてはゐるが、表情と、動作ポーズの上の進境、贔て理想の域に達せんとする過渡期を物語る興味ある資料たるには充分である。



第七圖

一足飛びに然うした理想の境域を望むは勿論無理な願ひである空中に樓閣の迷夢であり、輕術師の危い綱渡りの如うなものだ。脫骨解剖に遭ふ如うな苦痛を嘗めなければならない以上に幾多の變化が繰り返され、それを踏み破つた結果であらねばなるまい。

醇眞善美の理想境！彫刻を見て何の點から云つても否難の點が悉無となる迄でに達すると云ふことは何んなに困難なことであつただろう。恐らく今日の如うに塑像の上に習作して見ることが全く、無くそして此難問題を解決した迄での道程。その間に恁うした彼女の像がおかれてゐると云ふこと。

それは原始的な形像が漸々に進んで來て、理想境への今二三歩の前におかれてゐると云ふ事がそれが何と云ふ自然的な事であり、正直な回答であるではだらう？恁うして上記して來た吾人の經驗が確かであつた事を嬉ぶものである。吾人が二千幾百年の昔に逆登つて、古代希臘の影前發達史上を探りに、とぼ〳〵と旅して行く道程に、斯種の好導誘者を得たことに感謝を捧げなければなるまい。蓋しデロスの勝利はチオの一藝術家の手になされたものであつた。

第三期時代——黎明期
自西曆紀元前五百十年
至〃　四百六十年

西曆紀元前六世紀の後半以降五世紀の前半迄を希臘彫刻藝術て發達史上、これを第三期時代、または、黄金時代を將に劃せんとする黎明期と名稱しよう。

蓋し此時代に於て、當時の希臘共和國は、統領の爲政が藝術勃興の氣運を助長し、各都市は開發せられ、富の度は日毎に倍加し、交通大いに開けて共和國の殷盛は所謂旭日昇天の慨があつた。この時に當つて大藝術家が各地に、一時に生れ合はしたのであつたから、古代希臘の彫刻界は格段の進境を見たのも偶然ではなかつたと云つて好い。

スパルト系では、建築家であり、彫刻家であつた大匠出でゝアテナ神殿設計と監督に任せられ、これを裝飾するにドリ

ヤン神話を題材とした青銅造の薄肉彫刻で裝飾した事が知られてゐる。ラコニヱル（スパルト地方）からは間もなくヱリデ（オリンピヤ）のアルチス内に蒐集せられてゐるル、ボア、サクレー、ドウ、オリンピヤは此時代の代表的彫刻の多くを遺してゐる。また、ヱレーヌの藝術家としてはカルロンがあり、メツセーヌを首都とせし地方には所謂メツセニヱン青銅彫刻が隆盛に赴いてゐる。

シイヨンにはヂイボニオスとスキイルリスの大匠を出す爲めの準備としてクレトアーズから傳統した永い經過の流れが急速度に加速して來た。その彫金術には愈々見るべき幾多の遺蹟がある。次でオリンピヤドの六十四年（西紀前四百七十六年）の頃にはクレトアーズの一名匠アリストクレーヌがシドニーに顯はれて一樣式を創設してゐる。クレオヱタスと其子は全然獨想的な樣式の上にオリンピヤに聲を擧げ次で、アテンアクロポール上に或る戰士の像を造つた。

アリストクレースとクレオヱタスの子は一つの傳習所を設けて多くの子弟養成に務めたものである。有名なヱジヌのシイン。ヌーンチオのバンチアス等もこゝに學んだ者であつたと云はれてゐる。其他に二代目アリストクレース及その兄弟乃至はカナコオス等の如きが出でゝ多くの作品をシイヨンに遺してゐる。彼等は此時代の當初に出でゝ黎明の警鐘を打つたドリヤン系の大匠達であつた。

希臘大陸は特にチイヤス。ポリクレート等の合匠の舞臺とすべき準備に忙殺せられてゐたと云ふ可き時である。

他端小亞細亞のトロード乃至はイオニアン民族系に屬する地域にも亦、ドリヤン系に相匹敵して多くの名匠が陸續として現出した。丁度此時代の希臘には彫刻家の一大饗宴會が開かれたかの感じがある。

殊に彼等二民族の合同連盟が確立し、交通が頻繁に行はれ、特異の美長所が融合しあつて希臘彫刻界を光明に輝やかす時期が倒來せんとしつゝあるのが想像出來る。或は紀元前五百四五十年の頃に、時のイオニヤ王であつた、シールスは其住民と共に或る規約の下に屈服したらしい。そして、これに從屬して起つた問題は彼等の居住した島岐から多くの彫刻家が希臘本土へ移住して來たことであつた即ち、鑄金師スミルスはヱーリドを訪ひオリンピヤに旅行してゐる。次でオリンピヤドの七十年（西紀前五百年頃）にはヱージネートのカルロンがドリヤン藝術家の門に學び、其藝術はスパルト及びヱリンスに遺されてゐる、その作品の上にはドリヤン樣式が少なからず加味せられてゐるのが了る。其他にグラウキアス。アナクザゴラス。カリテレース。シモン。インスーン。プトリコース。ゼーランボオス。テオフロポース等の多くが輩出したのも丁度此時期であつたルーブル博物館に藏する怪力神ヘラクレスが半人半馬の怪物を捕へてゐる彫刻がある。その油切つた半影像、豪壯にして重々しい感じの内に一見眞に迫るかの想がある。

シリー島にはセリノンテンメトープに現はれた彼等の傳統的藝術の上に特有の表徵手法が齎らされて來た。青銅彫像の術も扱い易い板金を以て打出し裝飾として、より好い結果の成功を納めたものがある。越えてデルヒのシーヨンの寶物庫にあつたと云はれるメトープの薄肉彫刻の如きも、斯等の時期から間もなく出來上つた親類筋のものと見られてゐる。（第七圖參照圖）に見て直ちに了る如うに格段なる進步の跡が認め得られる。またスパルトから發堀せられた葬具の上に施

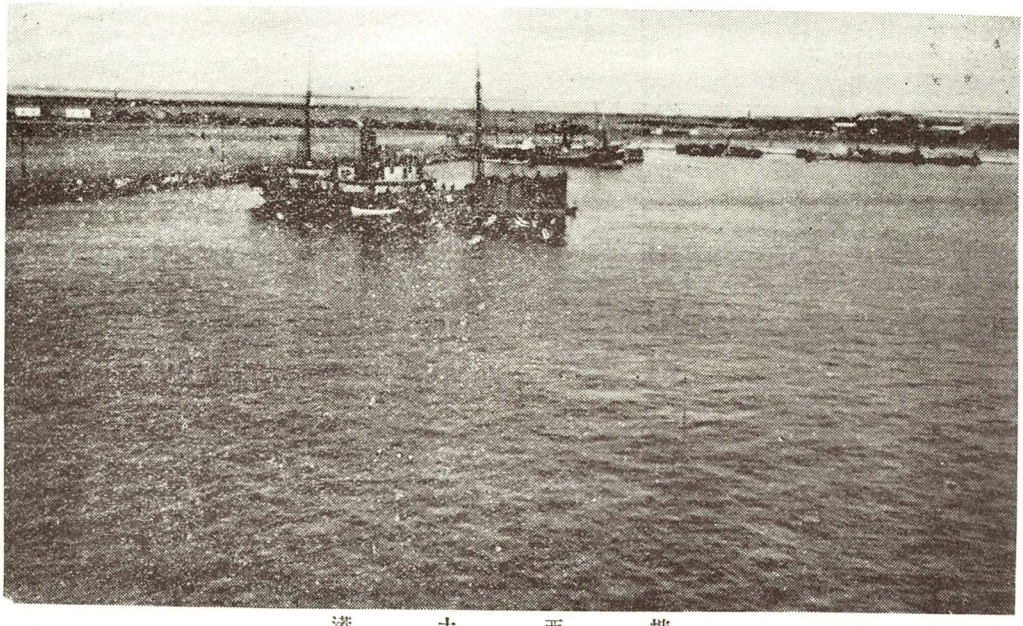
された薄肉彫刻の描畫の手法が、如何にも纖細な線で能く活氣のある氣分を漂はしてゐるのもある。殊にアチックのアクロポールの上に、殿堂が造營せられて、其破風を裝飾したる榮ゑある裝飾彫刻の上に恁うした手法が浸潤して行つたのであつた。

興味ある點は彼等がなしたる石造彫刻として此當時迄で使用したる主要材料が大理石でなくて一種の凝灰岩の類であつた事である。そのタッフ岩は石灰質の白堊性で柔軟なる爲めに加工が非常に易々たる技であつた。それを刻ぐにも、削るにも、また割り取るにもたゞ一丁の尖つた鑿で易く出來たと云ふ事であつた、確に、アチック彫刻の完成期を大成せしむる程至難な業を斯くの如く容易ならしめたる一大原因をなしてゐると考へられる。

アクロポリスの博物館に所藏せられる破風の裝飾彫刻に怪力神ヘラクレスが九頭蛇を捉へてゐるところと、ヘラクレスがチイホンと闘つて彼れを屍してオリンピヤに齎らしたる薄肉彫刻と、タウローが二匹の獅子に喰ひ殺されてゐるロンドボッスのものとがある。斯等の彫刻上に用ひた手法を解剖して見ると、構圖の何れの點と何れの形とを呼はず、纖細なる點に列る迄で能く想つてゐる。解剖上の智識も行き届いてゐる如うである。總ての動作はあく迄で力強く深刻に行つてゐるのが了る。或は全體が完備してゐるとしたら、メトープの如うな整然とした形の内におき込まれた裝飾であつたのだろうとも考へしめる。或は亦 切妻屋根の兩翼を引き締めた破風の上に、集合的に取付けられた裝飾の一部分であつたかとも考へ得られる。そして恁う云つた手法が當時の彫刻樣式の主要なものであつたゞろうと想ふのである。斯の種の吾人の斷定を裏書するものとしてオリンピヤとパルテノン殿堂の破風の裝飾彫刻が何れも斯種に近い自由と力とに滿ちたものであることを附記しておきたい。

自尊自重は宗教に次で總ての不德を
控御する力あるものなり

（ベーコン）



坡西土港

開路市——坡西土——暴夜墓地——解纜

——續々埃及紀行(二一・終)——

八戸成蟲樓

十一月六日　　月曜・好晴

朝食をしたのはいつもの様に一番であつた、給仕人も亦いつもの様に人の懐へ手を突込まんばかりにしたが、こつちは憚りながらもう上埃及迄歩いて來て、而も最優等(?)の成績を以て卒業してゐるから、最早黒ん坊なんか何とも思はず、泰然自若、悠然と手を振りて拒絶の意を明らかにし、昨夜やつておいたではないか、あれで充分な筈じやアーンといつた様な顔をしてみせてやつた。

室へ戻り手早く仕度——といつても唯帽子を冠つた丈け——をして今朝九時といふ約束を間違へぬ様に寫眞屋へ現像及び燒附をとりに行くべく外出したら、通りの角でサラーに出逢つた。埃及入國以來私は全然銅貨をみた事がないので、其理由を尋ねたら、サラーの答に銅貨は今は廢止になつたがなくもないから探しておくといつた、私は見本にほしいからあつたら持つて來てくれと賴んでおいたら、彼は承諾したが昨日分れる迄何も言はなかつたから、こつちも知らん顔をしてゐたのに、いゝ加減なチヤラツポコでもなかつたと見え、彼は夫れを持つて來たのであつた。私が今朝寫眞屋へ行くのを知つてゐて途中に待

伏せをしてゐたのであつた。

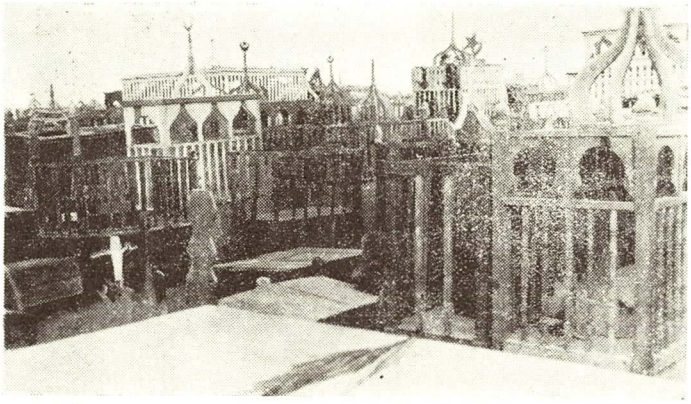
私は旅行をした國々の紙幣・銀・銅・白銅の小錢・郵便はがき切手・電車乘合自働車の切符類・入場券等を面白いから手當り次第蒐集してきた。古いのぢやない、何れも現行のものである。子供らしい物好きと笑ひ給ふ勿れ、ほんとの事を白狀すれば此等の他驛賣辨當の袋・チヨコレートの包紙・マッチのレーベル・宿屋の請取何でも彼でも集めて來たのだ、でこんな紙屑はたまればたまる程やめられなくなる。錢だつて岐度さうに違ひないが、昔しから緣が薄くて一向たまらぬ、だからほんとの事はわからぬ。だからせめて外國旅行の記念に紙屑をためたのである。銀貨銅貨紙幣亦然り、例へ今廢止された にせよつい此の間迄立派に通用してゐた銅貨の一枚位もつて歸らざれば、ルクソルの太つちようのラムネ屋ぢやないが、夫れこそShameであると考へたのである、何と立派な考へではないか。

彼は二三の銅貨の他希臘・土耳古等の現行白銅貨を取交せて私にくれると言つた、併し彼は職業的案內人である以上、そして而も彼と連絡のある店で何一つ買はなかつた以上、も一つお負に彼がヌビアの土人である以上、たゞでくれる筈がない。いくらやると言つたからとて、たゞで貰ふ程頭は惡くない。そこで後に惡口を言はれぬ程度に心附をやつた、そして寫眞屋迄一所に行つた、これは私が賴んだのではない、彼の申出を承諾したのである。

九時二分前に寫眞屋へ行つたのに店は未だ閉つてゐた。仕方なしに店の前で待つてゐると女番頭が來た、愛想よく『お待遠さま、主人はヘリオポリスに住んでゐて毎朝電車で通ひますから、萬一故障があると自然遲刻します、今朝も岐度さうでせう、私も入れません』といつて同じく待つ、暫くしたら主人が來た、遠くから見つけたと見へ、帽子を振りニコニコ笑ひながら、私はヘリオポリスから毎朝通ふので、とやり出したから、電車の故障かときくと、停電したので氣が氣でなかつたといつた。彼は約束の時間より十五分遲刻したのであつた。寫眞は上埃及の分は燒附が出來たし、昨日市中で撮つたのは唯一枚失敗した丈けで、あとは全部よかつた。

夫れから歸宿して荷物を持つて驛へ行つた、汽車は正十一時發である、例の如く番頭大に斡旋をした。宿屋を出る例の如く用もないのに大勢玄關に並び手を出した事は態々記すにも及ぶまい。發車迄の十五分間を車內にて待つてゐると、窓口へ驛賣が來る、一人斷ると次のが來る殊にうるさいのは雜誌賣で窓から雜誌を突き込んで人の鼻の先きに出す、知らん顏をして橫を向いてゐると膝の上へ投げる、直にとつて首から下げてゐる箱の中へ投り込む、買はぬとみて惡口をいふ、到底始末におへぬ奴等である。

汽車はすいてゐて大に好都合であつた。去る二日上

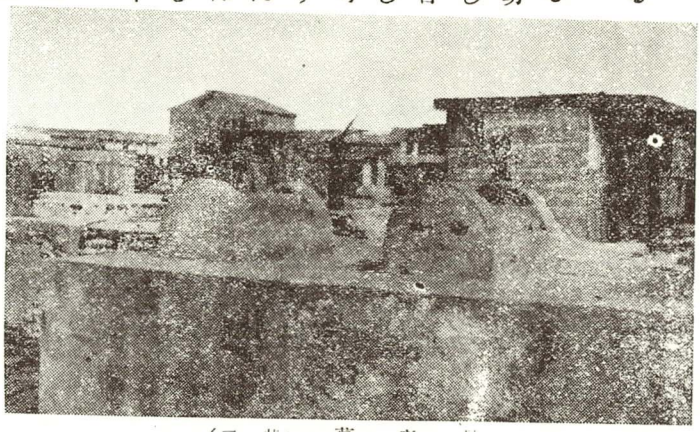


暴君墓（其一）

埃及の食堂車ではたつた二人であつたのに、今日は夫れでも七人ゐた、汽車は正三時無事坡西土着、最早再び此國の汽車へのる事はあるまい。汽車といへば此國の汽車にはトンネルが一つもない。夫れは其筈で年百年中内流河に沿ふてのみ走つてゐるのだから、トンネルの出來る事はない。ワヂ、ハルアフとカーツーム間だつた恐らくあるまい。世界中トンネル一つもない國はめつたにあるまい。

汽車が坡西土の終點へ着いたので下車すると、そこへ大黒帽を冠つた男が來て、船の切符を買ふのだから旅券を貸せといつた、そして自分は怪しき者に非ずといふ證として先日南部氏の書いた私の姓名及船の等級等を記した紙片を出して見せた。どうも間違はないらしいから其紙片へ署名させて私が受取、代りに旅券を渡した、そして南部氏の店へ行つたら、主人がゐたから先づ先日來の禮を述べたら先方から、驛へ旅券を借りにやつたが渡してくれたかといつたので、最早疑ふ餘地なく大に安心をしたのであつた。

今夜泊るのにどこへか宿をとらねばならぬどこがいゝか尋ねてみたら、海岸通の海濱館(Marina Palace Hotel)へ案内をしてくれた。二階の第十五號室で通りに面してはゐるが室の前に廣椽があるので工合がいゝ、そして甚だゆつくりした氣分になつた。何にしろ一番厄介に思つてゐた旅行を終了して最早船を待つ斗りであるから、今日位落着いた事はない。夕食をすましてから椅子を椽側へ持出して港の月をみた、大分に圓いから十三日位であらう、海に寫つて甚だ綺麗である、涼しい風さへ吹いて來て非常ないゝ氣持である。



墓夜基（其二）

先月一日白耳義國安土府を解纜して坡西土へ向ふとき、豫て覺悟をしてゐたのに、西洋幽靈の本場たる備助灣は平穩で風波なく、いゝ月でまるで瀨戸内を航行してゐる樣であつた、お蔭で船幽靈は影を潜め一疋も出なかつた、續て西葡沖の月、地中海の月、モロツコ、チユニス、トリポリの山の端の月をみて、次は開路市の新月、内流遊覽船の月、明日庵の月の上に坡西土港の月迄みたのだから、殆んど月は卒業して了つた、其上に蚊も居らぬから、割合に粗末な宿だがすつかり納まつてしまつた。湯は明朝でなくてはないとの事で、仕方なしに我慢しておいた、此の間十四日間入れなかつた事を思へば何でもない。

十一月七日　火曜・好晴

六時半起床七時入浴、朝食を了つて室へ戻つた頃驟雨一過した、たつた一日の事で阿弗利加の雨に遇つたのである。豫てサラーがめつたに雨は降らぬ、降つても十五分かせいぜい二十分ですむといつたが如何にも其通り二十分間ですつかり晴れて了つた。夫れから南部氏を訪問して船の切符と旅券とを受取つたが、此時船は

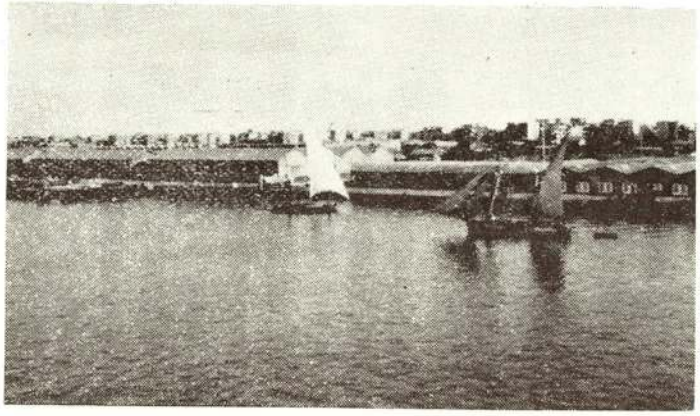
いつつくか判らぬ、どうせ夜であらう、夜だと出るのは明朝になるときいた、扨てはもう一夜泊る事か、夫れもよからう悪いといつたところで仕方がない、併し何れにしても乘船するに就ては荷物を如何に運搬するが最も便利かときいてみたら、夫れなら宿の番頭にさういつてラガブといふ男を呼んで命ずるのが一番よろしい、あの男なら決して不都合はせぬと南部氏が保證をしたので、歸宿すると直に其通り番頭にラガブを呼んでくれといつておいたら間もなく來た。ところが面會してみて驚いた、先方でも知らん顏をし、私も勿論初對面のやうな風にしてゐたが、知らんどころか、先月十四日驛の歩廊で汽車へのるとき一寸口角泡を飛ばさんとした男であつた。

夫れはかうである。其日私は開路市へ向ふべく午後零時半發の汽車へ乘らうとして、赤帽に荷物を持たせて歩廊を歩いてゐると、太つた男が私を呼びとめ、開路の宿はきめたかときくから、唯一言『うん』といつて車中に入り席をとつて荷物を案配し、發車迄には未だ時間が少しあるので、よせばよかつたが新聞紙でも買つてみやうかと、再び歩廊に下りたら其男は未だゐて、いきなり私に宿屋はどこへ行くときくから、別段言つても差支はないと思ひ牧羊館だと答へたら、懐中から汚れた手帳を出して名をかいてくれといつたから、一も二もなく拒絶をしたが、先方はしつこく頼む、そこで次の様な問答が彼との間に初まつた。『君は何者か』『牧羊館へ行くお客さんは皆此手帳へ名をかいて頂いてゐます』『牧羊館とはどんな關係があるのか』『ポータアです』『證據があるか』彼は隱しから牧羊館と陽刻した二本の脚のある小型金屬製の帽子の徽章の樣なものを出してみせた、『なぜ夫れをしまつておくのか』『しまつておいても帽子へつけておいても同じ事です』私は何故に彼が此徽章をつけぬかを疑つたのである、そしてすつかり悪く解譯をして彼は岐度此徽章を拾得したのであらうそして自分は牧羊館のポータアであるかの如く裝ひ、掠鳥を引かけて牧羊館へ電報を打ち、自分が周旋した如く見せかけて金にするのだらうと思つたから、『名なんか書くのはいやだ』『かいてくれてもいゝでせう』『何の爲めか』『電報を打て萬事不都合のない樣にさせます』『夫れから先刻南部さんに打つて貰つたからもう再び打つに及ばぬ、名はかゝぬ』ときつぱり斷つた、そしたら彼も多少癪に觸つたと見え少しく顏色を變へたが、私は彼を尻目にかけて汽車の中へ入つて了つたのであつた。

其男であつた。其同じ男が同じ洋服を一着に及び同じ大黒帽を冠り海濱館に現れたのだから一寸驚かされたのである。まさかラガブとは此男とは思はなかつた。併しまあ仕方がない、南部氏が推薦したからには間違ひもなからう、こつちもむかうもお互に少しく工合が悪かつたが、そんな事は屁氣にも出さず、南部さんの推薦で君を呼んだが明日孟買行の船へのるのだから荷物を宜しく頼む、といつたら委細承知をして歸つて行つたが、間もなく南部氏は更に土人一名を連れて來て、荷物の始末は成るべく此男に命じてくれといふから、私はたつた今ラガブに命じた斗りだといつたらいやどつちでも同じ事だといつて直に歸つて行つたが、男の顏には確かに失望の色が浮んでゐた。

午後になつて急に思ひついて、こゝには別に觀るものはな

いとの事だから、せめて墓地へでも行つてみやうと考へた、併し夫れには案内人が欲いから　南部氏の店の男一人貸して貰はう、と自分丈け勝手にきめて其談判に行つたら留守であつた、そこで一時から三時迄待つてゐたが戻らぬので面倒になり歸宿、夕食前も一度行つてみら今度は歸つてゐて例の如く温顔を以て迎へ、船は明朝入港するさうだから、出るのは何れ正午になるだらう、尚ほ明日は日本から箱根丸がつく、此の船には佛國に趣かるゝ北白川宮妃殿下が便乘して居られ、當港觀光の爲め上陸せらるゝから歡迎の爲め早朝から多忙で從て不在であるとの事であつた、斯樣な有樣では到底再び面會する折もあるまいと思ひ、上陸以來種々世話になつた禮を述べ、且つ最後の頼みとして明朝八時半に男一人墓地行の案内に貸して貰ひ度いと言つたら、心よく承諾して直に其男を呼んで萬事言ひ含め、私には其男に對する心附の額迄注意してくれた。これで明日午前中の仕事も出來、暴夜墓も見物が出來る、甚だ以て好都合な事になつた。



坡西土港風景（其二）

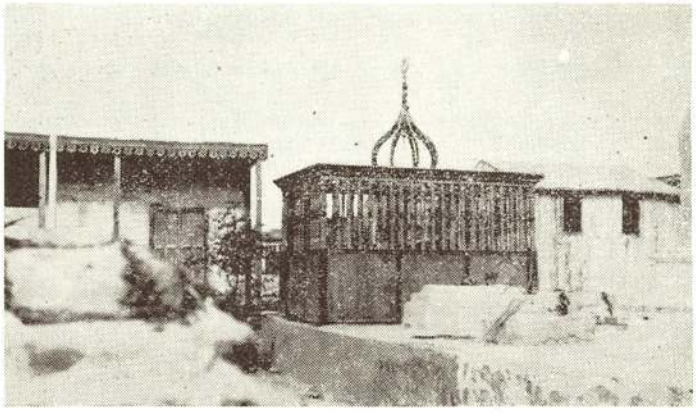
十一月八日　　水曜・好晴

八時半の約束であつたが少し早く八時に行つてみたら昨日の男は既にゐた、併し船の出る確かな時間が判らぬ、私は第一に船の出る時間を確めねばならぬ。此の店にアントニオと呼ぶ、伊太利生れの番頭がゐてよく英語を喋る、此番頭に頼むのが上分別と思つたから、店のものにどこに居るかをきいたら市場へ行つたといふ、そこで此の男を促して市場に行つてみたら果してゐた、私はアントニオに向ひ氣の毒だが船の出る時間を會社へ問合してくれぬかと頼んだら、直にきいてくれて正午に出ると判つた。夫れから市場を出て、ある町から馬車鐵道に乘り終點迄行き、こゝから墓地迄四五町の間徒歩した。今日は極く上等の『魔除けが』ついてゐるから、甚だ安全に墓地へ着する事が出來た。

此の暴夜墓地は一見の價値が充分にある、といふのは何れの墓も多くは鳥籠の樣である、そして上に圓屋根の骨組丈けのものがついてゐる、そして其鳥籠の内に墓石がある。また平たい板をたてたのもある、我國でいふと墓石を立てる迄木の塔婆を立てゝおくのと同じ意味であらう、此の塔婆の形また頗る面白い、其數種を寫眞に出しておいた。私はこの鳥籠がおそろしく氣に入つた、こんな面白い墓なんか何處を探したつて埃及にはこゝ計りだらう。ヘチャヅ・シリア・暴夜・メソポタミア邊の探見でもしなければ、一寸こんな鳥籠はあるまい。鳥籠と塔婆の寫眞數葉を掲げておいたから、よく御覽を願ひ度い、寫眞が小さいから虫籠とも考へられる、何にしても愉快なものだ。

歸りはバスへのつた、隨分汚く車掌はまるで乞食の樣だが

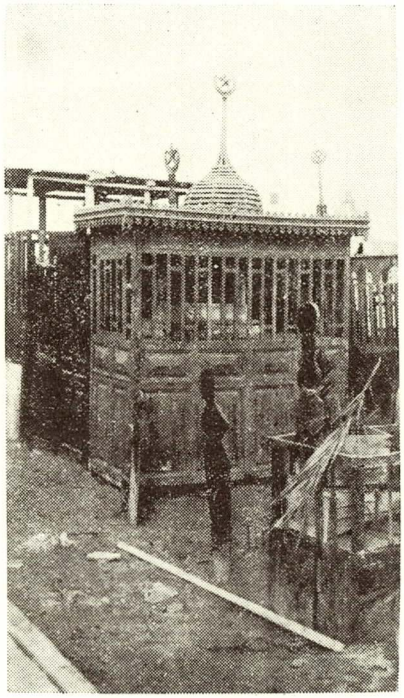
めつたに人の事は言へぬ、正に東京市の圓太郎自働車と伯仲の間にある——車體も客も何もかも——と思へばよろしい、但し車掌丈けは近頃若い娘になつたといふから、これ丈けは我國の方が綺麗かも知れぬが、夫れにしてもよく平氣であの圓太郎を東京市中に運轉させたものだと思つたが、坡西土のお仲間だと思へば辛棒が出來ぬ事もない。バス序でに圓太郎より少し上等な奴の横つ腹には英語で THE TOKYO MOTOR BUS COMPANY(大阪のにもOSAKA云々とかいてあるやうだ)とかいたのは何の禁厭か。電車の停留場に安全地帶は分つたが、其下の SAFETY ZONEや、四つ辻の止れ進めの下の STOP, GO 等ですら癪の種だ、大阪軌道の踏切には米利堅の STOP, LOOK AND LISTENを直譯して『止り、聞き、見て通れ』と平氣でやつてゐる。英語を國語としてゐる英米の眞似をしたり、自ら進んで屬國氣取りでゐたりするなんて、なんてだらしが無いのだらう。西班牙やチエコスロツキア等に於いてすら、揭示はすべて自國語の他は用ひぬ、夫れに我國はこの有樣ちやいやになる、埃及では暴・英二國語を用ひてゐるのは、あゝいふ狀態だから止むを得まい。印度へ行くと驛の立札等は三國語でやつてゐる、英の屬國だから仕方がない。我國の驛立札は漢字・平假名・羅馬字、其の上に揭示には漢字交り文と純然たる英文を用ひてゐる。客車の横つ腹へは此の頃やつとやめたやうだが寢臺車には、SLEEPING CAR、食堂車には DINING CARとかいてゐるのはなんて意氣地のない事だ。當局の說明には外國人の便宜を圖るのだといふ、然るに外國ではちつとも日本人の便宜を圖らぬ、我國ばかりこんな事をするには當らぬ、だから外國人はいゝ氣になつてつけ上るのである。我國人が外國へ行く時、先づ以て其國の言葉を研究するなら、外國人が我國に來る時、第一に日用の會話を研究するがいゝ、かくてこそ對等といふべきで、かくてこそ一等國のビリツコケの位置を保ち得るのである。今の樣では英國か米國の屬國の樣でだらしがない、其上東京驛を下りて出たところのあのざまは何だ、まるで米國の植民地みたいぢやないか、こんな事でどうして一等國のビリツコケの面目が保てやうぞ。もつともつと大に奮勵努力せねばならぬのである。



暴夜驀（其三）

宿へ歸つて待てども待てどもラガヅは來ない、其うちだん時間はたつ、最早我慢が出來ぬので勝手に出かけやうと思つた折、ある男が荷車をひいてやつて來て、あの男は稅關で待つてゐるから、自分丈け荷物をとりに來たといふ、そこで荷物を其まゝ車へ積ませ、其男について稅關へ行つたら、其構内にラガヅはゐて、自分は多忙だから船へは代理の男をやる、夫れで荷物積込の手數料其他

萬端すつかりすます迄の料金として英貨十志を要求した、と同時に船迄行くといふ男が出て來た、みると一昨日驛であつた男なので、幾分氣も落ついて來た。そこで荷物は其男に任せ旅券檢閲所へ行つたら黑ん坊の　人がゐて覺束ない手附でP.C.O.P. Said. Seen on departure. 8. XI. 22 署名)と金釘流でやつてのけた、此の字たるや特別念入の惡筆で私の旅券の上に永久にこの字がこびりついてゐるのだから恐縮する。お蔭でおけてみる度にあの時の有樣を思ひ出す。



暴夜墓（其四）

此處を通り越したら其男が來て今度は檢疫所へ行くのだといふ、入國の時はそんな事はながつたのに、出發に際して檢疫とは少しく變だと思ひながら行つてみたら、役人がゐて金を出せといふ。即ち檢疫なんかどうでもいゝので金をとるのが目的らしい。役人は私に二十ピアスタア出せといつた、ざつと金貳圓である、丁度埃貨の持合せがなかつたので英貨で拂つたら四志六片であつた、少し高過る樣だつたが此際文句をいふ丈け野暮だから、命せらるゝまゝ至極從順に拂つてやつた、そしたら Thank you といつた、英吉利氣取でゐるのだらう。我國の役人は到底この眞似は出來ぬ、其代りこんな下つ端になるとお辭儀の代りにフン反り返つて見せる。早い話が郵便局へ稅金を納めに行つて見給へ、役人が窓口に控へてゐながら中々こつちを向かぬ、大方直に向いては威嚴がないとでも心得てゐるのだらう。やつとこつちを向くとしつかりと片手に握つてゐる膏血の一部をひつたくり、にらみつけて受取を突出すのは我々の何度も何度も經驗してゐるところである。

親船迄我々は發動汽船で、荷物は別の船で行つた、二等は滿員で一等はいくらか餘裕がある、そこで私は一等船室へ寢て食事丈けは二等へ食ひに行くのだとの事、何だか變だが仕方がない、八十圓儉約したさにこんな目に遇ふのだ。思へば安土府から坡西土迄十四日間で二百五十圓だつたのに、坡西土から孟買迄同じく十四日間の而も二等で五百六十圓は篦棒だが、まだこの Lloyd Triestine 汽船會社の船の方が安いので、P.O. 會社のだつたらもつと高いのださうな、いちの惡い事には此の間には日本船はないので、いやでも外國船によらねばならず、だから其内の最安價のにしたのである。

船の名は Aquileja といふ、アクイレイアとは今はトリイスト市附近の小さい町の名であるが、昔羅馬時代に大都市であつたのは人の知るところである。去年は大西洋を橫斷するのにアクイタニア丸へのり、今度暴夜海を渡るにアクイレイア丸へのる、妙に同じ樣な名の船で、兩方共大に歷史的意義の深い地名だから大分氣に入つた。一等と二等となつた八十圓の差で、一日にするとざつと五圓五十錢の差だから知れたもの、而も私の樣にねるのは一等だとすると金八十圓也まる

もうけになる。三等となるとずつと下落してDeck Passengerであり、これは大分に安いが、まさかいくら安くてもこの眞似丈けは願ひ下げだ、だから二等にしたのだが、あとから考へるとこれは大出來だつた、君府の住人だといふ間抜面をしたノツポたの、スミルナの住人だといふ大學の先生然たる物識だの、若い尼さんの一隊とGrey Friarsと、顎鬚を生やした印度人だの、いろいろな人間がのつてゐて面白かつたが、初めの時は一寸心細い樣な氣がしなくもなかつた。

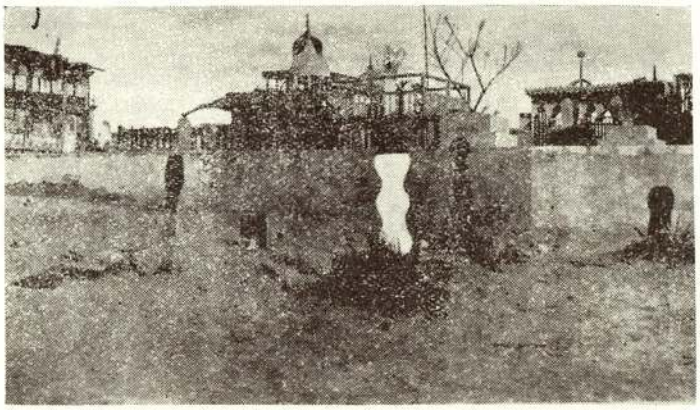
室の番號は一三三號とあるので、そこへ入つてみたら荷物は五つ無事そこに置かれてあつた、但し寢臺——Berthではなくて Bed であつた——は三つ置いてあり、窓際のと突き當りのとは既に先客に占頭されてゐる、入口に最も近いところの最もまづい位置の丈けがあいてゐた、だから最後に入つた私は夫れに決めるより他に方法はなかつたのである。實のところ私はこんな眞のBedよりかBerthの方が餘程いゝ、なぜなら一方は壁にくつついてゐて幕さへ引けば世間と沒交渉になるからであるが、異人は幕なんかなくともBedの方がいゝと見える、この點は少なからずいやだが仕方がないから辛棒する事にした、其昔し何處の馬の骨だか判らない芋つ堀の上等兵にいぢめられたのさへ辛棒したのだ、夫れに比べれば此の位何でもない。

室を見極めてから甲板に戻つたら、そこに先刻の男と荷運夫の一人がゐた、そこで親方に心附をヤリ、人夫二人に夫れ夫れやる必要があるので紙包を二つ作り、特に一つづゝ渡してくれと言つて親方へ渡して室へ戻つたら、室には私の荷物を運び込んだ男がゐて、荷物は無事五個共運び込んだから幾分の心附をくれと言つた。そこで私は心附なら今甲板で親方へ渡しておいたからあれを貰へといつたら、少しでもいゝから是非くれと言ひ張り中々執拗い、私はよく分る樣に親方には二人分別に紙包にして渡してあるから其一つを貰へといつても彼は却々きかず益々大聲を出して始末に惡い、遂に肝癪を起し『五つ來るのは當然だ、其上二重に心附を請求するとは怪しからぬ』と、少しく反り身になり睨みつけながら怒鳴つたのだから頗る痛快で、正に勇氣凛々邊を拂つて了つたのである。そこへ來合せた給事が一寸心附の二ピアフタア位やつてはどうですといつたから、心附なら親方へ渡してあると先刻から言つてゐるのだ、此男は二重取りを計畫でゐるらしいといつたので此幕は閉ぢだが、併し後に考へてみたら、も一人の荷運夫が猫婆をきめ込んだのかも知れぬ、又私としても別々に渡せばよかつたとも思つたが、眞のことはどうなのかよく分らぬ、何れにして我利我利亡者の寄り集りだから、何が何だか判つたものぢやない。

夫れから甲板へ出てみたら土人の物賣が澤山にゐる、眞僞不明とはいふものゝ先づ殆んど僞物許りもつて來て盛に賣らんと試みてゐる。愈よ出帆刻の限が來たので一人去り、二人去り、遂にバクシーシュ連は全部引揚げ、正十二時を合圖に碇を卷き汽笛を鳴らして動き出した、坡西土も先づ先づこれが見納めだらう。

やがて蘇西運河株式會社の建物の前を通つた、全體白色の回教寺院をみる樣な建築であつたが、此會社が莫大の通行稅を取立てゝ利益を壟斷してゐるのかと思ふと、癪にも觸るし羨しくもある。此建物に近く我が箱根丸が碇泊してゐた、此

船には先にも記した通り北白川宮妃が便乘して居られ、今は上陸して在留民の歡迎を受けて居らるゝのである。後日巴里近郊で奇禍に遇はるゝとは誰人が、豫想し得たらう。ある異人が其船を指してNice boat だと評してゐた、無論さうではあるが、併し大きな蒸氣艇をボートとはちと理屈に合はぬ。



暴夜墓（其五）

我國で英語を習へば先生はボートを短艇と譯す尤もこれは昔し私が稽古した時分の事で、今ならボートは矢張ボートだらう。併し英米にはこんな言葉があるのだから仕方がない。大西洋通ひの五萬五千噸の途方途轍もない大船：Berengaria：さへ Nice boat で片附て了ふのだから、一萬噸級の箱根丸位何でもないのである、さうするとボートとは二人乘位より五萬六人八人乘位より五萬五千噸の大蒸汽船迄を含むものと心得べきである、英語なんてこんな不都合な言葉である其不都合な言葉の稽古に半生を棒げるなんか馬鹿の骨張であらう。夫れから少し行くと壽福丸といふ荷物船があた、日本船二つみていゝ心持であつた。字といつたら横がきの蟹みたいな字計り、言葉といつたらペラペラの珍紛漢の間にあつて、箱根丸と壽福丸とはまことに懷しい感がした。

出ると間もなく晝食になつたので二等の食堂へ行く、私は一番端の机で私の前にはスミルナ生れのゑらい物識りがゐたどう安く積つてもPh. D とかLL. D. とかいふ肩書をもつてゐさうな顏をしてゐる、ところが此男頗る愛想よく私に話かける、だん〳〵懇意になり遂に此男が希臘人でスミルナの住人で商人で孟買に二十五年間住んでゐて、つい先頃の大火でスミルナに於ける親讓りの動產不動產全部をフイにして了つたと話した。此男は何でも知つてゐる、彼は世界の學術的の言葉は何れも源を希臘語に發してゐるといつた、成程さうかなと感心してみせる、献立表の船名をかいたところに Pfo. Aquileja とあるのを指してPfo.とは何の事か知つてるかときく、船の揭示のどこかに Piloscaffo とあつたのを思ひ出したからピロスカフオの略字さと答へたら、其通りだが何の事かといふ、蒸汽船の事さ、左樣、併しなぜ蒸汽船といふ意味かとどこ迄も追究してくる。

いつか朝食の時蝦の天麩羅が表にのつてゐた、大將好物と見え注文しておいて私に向ひ、食指を曲げたり伸したりしてみせて君は魚はすきかときく。魚たどんな魚だ、こんなのさと言つて相不變指を曲げたり伸したりしてゐる。大將蝦といふ字を忘れたのか又は私が知らぬと蔑視たのか何れどつちかだらう。蝦かい、うん其蝦さ。蝦は魚ぢやない、君は博學で語源等よく知つてゐるが動物學は知らんと見える。ふん、夫れぢや蝦は何だい、甲殻類中の長尾類だよ、甲冑に身を固めてゐるぢやないか。これでピロスカフオの仇討をしたのであ

る。

こんな他愛のない事を食事毎に繰返すので面白く食事をする。Grey Friars の一人は私が邦文の雑誌を讀んでゐるのを覗き込んでどうしてそんな字が讀めるのかときく。お互様だ横にかいた變挺な字がどうして讀めるのかときいてやらうと思はなくもなかつたが、こつちは坊さん達程頭は悪くない積りだから左様な愚問はしなかつた。

印度人の紳士數人のつてゐた、彼等は船中で英語を使つてゐた、憐むべきは亡國の民で、日常彼等同志の間にすら異國語を用ひて得意然としてゐるのである。併しこれはどうかすると永く英米にゐた日本人にもある癖である、彼等は永い間異國に在つて其國の言葉を習つた結果、その方が使ひいゝといふ點もあらうし、また自分は永く異國にゐたといふ事を知らしめて自己を眞價以上に評價せしめやうといふ下心からもあらう、兎に角歯の浮く様な連中がゐなくもないから、餘り人の惡口は言へぬ。

扨て愈よ運河に入つた、右は埃及で、左も埃及領だが暴夜砂漠の一部だと思ふと一寸妙な氣がする、巾の狹い堀り割をそろりそろりと行く、どつち側をみても砂つ原で面白くも可笑しくもない、甲板上の長椅子に腰を掛けてゐたら前を通つた若い人がいきなり日本語で話しかけた。此の人は先刻から氣がついてはゐたが、日本人だと思つて話しかけたらさうでなくて失敗した事が數回あつたから、要心して知らん顔をしてゐたのだ、然るに先方から日本語で話しかけたのだから今度は大丈夫である、だんだん話してゐるうちに此人の仲間が未だ二人ゐる、紹介するから來ないかといふ、行つてみたら太つた相當の年配の人と背の高い若い人とゐた、で此等三人の人と一所に上甲板に出て話をしてゐる内に漸く夕景となりそこいらが薄暗くなつて來た、そして遂に太つた人と私と二人きになり、どうとう挨拶もせずに分れて了つたが、後に此人は東洋紡績株式會社副社長阿部房次郎氏で、背の高い若い人は同氏の女婿法學士阿部藤造氏、最初にあつた若い人は東洋綿花株式會社の歐洲出張員法學士小越知執氏と知れた、そして唯一人の知人もなく全くお先眞つ暗の孟買へ上陸するにつき、阿部氏と小越法學士の厚意により多大の便宜を得た事は今でも感謝してゐる次第である。

尚阿部氏は伊太利旅行の際、私の友人で學校の先生で温厚篤實の士なる知成蘇事氏が奇禍に遇ひ、進退谷つて困却してゐたのに多大の同情を表し、親兄弟も及ばぬ程の心からの助力をせられた美談があるのを知る人は少ないだらう。

夕食をすましてから一人甲板を散歩してゐると、月が暴夜砂漠から顔を出した、空は晴渡つてゐる、これで運河の月もみた、あとになつてヘジャズ國や暴夜國から出た月、天に冲してからは紅海の月をみた、もう月丈けはすつかり卒業をして了つた。

× × ×

一昨年五月、江村郊郎氏より交渉により埃及記行を書き出して以來、友人の天沼君と分擔執筆してきたが、お互に古い友達で親しい間柄だから、まあ一人でかいた様なものだ、夫れが圖らずも永くなり、足かけ三年になつた。夫れもたゞ記事丈けならいゝが、法螺が入つたり脫線したりした爲め、貴重な紙面を澤山割かれたのは感謝にたへぬ次第である、と同

時に若し會員諸君の中に、一人でも一回でも讀んでくださつた方があつたならば、其方に對し敬意と謝意とを表するのである。此れを以て終りとする。

× × ×

附錄

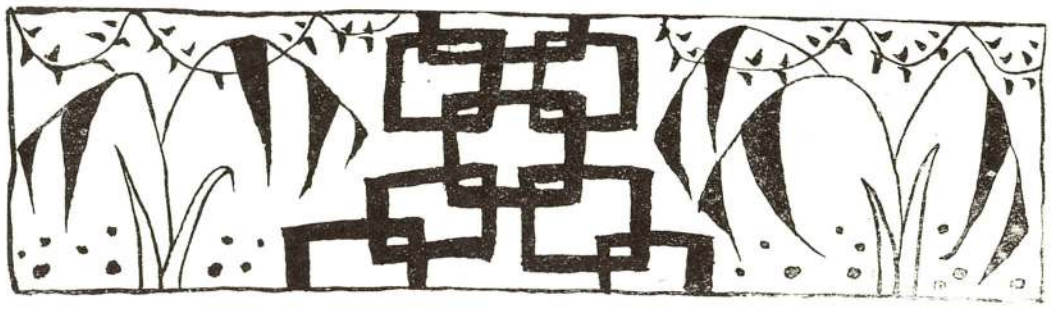
一度埃及の地を踏んでみると、いつ迄も記憶に存じてゐるから、例へBakshishでせめられても、左樣な事は忘れて了ひ、いつ迄も懷しい樣な氣がするものである、だから其後埃及の事が新聞に出てゐると、私は多大の注意を以て讀でゐるのである。有名なザクルル・パシャが放免され歸國して直に內閣を組織したのもつい此頃であつた。元來我國に於いては大臣には誰がなつても一切私とは沒交涉で、國會議員と同じ事で全然この方面に興味はないのである、況や外國の大臣に於てをや。然るに妙に此人の時丈けは私の頭に響いて來た名計りの獨立國を眞の有名有實の獨立國に昇格し、開路市に於ける英國の駐屯軍を追ふのも遠くはあるまい、と大にどうでもいゝ事ながら期待をしたのであつたが、夫れもいつしか忘れて了つてゐた。



暴夜墓（其六）

然るに突然、昨年十一月二十日の新聞紙上一號活字で大きく『スーダン總督狙撃されて重傷』といふ見出しがあつた、此時私の頭に浮んで來たのは先年ハルピンに於ける故伊藤公の狙撃事件で、馬鹿な事をする奴は世界中に廣がつてゐるものだ、折角獨立しかけた埃及は又復ひどい目に遇ふのぢやないか、と心中大に同情したのであつたが、引續き次の半月の間は此事件の發展で殆んど應接に遑ない程であつた。英國は果して赤ん坊の手を捻り頭をなぐつたのである、曰く『スーダン總督死す』『犯人逮捕さる』『五十萬磅の賠償金を要求』『廿四時間內の回答を求む』『アレキサンドリア碇泊古鎭命令』『英國艦隊出動』『埃及內閣辭職』『埃及側折れる』『スーダン軍撤退』『カーツーム駐在埃及兵の叛亂』『英國の要求を容れて埃及政府屈服す』『ゞゞのつまり埃及が閉口して大團圓となつたのであるが實地を知らずに遠方から見てゐると、如何にも腦甲斐なく見ゆる。

私はたゞ內流沿岸の古建築を見物に行つた丈けであるが、夫れでもあれぢや到底英國に對し手も足も出まいと思はれた位である、バクシーシュぢやいやになつたが、回教民族全體としては氣の毒でならなかつた。お前の方は知らん顏をしてゐるから、おれの方の仕事の邪魔をしてくれるは餘りに虫がよすぎる、が併し相手が強くては手の出し樣がない、洵に蟷螂の龍車に向ふ例の如くで如何とも致し方がない、どうも止むを得ぬから一生懸和になつて除ろに時機の來るを待つより仕方があるまい。（大尾・大正十四年一月二十六日稿了）。



「コンクリート」塗料の性質に就いて

大島重義

緒言

關東大震災の結果耐震耐火性の建築物が必要であると云ふ事は特に一般の注意を引く様になつて來た、從て今後の大建築物は勿論のこと小住宅に至るまで事情の許すかぎり耐震耐火性の建築物を採用する様になりつゝあることは明かなる事實である從て鐵筋コンクリート建築法が益々盛になりつゝあることは此等の事情から當然の事である、然しコンクリート建造物の一なる缺點は雨水の浸潤性が著しいと云ふ事と外觀粗野であると云ふ事であつて、濕氣を防ぐには、コンクリートの材料調合に注意し緻密にして平等なるコンクリートを作ると云ふことも一つの方法であり又防水劑を用ゐるのも他の方法である・此等の手段も或程度までの成功をなしつゝあるから今後の研究によりて益々完全の域に進むものであらう、と考えられるけれども此等の方法は如何に發達しても單に水を防ぐに止まり何等裝飾の方法とはならないのである、其れで他の高價な方法によつて裝飾を施さなければならない、然るに塗料を用ゐて防水をなす場合には同時に裝飾をも兼ね得られるのであるから、若し塗料によつて防水を完全になし得らるゝならば實に一擧兩得であると云はなければならない、目下工事中の東京築地に改築中の歌舞伎座は此の方法の一例と見ることが出來る、歌舞伎座は震災後從來の建築樣式により外部は鐵筋コンクリートモルタル仕上として其外部にコンクリート用塗料を施し防水並に裝飾を兼ねしめたのである、斯くの如き建築法は將來必ず各方面に起ることゝ考えられるのでコンクリートの防水裝飾の目的にその程度まで塗料が應用し得られ且此種の塗料が如何なる特長と耐久性を有するものであるかと云ふ事に關して私の研究せる結果を述べて建築家各位の御參考に供し且教へを乞はんとする次第である。

コンクリート塗料の性質

鐵材又は木材の表面とコンクリートの表面とは次ぎの諸點に於て全く異つた性質のものである

イ　化學的に鐵材又は木材の表面は殆んど中性である、然るにコンクリートの表面はア

カリ性である

ロ　コンクリートの表面は塗料の吸收性が他のものに比し著しく大である

ハ　コンクリートの表面は水分を吸收することが著しいから一度は乾いても他の防水せざる部分から水分が浸み込んで來てコンクリートの全體を濕らせる樣になる

ニ　コンクリートの表面はカルシウム鹽類其他の可溶性物が内部からしみ出て來て塗料の皮膜を破つて塗面の外まで浸み出て來ることがある

此等の諸點が全く鐵や木とは違つて居るので其上に裝飾する塗料も特異なる性質を持たなければならない、然らばコンクリート塗料としてはどんな性質を持つて居ればよいかと云ふと次の樣な諸點が肝要であると思ふ。

イ　アルカリ物質に對して作用され難きこと

ロ　塗料の浸潤性大に過ぎざること

ハ　コンクリートが水分を含むことあるも之れが爲め膜に脹れて來さざること

ニ　コンクリート内部よりの分泌物を防止すること

ホ　防水性著しきこと

ヘ　引火性を有せざること

ト　裝飾的性質あること

チ　日光雨露に對して耐久性を有すること

以上の諸性質を具備したるものにして初めて完全なるコンクリート塗料として推奬し得るのである。

現今塗料として市場にあるものを大別すれば

オイルペイント
水性ペイント
エナメル
ワニス

の四種となる、オイルペイントは植物油と顔料とを練合したるもので鐵材及木材に塗裝することを目的とし、水性ペイントはカゼインを原料にしたもので内部の壁塗料として使用されて居るけれども此等の塗料は(一)アルカリ物質に對して作用されやすく(二)浸潮性大に過ぎ其他の諸點に對してコンクリート塗料としては不適當であり又エナメルは高價に過ぎ且大なる面積には刷毛の運用困難なる爲め不適當であるためこれも不適當である、ワニスはコンクリートの如き吸收性大なる表面には塗る事が出來ないのである。

現今コンクリート塗料として發達しつゝあるものは矢張り一種のオイルペイントではあるけれども植物油を化工精製してアルカリ物質に對して容易に犯され難き性質とし猶之れに皮膜強靱なる耐アルカリ性物質を添加配合して上記の諸條件を滿足せしめ得る塗料を作るにあるのである。

つて予の研究しつゝあるのも此方面の塗料である、現今のコンクリート塗料が上記の諸點に對しどの程度まで耐え得る性質を具備して居るか最近五ケ年間に渉る予の研究並に實地塗裝上の結果を章を分つて記述して見たいと思ふ。

耐アルカリ性能

セメントは石灰を主成分として作つたものであるから、コンクリートも其石灰の「アク」によつてアルカリ性能を有するのである、コンクリートが長年月を經過し若くは完全に乾燥狀態であるならばアルカリ反應を呈する事はない、然し我國の如く濕潤の大氣に包まれて居る國ではコンクリートの乾燥が完全である事は到底望めないので從てコンクリート内部のアルカリ分が水分のために次第に表面に溶し出されて來てコンクリートの表面をアルカリ性にすることは普通の狀態と考

えなければならない、表面がアルカリ性であるならば普通のオイルペイント又は水性ペイントを塗てもすぐに剝げる事は分りきつた事である、何となれば之を化學的の見地から考察するときは植物油はアルカリ物質に遇へば化合して石鹸となる性質を持て居るために仍角表面にオイルペイントを塗ても其固着劑である植物油が完全なる膜質を造るに先ち、石灰分と作用して不乾燥性の石鹸質となり剝落の原因となる、水性ペイントに於てはカゼインを劑として使用するものであるがカゼインもアルカリに遇へば水に可溶性となる特質がある爲に直に剝落するに至るのである。

良質のコンクリート塗料、ジンクペイント、水性ペイントを各一枚の硝子板に塗つて一週間乾燥させて後之れを〇、二%アルカリ水溶液中に入れると十數分の後にはジンクペイントも水性ペイントも膜が弱くなつて指で觸れば直に剝落するに至るのである、然るに良質のコンクリート塗料は何等の異狀がなく爪で掻いても剝げないのである。

即ちコンクリートに塗るべき塗料は少くともアルカリ成分に對しては抵抗力の強いものを撰ばなければならぬのであつて現今に於て既に此點に於ては普通オイルペイント又は水性ペイントに比し、良質のコンクリート料は著しく優秀であることが右の實驗塗で證明せられたのである。

塗料の浸潤性

コンクリートは鐵や木材よりも塗料を吸收することが著しいのである、塗料を吸收すると云ふ事は顔料と油との混合物を吸込むのではあるけれども、其内で顔料よりも油を吸込みやすいのは自然の理であつて、塗料中で油と顔料とは化合し結合して居るのではなくて單に混合して居るのであるから塗料中の油分だけが分離してコンクリート中に吸込まれることも亦已むを得ないのである、此現象はきめの荒い大理石に塗料を塗て見れば一番よく分ることであつて、普通のオイルペイントとコンクリートペイントとを塗つて見ると普通ペイントは油分のみ内部に浸込んで表面は顔料のみ殘り、コンクリート塗料の油分は殆んど全く吸收せられないと云ふ事が分る、油が吸收されては何故いけないかと云ふと、コンクリートの表面に殘つた塗料は元來の塗料に比べて顔料と油との比例が變つて顔料が多いものになり自然固着力が減じて來る、即ち剝げやすくなる、猶内部に浸込んだ油は表面のみならず内部のアルカリに出遇つて一層鹸化作用を劇しく受ける事になる、從て油分が變質することは益々速になるわけである、故にコンクリート塗料としては成る可く浸潤性の少いものを撰ぶ必要がある、此點に於ても普通のオイルペイントは不適當である。

耐水性

耐水性と云ふ事は最も大切な事であつて之れには三樣の考方をして見なければならない、即ち

イ　塗膜の表面に水の降りかゝつた場合

即ち著しい壓力のかゝらないとき

ロ　大なる水壓に對する抵抗力の程度

ハ　コンクリートが水で飽和された場合に塗料とコンクリートの結合の程度

イの場合は例へばコンクリート建造物に雨が降りかゝつた場合に其雨水が内部に浸み込むや否やと云ふ問題である、之を試驗するのには一番便利な方法としてセメント板を取り之れを三寸角厚さ二分の

を試驗材料としたのである。

其吸濕性を比較するには三寸角のものを一つは其まゝ水中につけ、他のものは表裏とも塗料二回塗とし、一週間乾燥して後水中に漬け一週間放置し引上げて表面の水分を拭ひ秤量して重量の增加を吸收した水分と見做して比較すると重量の增加率は

塗料を施さざるもの　一八、七%

普通ペイントを塗りたるもの　二、五%

コンクリートを塗料を塗りたるもの　〇、三%

塗料を塗らずにをけば一割八分の割分に水分を吸收するセメント板でもコンクリート塗料を塗れば〇、三%だけしか重量が增さないと云ふことは實際には殆んど水を吸はなくなつたと云つてよい結果であつて、此種の塗料を塗れば少し位は雨水が浸み込んで來る建物であつても、又は臺灣の雨期の樣に大雨が續いても雨水が室内まで浸み込んで來る恐れがなくなる、と云ふことが分るのである。

ロ然らば水に或壓力が加はつた場合には浸みとほりはしないかと云ふ心配が起る、此試驗はセメント板にコンクリート塗料を三回塗をして充分乾燥した後に水壓試驗器で壓力を少しづゝ增加して透水するまでの壓力を見るのである。

大阪工業研究所に依頼した試驗成績によれば六氣壓即ち一平方吋九十一ポンドの壓力がかゝつても漏水しないのであつて二百尺の高さの水槽の底面を受くる水壓に對しても耐え得ると云ふ結果になつたのである。

ハセメント板の片面に普通のオイルペイント水性ペイントコンクリートペイントを塗り一週間乾燥した後に水中に漬けて一ケ月の後に引上げて塗面の狀態を檢べて見ると普通のオイルペイントの塗面は一面に脹れが出來てゐる、又粗惡なコンクリート塗料例へば單に中和したワニスと顔料とを練合してアルカリ試驗だけは無事にパスすると云ふ樣な種類のものは防水性の配合物がないために塗面に細い脹れが出て居る、然るに優秀なコンクリート塗料は其表面全く異狀を呈しないのである、此試驗は實際の場合にはコンクリート全體が濕つた時に塗料が剝げやすいか否かと云ふとを判別することが出來るのである、此試驗の結果を更に速に知らんとする場合は淡水でなく〇、一%位のアルカリ性溶液を用ゐる方がよい。コンクリートが水で濕つたときにはコンクリートの中のアルカリ分が水でとけて極稀薄なアルカリ性の水になつて表面の塗膜に作用するのであるから稀薄なアルカリ液で實驗する方が實際の場合に近い狀態と云ふことが出來る、此試驗に於て普通のオイルペイントの塗膜はすぐに脹れを生ずるけれども優秀なコンクリート塗料は一ケ月を經ても脹れを生ずることは決してない。

京都府下の某染色工場では千坪以上の鐵筋コンクリート建で内部は室を明くするためにモルタル仕上の壁の上に白色塗料を塗つたのである、然し染色工場であるために湯氣が立つて建物全體が極めて濕潤になつて居る、其れで水性ペイントは黴を生じ剝落し普通のオイルペイントも脹れが出來て剝落すると云ふ有樣で塗料には非常な困難な場所である、猶其上にモルタルの表面が非常に平滑に仕上げてある爲に塗膜の固着が困難である、コンクリート塗料として第一回に塗つたものは單にアルカリ分に犯され難く皮膜強靱なる性質の塗料を塗つたのであるが、

耐水性不充分なるため內部からの水分のために脹れが出來て剝落したのである、次には此缺點を補ふために前記の耐水試驗をなし全く脹れを生ぜざる種類即ち中和したるワニスに更に皮膜强靱なる耐アルカリ性物質を加えて顔料と練合したコンクリート塗料を塗つて完全に目的を達したのである、千坪以上の大實驗の成績に依て始めて中和されたるワニスと顔料との混合外に或種の耐アルカリ性材料の必要なことが證明されたのは此種の塗料では一つの著しい進歩と云ふてよいと思ふ。

コンクリートの分泌物の防止

コンクリートの分泌物即ち其表面に溶かし出される白色粉末は主としてカルシウムの可溶性鹽類である、之れは必ず塗膜の弱い所から浸み出して來るのであつて必ずしも耐アルカリ性の程度に關係するものではない、之れを防ぐには普通のオイルペイントの樣に長い月日を經なければ硬くならない樣なものではだめであつて速に充分緻密で堅い塗膜を作る性質の塗料でなければだめである、此試驗は小規模でやつて見る方法がないので、多數の建物に塗つた實地の經驗を綜合して塗料の性質を判定するの外はない、此場合にも皮膜强靱なる耐アルカリ性物質の添加が非常に役立つことが證明せらるゝのである。

引火性を有せざること

油を原料とした塗料に不燃性を要求する事は至難の事である然し塗膜が例令不燃質でなくとも引火性でなく火災の傳導を助ける樣な性質がないならば實用上決して差支へないものと思はれる。

普通のオイルペイント塗膜は完全なる乾燥と云ふことが長時日かゝるため其燃燒に當つて脹れを生じ可燃性の瓦斯を發生して延燒を助成することになる、之れでは火災を防ぐことにならぬばかりでなく燃えやすくなるのである、然るにコンクリート塗料の皮膜は可燃性の瓦斯を發生することなく單に焦げるばかりにて焰を上げることがないから燃燒を助長漫延させることはないのである。

此性質はコンクリート小片にコンクリート塗料を塗り充分乾燥後火鉢の火の中に入れて見ると塗膜は黑焦げになつても脹れたり焰を擧げて燃えたりすることはないのである、關東大震火災のときの遞信省の煉瓦面に塗つたコンクリート塗料が焦げたなりで脹れを生ずることがなかつた實例は此事實を證明して居るものと思ふ、此等の事實は耐火建築にコンクリート塗料を使用することの可能性を物語るものである。

美術的なること

コンクリート建造物の內外に塗料を施したときに如何にもペンキを塗つたと云ふ感じがしては落付きのない安つぽい感じを與へるとは從來建築家諸子の一般の評である、ペンキを塗れば何故落付きがない樣に見えるかと云ふと之れは大なる面積を光澤のある仕上げをするためであつて石造の樣な壯重な感じがしないのと光澤があるためにコンクリート又はモルタル塗表面の仕上げ斑らが一層目立てくると云ふ損があるのである、其れでコンクリート又はモルタル仕上げの裝飾としてコンクリート塗料を使ふためにはどうしても完全な艶消し仕上げにしなければならない、一寸見てはモルタルに色付け

をしたのか、其上に塗料を塗つたのか見分けがつかない程光澤もなく特に塗料を施したと云ふ感じを與へない樣な風に仕上げ得らるゝ塗料が要求せらるゝのである。

在來コンクリート塗料として賣られて居たものは皆普通のオイルペイントを耐アルカリ性にしたと云ふに過ぎなかつたために充分な艶消が出來ず塗面がぎらぎらして安つぽく見えて高尙な感じを與へないために其應用せらるゝ範圍が狹かつたのであつた。

艶消塗料を造る方法として從來は光澤を消すためには單に稀發性の溶劑を塗料の中に過剩に入れて油の力を減じ艶消仕上としたために皮膜の弱いもので長保がしなかつたのである、コンクリート塗料が必要なものでありながら廣く應用せらるに至らなかつたのは此美術的でないと云ふことが重なる因をなして居たこと思ふ。

塗料工業最近の發達によつて全く新しき方法によつて皮膜を弱むることなくして艶消仕上をなし得る塗料を完成するに至つたのである。

此種の艶消塗料は前記の諸點に合格するのみならずコンクリートとの密着力つよく皮膜强靭で剝落の恐れがない、東京歌舞伎座、神戸湊川公園地下道、東京銀座ビルデングの如きは此種の塗料を採用して好成績を擧げて居るのである。

耐久の程度

雨露日光に對し外部塗料として此種の塗料が果して何年保つだらうかと云ふことは單に机の上の理論や小規模の試驗ではなかなきかめられないことである、予の實驗としては東京市外大井町の古河理化試驗所物理試驗室鐵筋コンクリート建約一百坪を予の發明せるコンクリート塗料「ストンコート」を以て塗裝したのが一番古いものであつて大正十三年十二月で丁度四ケ年四ケ月を經過して居るのであるけれども未だ何等の異狀を認めないから七八年は相當の美觀を以て保持し得るものと思つて差支へあるまい、東京には此種の塗料を施した建物は澤山にあつたけれども大震災で殆んど全部灰燼に歸したことは耐久性の成績調査の上から見ても實に惜しい事であつたのである、此方面の實地の成績は更に長年月を經て各種の材料より綜合斷定すべきものである。

コンクリート塗料使用上の注意

以上述べた通りに種々研究實驗の結果コンクリート塗料は其性質が漸く實用の可能性を帶びて來たのである、然し良質の塗料でも其使用方法を誤るときは結果が矢張り不良に終るものであるから左に一般的の要點を記して此稿を終ることゝする。

塗料を施すべきコンクリート面は充分に乾燥して居らなければならない。

壁が乾燥して居るや否やはゼラチン紙の試驗其他の方法もあるけれども手でさはつて見れば大概常識で判斷の出來るものである濕氣のある表面に塗ると剝落しやすい、コンクリート面は鐵や木材に比して吸收が大であるのみならず、吸込み方が斑であるために色が斑になつた樣に見えることがある、其れであるからどうしても立派に仕上たいときには三回塗を必要とする。

三回塗の場合に第一回と第二回との間第二回と第三回との間は少くとも二晝夜をおいて完全に乾燥してから次ぎの上塗をすることが必要である（東亞ペイント會社研究室に於て）



『建築線』の言ひ草

加藤善吉

吾輩は『建築線』である。

吾輩の名は諸君が市街地建築物法で既に御承知の筈だから何も今更名のりを擧げるまでもないことであるが、近頃識者の間では吾輩の行動にあき足らないと云ふ非難がある。或は吾輩を行使する主務當局が吾輩の眞の精神を忘れて形骸のみを傳へ吾輩を行使するに於て左顧右眄當面眼前の事務に追れて定見が無い樣だと可なり手嚴しく御苦言を頂戴して居るが。吾輩としても同感の所もある。實際吾輩の權利を活用すれば都市計畫も無一文で自然的に完成されるのである。日本の法律は吾輩に可なり大なる潛勢力を保有せしめてある、だから吾輩としてもモー少し活動しやうと思ふて居るが、而し吾輩が如何なる任務を持て居るか、吾輩の存在は都市に如何なる關係があるかを御存じない現代の市民に對して餘り血氣にはやつて他の勢力範圍にまで喰入る樣なことでもなれば不平と非難の聲が猛然と起るだらうと思ふ。さればと云うてこの儘默々として居れば積極的の識者間では、偏に無事を念とする卑怯な退嬰的な心掛けだと御苦言が出るに極つて居る。而しよく考へて見れば之れは吾輩若くは主務當局許りの罪でなく一般市民の自覺と時代の改新とが必要なことのやうに思はれる、吾輩の行動は自己の利を圖る爲めではなく都市美の發達を期し市民生活の向上を企圖するが目的なのだから日本の市民が『私』に偏することは止めて『公』の爲めにすると云ふ大精神が芽生へねばならぬ、この精神の發露とそして維持とは餘程無づかしいことである、これは日本ばかりでなく英米諸國などもこの精神に缺如して居る樣だそれでも都市問題に就ては熱心努力して居る、この點になると獨逸の市民は從來大に勉めたものである、獨逸國民は『私心を捨てゝ公のために盡す』と云ふ精神があふれて居つた爲めに都市計畫と云ふ大なる公的事業の發達が易々として運ばれたのである、日本の市民も吾輩の內的生活を十分了解し吾輩の存在と意義とをよく認識されたならその時は吾輩も大々的活動を開始する積であるが而しそれまで日本の都市の發展膨脹、否不秩序な亂雜な不衛生な、不體裁な發展、膨脹が待つては呉れまい。それで吾輩も責任上何時までものんべんくだりと拱手時期の到來を待つ譯に行かないので自己を滿足せしめ世間の識者否一般民衆のために自

ら進むで吾輩は、日本の法律が吾輩に與へて居る權能を振り翳して民衆の少しばかりの犧牲や非難は意に介せずモ少し働き振りを見せねばならぬと思ふので茲に改めて名のり擧げた譯である。

日本の吾輩は獨逸から移民した者で今は全然日本人に歸化して居るが而し移民してから間がないから吾輩は餘り多く且つよく活用されない、と云ふて吾輩が懶けて居る譯では決してない、寧ろ使ひ樣に依つては骨身惜まず懸命に働く殊勝な心掛を持つて居るのである、だから吾輩を行使するものは大に利用して貰ひたいのである、いくら吾輩が發心して奮勵しやうとしても當局が活用してくれねば吾輩の折角の發心も水泡に歸する譯である

元來吾輩は都市計畫の上でも建築政策の上でも可なり重大な責任關係を持つて居り都市の保安、衛生、交通、美觀の點から建築物を規律し進んでは道路の擴張其他種々な都市問題を解決すべき關鍵を握つて居る。吾輩の親分は獨逸で又英米にも吾輩と同樣親分の分身かどうかは不明だが同僚が居つて何れも理想都市の完成に大に努力して居る。歐米に於ける郊外の幅廣き街路遊歩道並木芝生又は一町連續した前庭(花園)を附置した田園的郊外別莊地域瀟洒な勞働者住宅街などは何れも吾輩の親分や同僚が活動して出來たものである。

日本に於ける市街地建築物法中吾輩のことに關しては同法第七條乃至第十條、第二十六條、同法施行令第三十條施行規則第四、五、二十四條に書いてある、之れは單に吾輩のこと許りでなく吾輩と密接の關係ある建築物の『壁面の指定』のことも含まれて居る吾輩の大精神を述べてあるのは法第七條である、之れが即ち吾輩の生れ故郷の普魯西建築線法 (Baufluchtliniengesetz vom 2. July) 第一條の末項踏襲である。即ち

第七條『道路敷地ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得』

とある、この但書の文句は頗る簡短であるが意味は仲々深長である、この活用如何に因つて重要な各種の施設に便することが出來るのを大に注目して貰はねばならぬ。獨逸では前記『普法』第一條に依つて色々な仕事をして居るその法文を擧げて見れば

第一條(末項ノミ)『街路境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由ニ依リ街路境界線ヨリ後退(原則トシテ三米ヨリ多カラザル距離ニ後退)シテ之ヲ設定スルコトヲ得』

之れ前記の第七條と大同小異である、寧ろ日本の方が餘程宏量な精神を表はしてある、即ち『普法』に於ては原則として吾輩の後退すべき距離を限定してあるが、日本の第七條にはそれがない法の解釋に依つては一間でも十間でも後退することが出來ると云ふ吾輩の權力を認めて居るだから無鐵砲に行動すれば民衆は隨分迷惑するだらうと思ふ。而し吾輩は自發的には行動しないから安心してよい皆主務當局の認定に依つて行動するのである。之れも致方ない吾輩の行動に於て法文にあるやうに自由なのは特別の事由あるとき』だけだ、所がこの特別の事由と云ふことはどの範圍に及ぶものか吾輩も分らない、法ではこの行動權を悉皆行政官廳の認定に委ねてある。だから行政官廳は深く吾輩の內的生活に立入つて究明し吾輩の進路を誤らぬやう勉めて貰はねばならぬと同時に當局の行動に對しては民衆は等しく之れが監視を怠つてはならぬと警告して置く。

吾輩等が歐米に於て如何に行動し如何に活動しつゝあるかを述べて見ねばならぬ『復興局調査彙報』に詳しく述べられてあるが獨逸就中普魯西に於ては建築線法の支配下に吾輩を行使して種々な事業を完成して居る、三米乃至五米に吾輩を後退せしめて各戸の前面に前庭を設けてある或は小公園運動場廣場の類は勿論將來郊外發展に伴つて必要を生ずるやうな小學校其他の土地までも無償提供せしめる、又都市の中心地域に於ては街路擴築の必要があるが財政上一時にこれを成し遂げることが困難な場合には吾輩を行使するそして擴張すべき幅員に應じて吾輩の位置を定め沿道建築物の改築に際して漸次に完成せしめる其の土地の處理は適當に配慮する。

英國交通省では建築線に關する一般方針を決定するため三十哩の新設道路沿線公共團代表者の協議會を開いた結果全會一致で幹線道路に付ては二十五呎、交叉道路は二十呎に後退して吾輩を指定することに決した。

マンチエスター地域都市計畫委員會は矢張前同樣新設道路は總て沿道各側に於て二十呎を後退して吾輩を置くことになつた、又中心地域の街路擴張の場合に於て堅牢な建築物の現存する場所には單に第一階丈けを改造してピーアを立てアーケードとして歩道を通ずると云ふ方法を用ゆることも考慮中であると云ふ。

フイラデルフイア市は1884年以降三回に亘つて吾輩の後退指定で中心大街路であるチエストナット街の擴築を斷行した尙1900年第十五街及サウスペンシルバニア廣場街をアーケードにする場合に於ても同樣の指定に依つて之れをやつた、其他隨分大膽な方針で吾輩を利用して居るが例は之れで保留して置くが當局も吾輩の活用と云ふ點に於て大に參考とする必要があらうと思ふ。斯樣に吾輩等は歐米では花々しき活動を見せてあるのだから日本に於ける行動に對して識者から齒掻ゆく思はれるも當然かも知れない、而しよく考へて見ればそう一概に當局を非難するのも酷なやうな氣もする、日本の都市の狀態所謂土地所有權の細分錯雜なこと、それが實測してないこと、行政組織の惡いこと之等の關係を十分考慮改正せねばならぬと思ふ。今日の樣な有樣では其の關係が複雜で困ると思ふ。吾輩の行動は（都市計畫に順應し土地區劃整理都市計畫法に依る）と衝突してはならぬ、而し吾輩の行動丈けでも土地區劃整理の實行は出來る、日本の市街地建築物法中に吾輩が移住するとき吾輩の內的生活に次の諸項が含蓄され實行可能なやうに出來て居ると內田博士は謂はれて居る即ち

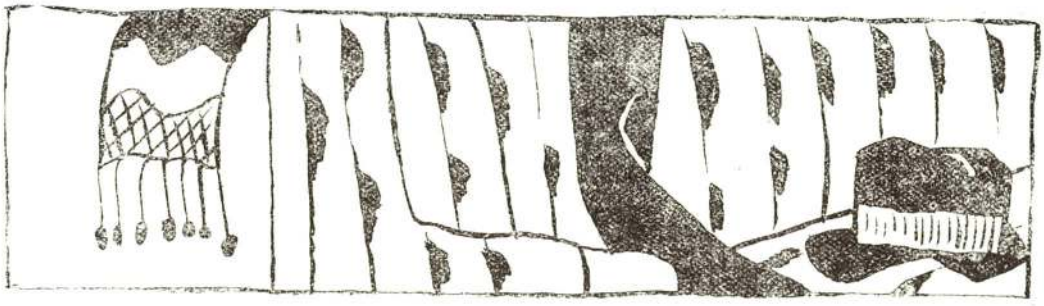
1. 街衢構成の基準　2. 土地區劃の整理
3. 不衛生地の整理　4. 交通の緩和　5. 道路の設定及擴築の助成　6. 建築物の燒滅した場合に於ける道路計畫及區劃整理の速成　7. 建築敷地の經濟的利用

之れが吾輩のやれる仕事の內容で外にも法の解釋に依つては爲し得る仕事があるだらう、然るに從來の吾輩の利用と云へば東京では『六尺以上九尺未滿の道路にあつては中心線より各四尺五寸の線を以て建築線とす』として建築線間の距離を最小九尺とし、又大阪に於て九尺以上の道路境界線から各一尺五寸後退したる線を建築線とし最小建築　間の距離を十二尺としてある東京よりは稍積極的であるかくして吾輩の利用に勉めては居るのだがこんなこと位で吾輩活用の能事終れりと考へるのは大なる誤であると復興局長官々房計畫課では云ふて居る事實この外にもなすべき多くの任務が幾つで居る。第一郊外未開發地に對する亂雜な發達防

止の對策である、この對應策として都市計畫法に依る『土地區劃整理』と云ふ民衆に臨む至極公平な穩健で內容を持つて居る兄弟分も居るが之れは手續の繁鎖、費用の點などで何もかも彼に依賴する譯にも行かない、だから兩々相俟つて進むことが必要であらうと思ふ。即ち財政其の他の關係で『土地區劃整理』の行はれないところは吾輩の活用で行くと云ふことにするのである。それには何れにしても郊外未開發地の實測を急施する必要がある而して都市計畫に順應して土地發展の趨向を想見し系統的に秩序ある方法に於て吾輩を指定して民衆に據らしむべき途を敎へねばならぬ、民間出願建築物に對する現在大阪に於て行はれつゝある郊外未開發地に於ける對策としては法第八條但書の適用に依つて吾輩の權利を無視して建築物の建築を許可すると云ふ方針である而し之れには前面に九尺以上の幅員を有する道路たるの餘地ありこれが小路なりとも幹道に連絡あるを要することになつて居る、建築敷地は更に一尺五寸後退するは勿論である、そして多少の建築物が出來街路の歸趨が略ぼ定つた時期に建築線を指定しやう或は又都市計畫に依つて道路系統をなさしめやうとするのであらうと思ふが、之れも一の方法に違ひないが消極的であつて吾輩の思ふには從來と同樣結局亂雜な街衢を構成することになりはせぬかと思はれる、そら幾何かはましだろうが、だから此際一步進むで『土地區劃整理』の兄弟分を督勵すると同時に一方に於ては郊外地の實測を完成し都市計畫に準據して部分的街衢建築系統の基本を作成しそこに吾輩を活用して建築物をして成るべく之れに據らしむべく主務當局は大なる抱負と非常なる決心を以て秩序ある都市發展を企圖することに努力し吾輩の行動をしてより意義あらしめて貰ひたいである。之れには非常なる困難が伴ひ或は土地所有權の關係に於て吾輩の力も及ばないこともあらうが、そこが努力の爲し甲斐ありと云ふものである。それでも尙一層の勢力が必要あればそのときは都市計畫として細部に亘つての街路計畫をなし其の『計畫路線の決定公示』と云ふ吾輩の背後に控へて居る大立物に讓る外あるまい。或は之れが吾輩が心配する種々なる問題の解決に對し速成の可能性があるかも知れない。此の點に關しては筆者『は大阪府處務細則の改正と都市計畫問題』に就て論じて見たいとのことであるから吾輩は之れで失禮する。(了)

俗人の態度には自由を尊ずるも平易に乏しく

紳士の態度には平易を損ずるも自由に乏し



住宅のよそといふこと

御牧邦生

住宅の最も初期の貌が、自然のまゝの洞穴、岩窟、乃至は粗雑に組立てられた藁小屋や天幕等であつたことは衆知の事實でありますが、ヴイトルヴイウスが、原始時代の野蠻人は初めは鳥獸の巣を模倣して家を作つたので、小枝の素地に泥を塗り被せた塗小屋を先づ作り、次いで樹枝の上に芝草を敷いた藁小屋を作つたと斷言してゐるのには幾分の獨斷がありさうに思へます。音樂史家は音樂の起原を自然界の音響乃至鳥獸の音聲の模倣に歸し、舞踊史家は舞踊の創生を鳥獸の動作の模倣であると說き全らゆる藝術の起原を自然への模倣であるとの唯一の觀念に依つて斷定し去ることが、今日では一つの常識となつてゐるらしくありますが、この常識は充分妥當であるとは言ひ切れぬと思ひます。勿論、幼稚で未開な原始人が、その周圍の全らゆるものは恐愕と驚嘆との目を見はつて、その好奇心のまゝに、全らゆるものを模倣したであらうと言ふことは點頭けます。而も他のものは少時をくとして住宅は模倣以前に、すでに致命的に必要であつたのだと言ふことが考へられます。模倣する以前に、彼等はすでに絶體純粹なるその本能から、絶體的の必要から、その住宅の創成を計つたに違ひありません。勿論、彼等は鳥獸の巣窟を見知つてゐましたからそれを參考とはしたでせうが、そして、模倣もしたでせうが、それは決して模倣に出發した模倣ではなく、創成に伴ふ模倣であつたらうと思へます。人間は、多分、鳥獸の巣窟を見知らなくとも、彼等に必要で、その本能の命ずるまゝの住宅を建てたらうと考へられます。音樂が單に物の音の模倣に初まり舞踊が單に物の動作の模倣に初まつたなど考へやうとするのは、人間といふものゝ未だ眞に緊密精到な理解を有たない者の早計でありませう。人間の衷心の活動が單に模倣でのみある筈はありません。そこには、もつと本原的な欣求意慾が働いてゐると見るべきです。かうした欣求意慾は勿論單なる模倣本能ではなく、これこそ人間の絶體必至の本能、言ひ得べくば、止むに止まれぬといふ創成本能です。人間であることそのまゝの本能です。即ち、全らゆる藝術の母胎はこの人間であることそのまゝの本能です。

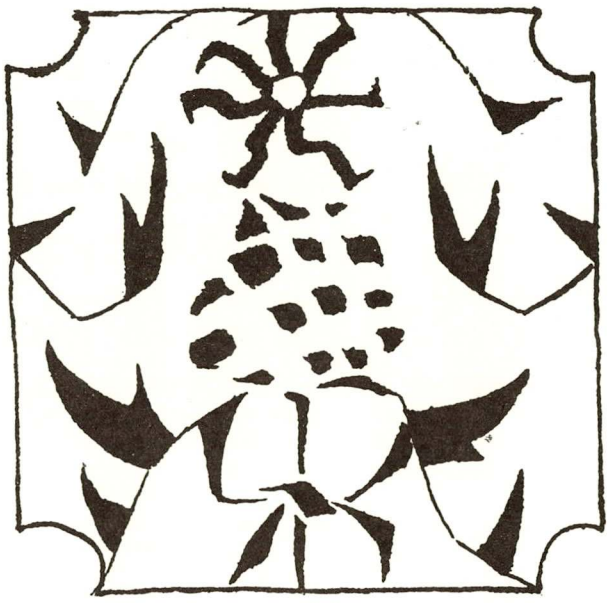
この絶體本能の動きを容易に定義づければ、即ち、必要とい

ふことにならうかと思へます。從つて、住宅は第一にその利便を追ふて發達して來たのであらうといふことが考へられます。住宅が全らゆる人間の欣求意慾のまゝに發達し、その發達が科學といふものにその一切の寄與を仰ぎ、世紀から世紀へと、その恵まれた發達を遂げるべきがほんとうです。その全ての設備考案があくまで人間の實際生活といふものに深く確かな根底を有ち、人間生活の發展と倶にその發達を希はるべきであるのは言ふまでもありません。人生へ向つてのあくまで密接な交渉を、能き得る限りの親しき關與を有つべきは當然です。即しすぎるまで實際生活に即し、利便すぎるまで利便であることは何の障りもありません住宅の社會的價値の大半は、かゝつてその實用的價値の如何にあります。固陋と不便とを廢し、もつと大膽に、利便の道を採つて進むべきであると思ひます。住宅の改善は單に住宅の改善のみで終らず直ちに生活の伸展となり、文化の昂揚となります。住宅問題は單に小さな建築上の問題ではありません。直ちに人生の問題であります。

人間の慾求が單に物質的の滿足のみを求めて動くものでないことは、誰しもが認めてゐるところです。從つて、人間の純粹本能は單に物的必要のみに依つて充分滿されず、その本能は一方に心的必要を多分に有ちます。この必要は利便といふことを第一の目標にしやうとはしないで、美をその第一の規準にをかうとする傾向を有つてをります。美しくさへあるなら、他の幾分の缺陷には目をくれないでをらうといふ氣持です。美は一切のものを被ひかくして人に氣づかせないといふ魅力をもつてゐます。多くの藝術はこの美の周圍をとりまくことに依つてその內容を豐富にし、美を高稱することに依つてその藝術本來の絕體の純粹意慾に合致することに成功してゐる藝術もあります。言ふまでもなく、住宅が單に石や木でできあがつてゐるとの考へ方はほんとうではありません。單に積みあけられた瓦礫の中に人間の生活はあり得ません。住宅は人間の單なる箱や巢ではありません。住宅はすでに生活されたる科學であり又藝術なのであつて、單なる氣まぐれな物塊の積み重ねや生活の石塊ではありません。建築材料のみで住宅が完全に建つと考へることは失敗です。建築への眞の理解が、單に建築樣式の區分に夢中になつたり、建築上の專門語を饒舌ることであつたりはしないやうに、住宅も單に流行しつゝある最新と呼ばれつゝある新樣式を採用したり、新構造法を考慮もなく應用したりすることだけでは、充分、住宅を理解したとは言ふことは能きますまい。住宅は今は一つの表現であるとの意義を有ち初めてをります。即ち、美を求めて止まない心的必要の表現であるといふことになります。美を卒直に表現し得ないものは、人生への健全な交渉を有つことは到底能きますまい。美と人生との交渉程密接な交渉を有つものはこの世界に他にはないでせうに、この美と人生の交渉程、建築上に於てなほざりにされて來たものは少いと思はれます。實用價値に遠いものだとの誤つた愚劣な理由から、美學程　世間に輕視されて來たものは今日までになかつたでせう。建築が藝術としての公然たる地位を得たのも、我邦では、極く最近のことに屬してをります。住宅が藝術でなければならないものであるとの意見、住宅が美を表現しないではならないとの主張は、多分は、今日に於いても未だ蔑視される運命に遭はないとは限りませんが、馬鹿々々しく誤

つた考慮が、如何に長い間、建築上の發達を正しい道から歪めて來たかは計算能きない位です。人生のまことの幸福に至大の交渉を有つてゐるもので、多分、美程、その文渉のデリケエトで親密なものはありますまい。美は人生が無限であるといふ意味で、同じく無限の世界のものです。美は人生が深いといふ意味に於いて同じく深いものです。從つて、豊富な思想全體の美的觀念は、單に表面を裝ひ飾ることのみに依つては得られません。ヘエゲルが、美と眞とが唯一無二のもので、この兩者は藝術の内容をなす觀念の中に結合されてゐると考へてゐたといふことは、正當な考へ方です。眞はこの大宇宙の動かし得ない本原です。眞なくして世界はあり得ません。藝術上の眞は藝術上の美です。從つて、美は物に依つて決して表現されず、心に依つて完全な表現を行ちます。外見をのみ裝ひ飾ることが眞でないと同じく、美ではあり得ません。美は單なる裝飾であるだけではなく質であります。美は生活の花であるだけではなく、果實であります。ブラグドンは、音樂は時間に屬し、建築は空間に屬するといふ意味から、この兩者を藝術の兩極に立つてゐるものと見、この兩者こそは、本原の意味に於いての純粹なる藝術であり、純然たる創作であるといふ風な說をなしてゐます。建築が凍結せる音樂であるとの說と同一です。現今の全ゆる種類の建築に、もつと勇敢な、美の採用が必要ではないかと思はれます。百萬言の構造上の講究研究も、美を外にをいては、その藝術的魅力をいさゝかも增減し得ません。構造法の數學的に精妙であることがすぐ、その建築價値の高低を表はし得ないでありませう。

人生のよさはその生活のよさです。生活のよさはその趣味のよさ乃至は敎養のよさです。ひいて、什宅のよさはその生活のよさです。生活のあしきところによき文化はあり得ません。よき文化のなきところによき建築の發達はありません。よき建築の發達なくして住宅のよさは望み得ません。よき生活の最後の理想は、その生活そのものが高き藝術として生活されることにあります。生活を所謂藝術化し、藝術的な制作品で生活を裝飾するのではなく、藝術をそのまゝを生活として生むことです。生活は外からすべきものではなくて、内からすべきものであるのは當然です。住宅のよさも、殆んどこれと同じやうな意味に於いて、住宅を藝術そのまゝとして創生し、生活せしめることにのみあります。利便はもとよりそれに毒されない限り避けるところではありませんが、美を輕視することに依つて人間の建築物を單なる鳥獸の巢窟と同じからしめ、または表皮のみの空漠な幻影に眩惑されて藝術本來の眞を逃がさないやう、應分の考慮と注意とが必要とされます。もとより、住宅は他の藝術の作者が通常唯一人であるのに幾分の相違を有ち、それは建築者唯一人の藝術であるといふよりは、その建築者とその居住者との（建築者がすぐそのまゝ居住者であることはまた別ではありますが）、少くとも二人以上の者の趣味と敎養との乘積であると見做すことが能きます。繪畫の合筆文學の合作等は多くの場合當然失敗しませうが、建築のみは、それが時として總合藝術であると呼ばれるだけあつて相交錯し相融合しあふところにその特有の面白さを有つてゐます。從つて、住宅の個性は或る一種の特有な個性を有つことになります。この複雜な個性のよさが、個々の制作者の生活のよさから來るだらうといふことは勿論であります。住宅の目標が單に建築材料を積重ねるだけのことにはかゝつてはゐず、心を可見化することにかゝつてゐる以上、一層、こゝにはその生活のよさが求められなければならないわけです。住宅は單に不動物であるだけではなく、住宅相當の鋭い感覺を有つてをります。この感覺はその生活のよしあしを見ることが極めて鋭く、その生活のよしあしを反映することが極めてデリケエトです。あしき生活は遂によき住宅を創生し得ません。住宅が藝術であるためにはその生活がよき藝術であることが必要です。よき文化はよき人です。よき家はよき人です。新しい生活意識の樹立が必要でありませう。



古社寺建築に就いて

天沼俊一

一 古建築の時代別

此れは甚だ難かしい問題である。普通は國史に於ける時代別と略同じく、政治上の出來事を以て分類の標準としてゐるので、即ち左の樣に分つのである

(イ)、佛教渡來以前の建築

(ロ)、佛教渡來以後の建築

に二大別し、更に(ロ)を

(一) 飛鳥時代。佛教渡來——欽明天皇十三年　より大化改新迄——大化五年。

(二) 以前『推古時代』とも呼ばれたが、今殆んど此の名は用ゐぬ。白鳳時代。大化改新より平城遷都迄——和銅三年。一に『天智時代』といつた事もあつたが、推古時代といふ名稱と同じく今用ゐぬ。

(三) 奈良時代。平城遷都より平安遷都迄——延暦十三年。一に『天平時代』といふ、此の名は今でも用ゐられてゐる。

(四) 延暦時代。平安遷都より遣唐使の廢止迄——寛平六年なるも便宜宇多天皇の讓位即ち同九年迄とす。以前は『弘仁時代』と呼び、其後『貞觀時代』といふ樣になり、最近『延暦時代』と言ふ名もある。

(五) 藤原時代。遣唐使の廢止より平氏の滅亡迄——文治元年（壽永四年）

(六) 鎌倉時代。鎌倉開幕より北條氏の滅亡迄——元弘三年（正慶二年）

(七) 室町時代。建武中興より足利氏の滅亡迄——天正元年であるが、便宜元龜の末即ち三年

迄とす。

（八）桃山時代。織田豊臣氏の時代——天正元年より元和元年迄

（九）江戸時代。德川氏時代——元和元年より明治維新迄。

（十）現代。明治以降現今に至る。

の十時代に分つのである。だけれども、此の分け方は不滿足である、一例をいふと、平氏が滅亡した瞬間から天下は源氏のものになり、政治上には大變化が起り爲めに時代は一變して了つたが、美術の方では直に樣式が全然一變するものではない、また事實さうであつたのである。また、桃山時代は僅に四十餘年で、豊臣氏の滅亡と同時に德川氏が威張り出した結果、政治上では德川將軍が萬事意の如く振舞つたが、事實桃山式はいくら家康でも直には敲き潰せなかつたので、すつと後迄行はれてゐたのであつた。

斯樣な次第であつたから、此の分け方は全く便宜上であつて、事實と一致せぬ點が多い、だから不充分である。いつかやかましい問題を起した南北時代なんか——此頃では吉野朝時代といふ名が出來たやうであるが——國史の上では今でも中々やつかいらしいが、建築史上からは鎌倉時代の餘波に過ぎぬのである、だから建築史に於いては、鎌倉へ入れても室町へ下げても、途中で千切つて半分づゝ兩方へつけても、大した問題ではない。また藤原時代や江戸時代の如きは、二つ又は三つ位に更に小さく分けた方がいゝのである、さうすると精しくなつていゝが餘り繁雜になり、一寸頭に入りにくゝなる、のみならず、未だ夫れでも充分とは言へぬ、だから一層私は寧ろ『大日本美術略史』等に採用された樣な分類法に從うのがよからうと思ひ、今でも左の樣に分けてゐる

（一）飛鳥時代
（二）奈良時代
　前期——白鳳時代・天智時代に當る。
　後期——天平時代に當る。
（三）平安時代
　前期——弘仁時代・貞觀時代・延曆時代に當る。
　後期——藤原時代に當る。
（四）鎌倉時代——但し鎌倉開幕より南北朝の合同迄とす。
（五）室町時代——但し南北朝の合同より織田氏の天下統一迄とす。
（六）桃山時代
（七）江戸時代
（八）現代

かうすれば八つですんで了ふ、どうせ不完全なら簡單である丈けこの方が便利と心得てゐる。

併し、若し人があつて、どうしても斯樣な分類法ではいやだと主張するならば一層のこと政治上の出來事とは全く沒交渉に

（一）南北朝式建築時代
（二）唐式建築時代
（三）密敎建築時代
（四）第一日本化時代
（五）宋式建築時代——唐樣・天竺樣を含む
（六）折衷式建築時代
（七）桃山式建築時代
（八）第二日本化時代
（九）歐米式建築時代——現代

位にやつたら奇抜でいゝかも知れぬ、第七の桃山丈けは忽にいゝ名が思ひつけぬから、かうしておいた。

二　古建築とは何ぞ

古建築の『古』の字にはどんな意味があるかといふに、現在の保護建造物たる社寺合計約八百棟についてみるに、内約二百五十は神社建築若くは表面少なくとも神社に附屬してゐる建築で、殘りの五百五十は寺院建築である。前者に於いて最古と考へられてゐるのは、山城宇治の宇治上神社本殿で、約鳳凰堂や法界寺阿彌陀堂と同じ頃といふ事になつてゐる。其最も新しいのは嚴島神社鳥居で、明治八

年の建築である、だから單に神社建築でいふと、最古と最新との間に約八九百年の差がある。次に寺院についてみるに、現存せる最古の建築は法隆寺西院の金堂・塔婆・中門及び歩廊の一部——例へ數回の修理を經てゐるにせよ——で、再建説もあるが大して有力でない、私共は何れも推古天皇十五年と考へてゐる。新しい方では東大寺大佛殿であらう、永祿十年十月十日、三好松永の亂により二度目に燒かれた大殿は、漸く公慶上人の盡力により元祿から寶永にかけて出來たのである、即ち今の大佛殿である。だから寺院建築に於いては、新古の間に約一千一百年の差がある。そこで社寺を併せて考へると、推古天皇十五年から明治八年の間に廣がつてゐるのである。即ちこの古社寺の『古』といふ文字にはさう深い意味はなく、たゞ今日出來たものでない、そして其建築に關係した人達は既に死んでしまつた位のところであると思へばよろしい。古文書の『古』でもその邊のところで奈良時代から江戸時代迄廣がつてゐるのであると同じ意味である。

三　我國に於いて木造建築發達の原因

今更事新しくこんな題を掲げるには當らぬかも知れぬ。いふ迄もなく我國は、建築用材として理想的な檜を初め、有用なる木材が豊富であるから、石材もなくはないが何れも澤山にあつて仕事のしやすい方の材料を擇んだ結果である、其上概して氣候は温和だから、さう寒さに對して設備をせぬでもいゝ、だから木造建築が發達したのである。

此の理由はたしかである、併し此の他にも一つの原因として地震を數へ度い。木造建築は地震に對しては甚だ丈夫であつて中々倒れぬ、だから地震關係からいふと、何等の補强工事を施してない煉瓦造又は石造に比して倒壞率は少ないのである。

我國に於いては構造用材としての煉瓦を發明する必要はなかつた、煉瓦——塼——は石材も木材も少ない地方で發明されたのである。我國の如き木材は無盡藏であり、石材また相當に產出する國土に於いては全く裝飾用以外に塼等を造る必要を見ないのである。さうすると建築用材として木か石かといふことになる。純日本式木造建築の構架法は、今日に於いても隨分理屈に合はぬものだ、江戸時代に入り長足の進歩をしてこれだから、昔しは知れたものである。石造だつて無論極めて粗末な石の積み方をしたのであらう。

木造建築は火に遇うと一たまりもなく燒けて了ふ（但し今は防火劑が發明されたので燒ける心配はないさうである）、白蟻も喰ふ。昆蟲學者の説によると『やまとしろあり』なんか隨分古くからゐたさうである。ことによつたら土着かも知れぬ。火事で燒けても白蟻に喰はれても、材料はいくらでもあるのだから驚かぬ。其上地震に强いから始末にいゝ。此の間の關東の大地震の時、本所や深川のあの地所の惡いところで、あのやくざな町屋が倒れたのは十軒に一軒の割だときいてゐる、果してさうなら木造建築が如何に丈夫であるかはこれを以てみても判るであらう。

反之石の方は火災や白蟻の害から逃れる爲めには至極いゝが、地震には一たまりもなく顚倒してしまふ、そして其慘害の大なること木造の比でない、だから木造建築一點張で明治迄きたのである。諸外國の建築は何れも其昔し木造建築から發達して、漸く永久的の石造になつてゐるのに、我國はいつ迄たつても木造であつ

た、併し其美的價値に於いては決して外國の石造建築に負けぬのである。

四　古建築の價値

前述の樣に、古代から最近迄本造建築を以て終始一貫して來たといふが如きは我國だけであつて、而も幸に非常に古い建物が立派に保存されてゐる爲めに、外國では既に亡くなつて了つた樣式を我國の建築に於いて觀る事が出來るから、此點に於いて大層な價値があるのである。一二の例を擧げてみるが、曩に例に引いた大和の法隆寺の建築は、支那の唐以前――即ち南北朝――の樣式を傳へたもので、此れがなかつたならば、古代の木造支那建築の樣式を現在みることは出來ぬのである、今日本元の支那に於いては、唯纔に岩を刳つて佛像を刻んだ所謂石窟の一部にある建築的彫刻に於いて其手法をみる丈けの事で、完全な建築――木造石造とも――としての遺物は未だ發明されぬ、恐らく殘つて居らぬのであらう。さうすると此等の建築は――法起寺・法輪寺塔婆と共に――日本一であると同時に――世界一である。

更に一例を擧げると、希臘にパーセノン(Parthenon)といふ有名な建築がある、これは法隆寺を距る一千二百年許以前の古建築であるが、其柱は全部幾分か内側へ傾けてたてゝあるさうである。柱は元來眞直にたつべきものだが、さうすると上の方が開いて見えたりして、時によると建物の美觀に影響を及ぼす、だから分らぬ位少し内側へ初めから傾けてたてゝおくと、何となしに安全な感じがする許りでなく形もよろしい。古への希臘の建築家――Ictinus and Callicrates ――は洵に要意周到なものであつた、と人々は異口同音に褒めるから、益々有名になつた。併し我國にもさういふ例はある、固より我國のは此れに比べれば遙に後のものであるから、或は眞似たのではないかといふ樣な事を考へる人がないとも言へぬが、今日ならば兎に角、古代に於いては決してさういふ事は出來なかつたものと見るべきである。即ち我國の建築家が自發的にやつたものに違ひない。

夫れは大和五條にある榮山寺八角圓堂である。八角の堂だから側柱は當然八本あるが、其八本何れも皆幾分か内方に轉びがつけてある、其上柱は上の方を下より少し細くして形をよくしてある、尤も此の柱に胴張(Entasis)はないが、若しこれで胴が膨れてゐたらパーセノンと同じである。此堂は奈良時代の建築であるから、大凡法隆寺より百年後れる、だからパーセノンとはざつと千三百年の距離がある、其上石造と木造との差があり勞、比較するのは無理かも知れぬが、これを以てみても我國の古建築が外國の優秀な建築に比して決して劣るものでないことが判るであらう。

何事によらず外國のものを崇拜する癖を建築の場合にも出して、我國のは古寺位といつて馬鹿にする樣な事になると甚だ遺憾である。我國にたつて世界に一つほかない法隆寺堂塔や、希臘古建築に比して一歩もひけを取らぬ――のみならず意匠に於いては彼を充分に凌駕する――榮山寺八角圓堂のある事を忘れてはならぬ。

江戸時代になつて木割法が定められ、多くの場合種の下端と其明き――一枝といふ――とが單位となり、建物の各部分を其何倍といふ風に規則で定めて了つただから大建築でも、小建築でも、苟も建築であれば總てこの割出方でやる、だから益々其美的價値は下落するばかり、即ち木割法に捉はれた結果其樣式は墮落し

たのである。實際、古建築に比べてみると大してよくない。併し其木割に捉はれ其以外に一歩も出る事の出來なかつた建築ですら、隅の柱丈けは他のより一割丈け太くする事にきめてゐた法もあつた。いふ迄もなく隅には餘計な重量がかゝるだから其部即ち隅の柱を少し太くして、上の荷重を樂に受け得る樣に見せ、從て建物が安定に見える樣にさうしたのである。其太くしかたは何も一割と限つたことはないので、勿論目分量でいゝ加減太くすべきであるが、夫れではたゞの大工に見當がつかぬ、そこで先づ一割と定めたのであらうが、例へ墮落しても何でも棟梁の頭は棟渠丈けの價値があり、一割增といふ樣な事を考へ出して猶且建築を安定に見せやうと勉めたのは大に多とすべきである。バーセノンの隅柱亦少し他より太いのは面白いことである。

我國の社寺建築は何れも軒が多少反つてゐる、反りの少ないのは桁丈げで加減するが、多いのになると中々桁丈けでは追ひつかぬ、そこで隅柱を少しく長くし、頭貫から幾分反らせて自然に桁に及ぼし桁ばかりが餘り澤山に反りすぎて見たところがまづくない樣にしてある、中々うまい考へであるが、これは歐米の建築にない。

以上記したのはほんの一二の實例に過ぎぬが、此れを以てみても我國木造建築は何れも周到なる注意の下に建造されたものであつて、外國建築に比して決して劣らぬものである事が判るであらう。

五　和洋。唐洋。天竺樣。

宇多天皇の御世に遣唐使がやめになつてから平安時代の末迄は支那との交通が絶えてゐた、從て所有美術工藝は純日本化したのであつた。後に江戸時代になつて鎖國の結果再び日本化したが、平安時代のは第一回の日本化であつた。然るに次の鎌倉時代になつてから、これ迄交通の中絶してゐた支那との關係が復活されたが、唐は既に亡び國は宋となつてゐた。夫れで此時宋から新に『唐樣』『天竺樣』といふ二樣式が入つて來た。そこで在來からあつた式、即ち平安時代から受ついだ式を此れ等に對して『和樣』といふ事にして便宜區別をつけたのである。爰に於いて和・唐・天の三樣式が並び行はるゝことになつた。

此の內和樣は勿論、唐樣は禪宗を背景として旗色極めて鮮明に、いつ迄も其樣式を保つてゐたが、其細部は既に鎌倉時代に於いて和と混淆して用ひられた、例へば室生寺灌頂堂に於けるが如く、和樣建築の妻飾に虹梁大瓶束が用ひられた如くである。天竺樣にありては其命脈最も短かゝつた。遺物からみると、俊乘坊重源と終始してゐる樣である、そして其遺物は彼の巡錫した所にのみ殘つてゐるのである。重源の生年は不明だが、仁安二年入宋、翌三年九月榮西と一所に歸つた樣である。仁安二年の何月に出發したか分らぬが、先づざつと往復共一年半位であらう、建久六年六月寂したさうだから、歸朝してから死去する迄ざつと二十八年ばかりあつた此間に出來たのが天竺樣である。其代表となつたのは建久再建の東大寺大佛殿で、即ち此の式が此の建物に用ひられたのが初りである、そこで一名『大佛樣』ともいふ。序ながら今の大佛殿も同じ樣式であるが、これは元祿再建の際建久のを眞似したのである。

今日純粹な天竺樣の建築で殘つてゐるのは

兵庫縣加東郡小野町大字淨谷、淨土寺淨土堂、　建久五年。

京都府宇治郡醍醐村大字醍醐、醍醐寺經藏　建久六年。

奈良縣奈良市　東大寺南大門　正治元年。

の三つで、幾分不純な分子、といつては語弊があるかも知れぬが、右の三つ程純でないものに

兵庫線加東郡　淨土寺本　堂（藥師堂）（建久四年創建／明應七年燒失／永正十四年再建）

奈良縣奈良市　東天寺開山堂（良辨堂）　建長二年（？）。

同　同　鐘樓　延應（？）。

同　同　金堂（大佛殿）　寶永六年。

があるが、すつかりで此の位のもので、あとは一部に其樣式を止めてゐる丈けである、例へば敎王護國寺金堂の樣に。

東大寺南大門は彼の死後五年目に出來たのであるが、恐らく此の門に此の式を採用することは、大佛殿を再建する時から決まつてゐたに違ひない、だから此の三の建物は彼の生存中に落成したとみられる、だから何れも純粹の天竺樣である同時に建久再建の大佛殿の如何に規模壯大で堂々たるものであつたかを想像すると、三好松永さへゐなかつたらと思はざるを得ない。私はいまに暇が出來たらせめて建久の復原圖をひいてみ度いと思つてゐるが、殘念ながら當分出來さうにもない。

然るに良辨堂となると、建長二年（？）といふのだから、先づ假にさうしておくと、重源の死後五十六年目の建築であるから、純粹ではなくて細部に和樣が入つてゐる樣である、例へば軒下の大斗肘木や、內軒柱上斗拱間に用ひてある二つ斗の肘木の下端の曲線は、どうも天竺樣といふよりは和樣に近い。また內外陣柱の繫虹梁の形等も兩方の手法が交つてゐるのみならず、此場合は和樣が九分迄占めてゐる。大斗肘木と稱する組物は上醍醐經藏に見出さるゝから、初めからあつたと考へられなくもないが、二つ斗の方はどうであらうか、今のところ私には確答しかねる、自由に想像してみると、天竺樣が我國に入つてくるなり、當時の頭腦明晰な建築家は直に和樣の大斗肘木を應用して、天竺樣の夫れをつくり出したのであらう、と考へると此の組物は和樣の影響であり、二つ斗は唐樣の影響であるのではあるまいか、と疑ひ度くなる。此の事については、いづれ其內もう少し詳細にある雜誌に書いてみやうと思ふからこゝには略しておくが、結句

和樣。鎌倉より現在に至る

唐樣。同上。其純粹なるものは禪宗建築に於いて見得るのである。禪以外の宗敎建築に於いては、或は和樣と混じたり、又は天竺樣に影響を及ぼした樣である。唐樣に特有な花頭窓や扉等に用ひられた花狹間等は　支那から輸入したものだから、回敎建築の細部の影響で、夫れが材料の關係上、我國に於いてみる樣なものになつたのである、と考へてはいけないだらうか。どうもこの二つは特に回敎建築に關係がありさうである。即ち我國には建築全體としては回敎の影響はないが、部分的にはあると言ひ度いのである。次に唐樣は和樣又は天竺樣と混淆し折衷式が出來た

天竺樣——大佛樣。鎌倉初期重源生存中行はれたので、其後は單に手法としてのみ存し、和樣・唐樣等と混じて折衷式を作り出した。

天竺樣にも棧唐戶はある。現存の實例からいふと、最上部鏡板のところは、縱橫の木に大面のとつてある

格子から成つてゐる（上醍醐經藏内外陣境及び内陣經室の扉。正面入口の扉は後の修補）だから唐様では花狹間を入れてあるのに對し、天竺様ではたゞ格子になつてゐる丈けの差である、故に此内に何か入れゝば花狹間になる、故にこれ亦唐様のと同じ様に考へられなくもない。

折衷式。和唐・和天・和唐天の各様式が混淆したもので、鎌倉以降相當に行はれ、室町に入りて大成された。

といふ事になる。

飛鳥から平安末迄は様式は後の所謂『和様』唯一つであつたが、鎌倉へ入ると急に二つの様式『唐様』と『天竺様』とが入つて來て、間もなく雜種なる『折衷式』が出來、こゝに合計四つの式が出來て大分賑がになつた。のみならず、これ等新輸入の二様式がいろいろに影響を及ぼしたのである。だから古建築を觀察する時は先づ以て鎌倉以前か以後かを見分るのが一番いゝ、そしておいてまた細かく調査して行くと、單に様式からばかりでも大概の見當はつくものである。

六 古社寺の分布

特別保護建築が國内に如何様に分布されてゐるかといふに、京都府奈良縣が最多で、滋賀兵庫之れに亞くのである、古さからだと、奈良・京都・滋賀・兵庫の順序である、何れの點から觀ても近畿地方が第一位を占めてゐるのである。古い時代のも面白いし、類例が少ないから極めて貴重ではあるが、夫れは夫れとして、鎌倉時代のいろいろな様式が並び行はれた時代のは復雜な丈けに面白味は多いやうである。

現今鎌倉時代の唐様建築の遺物で一番古いのは圓覺寺舍利殿で、弘安五年の建築である。天竺様の最古の淨土寺淨土堂とざつと九十年の差があるので角力にならぬ。唐様は榮西・道元等が宋より移入したとされてゐる。道元の方は生れたのがあとで（貞應二年入宋安貞元年歸朝）宋へ往つたのも歸朝したのも共に後れてゐる——が、榮西が最初に渡宋したのは仁安三年で同年歸朝し、次に文治三年再び入宋建久二年歸朝、直に筑前の博多に聖福寺を開いたので、卽ち我國に於ける最初の禪寺である。此の建築が果して所謂唐様であつたかどうか判らぬが、新に傳へた禪宗をひろめたところ、道俗漸く歸依したとあるから、いづれ相當立派な新様式の寺を建てたと考へてもよからう、さうすると、これも當初のものは燒けて了ひ、今のは室町時代の再建ではあるが、天竺最古の建築たる建久四年の淨土寺本堂——藥師堂——や、此れに亞く同寺淨土堂又は同六年の東大寺大佛殿と略ば同じ時で、鎌倉の極く初めに唐様・天竺様共に行はれたと見ても大して不都合はあるまい。尤も榮西の禪宗は建久五年禁止の厄に遇ひ其後いろいろないきさつがあつて、遂に正治二年彼は鎌倉に壽福寺を開いたのである。こんな有様であつたが、前述の如く古い建築は唐様の方では、現今弘安五年を出でぬから、はつきりした事は言へぬが、右に記した様に今のところ考へてゐるのである。

和唐折衷式では、建武再建の觀心寺本堂の式を踏襲し、夫れをもつと上手に取扱つた上、規模もずつと大きいのが應永四年の鶴林寺本堂である。淨土宗と同じく兵庫縣にあるが、加古郡鳩里村で加古川驛から近いから往くには餘程便利である。觀心寺と同じく柱上は和様三斗、斗の間は脚の兩方に充分に廷びた背の低い板蟇股の上に唐様二斗がのつてゐる、其他唐様建築の要素たる海老虹梁もあれば桟唐戸も用ひてある。殊に内陣安置の厨子に於いては、斗拱・須彌壇及び勾欄の

一部が唐様なるに、寶珠柱・斗栱・板扉・柱等は和様で最も和唐調和の妙を極めてゐる、だからうつかり見たのでは、唐と和との部分が區別がつかぬ、即ち兩方の細部が並んでゐて少しも目障にならぬ様に洵に、上手に取扱つてゐる。

斯く兵庫縣には、雄大莊重で而も變化に富んでゐる純天竺様なる淨土寺淨土堂や、和唐折衷建築の最も發達せる鶴林寺本堂等、時代は割合に新しいが珍らしい建築がある。然らば古社寺の本家本元たる奈良縣はどうかといふに、飛鳥・奈良の第一流の建築のある上に、鎌倉のではいろいろあるうち、和天折衷式では東大寺開山堂があり、これが大阪府の觀心寺や兵庫縣の鶴林寺を向ふに廻してひけをとらぬものである。京都府には平安時代に屬する醍醐寺五重塔や、同時代の阿彌陀堂建築の標本たる、平等院鳳凰堂・法界寺阿彌陀堂・往生極樂院本堂等があり滋賀縣に行けばまた珍らしい特色をもつた建物、例へば神社建築としては日吉神社、寺院としては和様の代表たり得るに充分なる資格のある金剛輪寺本堂や西明寺本堂がある。東北に行けば中尊寺金色堂あり、九州には八幡造の名を獲たる宇佐八幡宮や、これも平安後期の阿彌陀堂なる富貴寺大堂あり、其他出雲大社・嚴嶋神社・善光寺本堂(信濃)等、大概各縣に少なくとも一つづゝは珍らしい建築が、いゝ工合に分布されてゐる。其内で殊に近畿に多いのであるから、此地方に住居又は在住せらるゝ建築家諸君は、暇でもあつた時は、成るべく附近の保護建築を視察せれら、常に取扱つて居らるゝ建物と全く別棟のものに接し、古人苦心の跡を觀取せられん事を勸告するのである。

終りにのぞみ、甚だ失禮な申分であるかも知らぬが、古建築を大事にして貰ひ度い、落書や札貼等は一切せぬのは勿論必要なくば手を觸れぬ様にし度いのである。日本人は惡い癖があつて、神社佛閣へ行くと素木の部分又は白壁へ必ず字をかいて來る、別段惡意で殊更汚してやらうといふつもりでするのでないのはいつも定まつて年月日住所姓名が書いてあるので判つてゐるが、確かに惡い癖だ。下らぬ人間なら致し方もないが、少なくとも外見紳士と見ゆる様な人物が落書をしてゐたのを目撃したのは何回もあつた。中學生位なら未だ止むを得ぬとするが、師範學校の四年生——もう半年で小學校の先生となる連中——が、□□縣師範學校四年生□十□名參詣、大正十□年□月□日、と落書をしてあるのをみたことさへある、勿論引率して行つた敎師にも責任はあらうが、書いた男は言語道斷である兎に角こんな風で平氣で落書を皆するのは困つたものである。近刊のある雜誌に『姑蘇影片』として水島爾保布といふ人の紀行文が載せてあつた、其中の一節に

> 虎丘の塔の壁上は殆ど落書で一ぱいだ。その全部が日本人だ。さうして何れも住所姓名で終始してゐる……日本人のになると、ヒンからキリ迄何々縣何々郡の何の某だ、なつかしくも何ともないどころか全く呆れちまふ。こんなことにも自然國民性が現はれるものとすると、何うも日本人は餘り高尙なものぢやないやうである。アメリカで排斥されたやうに、同文國民族だとつつてばかり勝手に極めてかゝつてゐる支那人からも排斥されるかも知れない、いくら大國の民は呑氣だつて、かういふ無茶苦茶な落書を見てさうして自國の所有品である名所や舊蹟を無意味に汚されたことに氣のつかない筈はない。おまけにひどい惡筆ときてゐる。……その揮毫さに輪をかけた惡筆が彼等の名所古蹟に跳梁跋扈してゐるのである。爲めに日本人といふものに對する彼等の心證はどの位惡いか判やりしない。

とある、私は無條件で此の說に贊成する。

日本人には未だ惡い癖が他にも一つある、夫れは社寺へ行くと札を貼つて來る癖である。どうでもいゝ様な近代の二束

三文の建築――美術上より觀て――へならいくら貼つても大して不都合でもないが、彼等は特別保護建造物へも平氣で貼るのである、而も此の種の建築へは禁止の條項をかいた木札が出してあり、其中に建物へ札や廣告の類を貼つてはいけないといふのが立派にある、にも係らず俗惡な嘔吐を催す樣な名の所謂『お札』なるものが所嫌はず貼りつけてある、いふ迄もなく落書と同じ位に惡い。

總ての人が下らぬ落書をせずに居れば社寺の建造物は美觀を保つてゐるのである、お札また然り。私の希望は所有保護建造物は、古名匠が苦心に苦心を重ねて建てたものである事を思ひ、自身が設計監督して造り上げた邸宅や鐵筋混凝土の立派な建築と同じ程度に保護せられ度いのである。

（大正十三年十月十八日講演　大正十四年二月修正、同十四日稿了）

藁屋根の美しさを取入れた和蘭の家

アムステルダムの人々はウエンデインヘン（くる〳〵廻つて進むといふ意か）といふ雜誌に彼等の作品を發表して居る、其上藝術家村が其人々に依つてベルヘンの森の中に建てられて居る。其の中には若いお孃さんの建築家が最も優秀な、實に美はしい女性的な感じを出した建築を作つて居るのである、彼女はクロポラー孃と言ひ其家の名を『山櫻林の片隅』と呼んで居る。

◇

藁の家で有名なのはヴエルサイユの宮殿の近くにあるプテイツトトリアノンである。マリアアントハネツトの名で史上に鮮かなあの隆盛を極めたルイ十四世の頃に出來たものである。華麗壯嚴を以て世にたぐひなきヴエルサイユ宮殿にも人は遂にあきる時が來るそして其處にひるびたしつくりしたものを求めやうとする心が起つて來るのである。

◇

然しフランスではそれで藁葺の家がお終ひであつたがオランダではウエンデインヘンの人々がベルヘンに作り出してからそれが一般の大住宅に作られるやうになつたのである。藁に依つてしか表はせない形が、其處にある事を彼等は知るのである。

◇

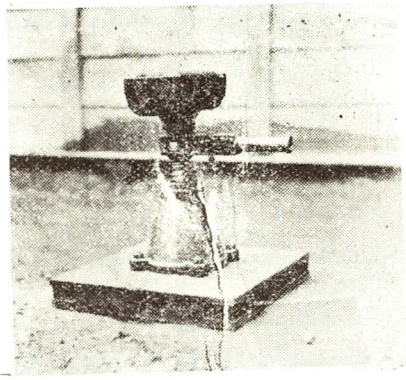
くすんだ煉瓦と、草の屋根の住宅が現代の田園都市に如何に美はしく發展して居る事であらう。あの水田などは一つもない、限りなく擴い牧場に建てられる藁葺の家は、たとへやうもなく美しいものである、茶室の閑雅幽玄の趣味を傳統として持つ日本が、それ等の住宅と同じ喜びを持たない筈はない

◇

更に夫等の我々の茶室趣味に似通ふ住宅を作つて居るオランダは瓦の屋根の家にも陸屋根の家にも、現代アメリカや獨逸風の建築とは趣の變つたものを作つて居て我々の眼には一層になつかしい親しみを見出すのであるが、家庭的に血や涙にオランダをみとめて居る日本がそれと同じ趣味をもととして近代の文化を充分に取り入れたオランダの住宅が、少しも知られてない事を不思議に思ふのである。

家屋移轉用『ローラ、ジヤッキ』に就いて

復興局建築部（安）



區劃整理施行の爲め短時日に多數家屋の移轉を要するを以て當部に於ては移轉工事を敏速簡便に行ふ方法に付き種々考究せる結果一つの移轉器を考案し之を試作して實際に試驗したるに短距離の移轉に在りては殊に好成績を收め得べしと信ず。

本器は寫眞に示すが如く通常の「ジヤッキ」の頂部に「ローラー」を取付けたるものなるを以て之を「ローラージヤッキ」と名付け民間に貸與する計畫の下に既に百六十個の製作を了したり。

一、構造及操作　第一圖は本器の全部を、第二圖及第三圖は頂部の正面と側面とを示す。

圖示の如く木製の臺に「スクリウ、シヤフト」受(4)を「ボールト」にて取付く、「スクリウ、シヤフト」(3)の頂部に「ローラー」(1)を置く、「ラチエット」(2)を左右に動かす時は通常の「ジヤッキ」の如く「ローラー」受及「ローラー」を昇降せしめ得故に本器を移轉家屋の脚部に結び付けたる「レール」に當て家屋を上げ箱「ジヤッキ」又は「ウインチ」にて家屋を押すか又は之を曳けば「ローラー」は廻轉し、家屋は移動す。

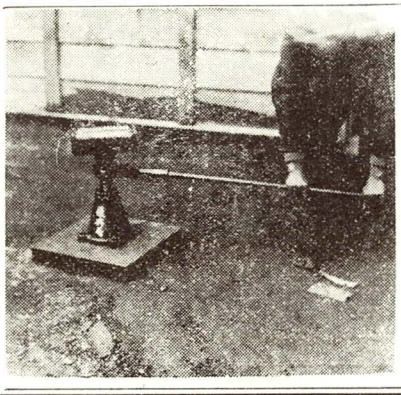
本器の荷重耐力は五噸なり。

二、使用方法　普通の家屋を移轉するときは「ローラージヤッキ」八個を使用す。

移轉すべき家屋は先づ在來の曳方工法の如く腰結をなし移轉せんとする方向に地面より二尺內外の高さに「レール」又は角材を結びつく家屋が第四圖實線の位置に在るとき(A)の位置に「ローラージヤッキ」を一個づつ「ローラー」の軸を「レール」に直角に當て「ラッチエット」を動かし家屋を上ぐ斯くして「箱ジヤッキ」にて押すか又は「ウインチ」にて曳けば「ローラー」は廻轉して家屋は前進す家屋が五六尺前進し破線の位置に到れば前進作業を中止し他の「ジヤッキ」四個を(B)の位置に据え「ラッチエット」に依り「ローラー」を上げて家屋を支持し(A)に在る「ローラージヤッキ」を取り去り再び前進作業を行ふ斯く繰返して家屋を指定の位置に移すことを得

次に家屋を斜に移轉する場合には「レール」又は角材を移轉の方向と平行に結び前同樣の作業を行へば可なり第五圖に示すが如し。

三、試驗　當部に於て荷重耐力五噸の「ローラージヤッキ」八個を作り之を使用して十八坪の家屋を數回曳行し見たり、作品には「スクリユー、シヤフト」の折損を懸念し「ステイ」を設け又「ローラー」四個を附したり初め「ステイ」を使用し「ローラー」四個を附し、試驗を行ひ次に「ローラー」を二個に減じ「ステイ」を使用せずして試驗したるに危險の虞なかりき試驗に當りては從來の曳方工法をも行はしめて之を比較するに當初に於ては「ローラージヤッキ」使用の曳方は不熟練のため從來の曳方工法に及ばざるが如くなりしが次第に熟練し作業容易となり好成績を得たり試驗の結果より推すに「ローラージヤッキ」は從來の方法に比し多くの木材を使用するを要せず作用簡單にして比較的輕き建物を十間內外を移轉するに最好都合にして區劃整理に於ては近距離の移轉多く家屋も亦輕きもの多數を占むるが故に「ローラージヤッキ」は好成績を擧げ得べしと考ふ。（附圖省略）



實用新案法　大正十年四月三十日法律第九十七號

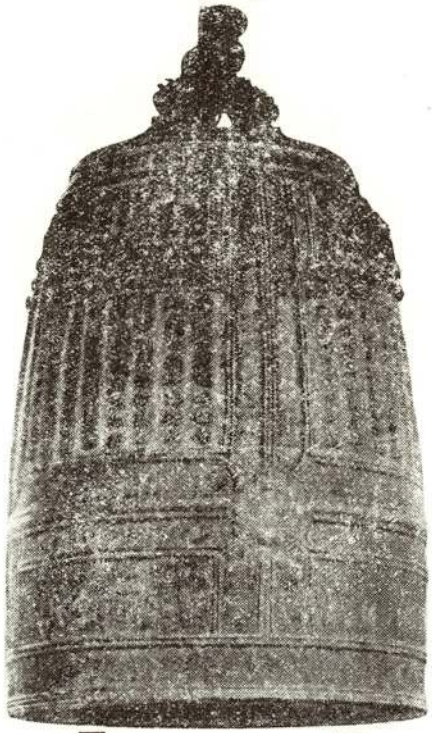
第一條　物品に關し形狀、構造又は組合せに係る實用ある新規の型の工業的考案を爲したる者は其の物品の型に付實用新案の登錄を受くる事を得

第三條　本法に於て實用新案の新規と稱するは實用新案が左の各號の一に該當することなきを謂ふ

一、登錄出願前帝國內に於て公然知られ若は公然用ひられたるもの又は之に類似するもの

二、登錄出願前帝國內に頒布せられたる刊行物に容易に實施することを得へき程度に於て記載せられたるもの又は之に類似するもの

榮山寺



榮山寺の梵鐘（國寶）

池田谷久吉

榮山寺は梅寶院ともいひ開基當時は法相宗であつたが現今は新義眞言宗豊山派初瀬寺の末寺である關西線大和の五條の驛から東方吉野街道に沿つて約八丁程のところから左手へ折れて細い道を辿ると宇治川の畔に磨崖碑といふのがある、この宇智橋を渡つてから四五丁行くと紀の川の上流吉野川の河畔に出る。

この邊一帶を音無川ともいひ高い涯と白い廣い河原、瀬を行く水の音も靜かにて清く澄んだ青淵の水の色と金剛の山容とが美しい調和をなして全く繪の樣である。

春舊三月節句には近在の人々集り屋形船を河面に浮べて河原に一日の清遊を恣にするほどで隨分賑かである、この絶景を五六丁も行くと寺に辿り着く。

役の小角の創建で奈良朝元正天皇養老己未三年（西暦七一九年）藤原武智麿の開基である。

現存の堂塔は、金堂、八角堂、求聞持堂、鐘樓、阿彌陀堂（本堂）庫裏、七重石塔等であるがこの八角堂こそ武智麿の子右大臣仲麿が生妣の爲めに建立されたものとして承治二年の文書に錄されてゐて天平時代の優秀な作品である。

貞觀八年鐘及露盤を失くしたが其の後延喜二年別當神鏡舊態に復



天蓋の極彩色畫

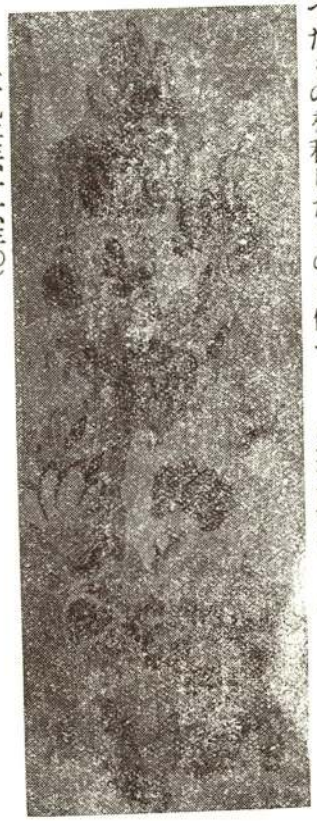
したが再び頽廢し寛治五年大修理を施してゐる。天正八年堂塔殘らず燒失したが幸にも八角堂のみはその災厄から遁れたものにして現存の本堂は元和二年紀州粉河寺から移建したもので從つて古代のものは八角堂以外には何ものもない。

八角堂は一邊一間五尺間宛の單層瓦葺（元藁葺を明治四十二年瓦葺に改築）にて八角の石壇上に建ち法隆寺の東院夢殿と形も時代も同樣のもので美しい格好に出來てゐる。細部組物は三ッ斗の簡單のものであるが雄健な木割は強い力の線の美を現はし、軒は二軒にて、飛檐棰は角材にて地棰は丸を用ひよく天平時代の特徴を充分に發揮してゐる。內部は化粧屋根にして極めて思ひ切つた大膽な手法にて外部の柱は八角なるに代へ內陣に角柱四本を建て天井の代りにこの八角內に四角の大きな天蓋を下げて、然かもその格天井、柱及柱上の貫などは寶相花や天人や雲などの極彩色を以つて裝飾してゐる。勿論彩色の多くは落剝してゐるが當代の裝飾としては唐招提寺金堂のものと共に重要な遺物である。

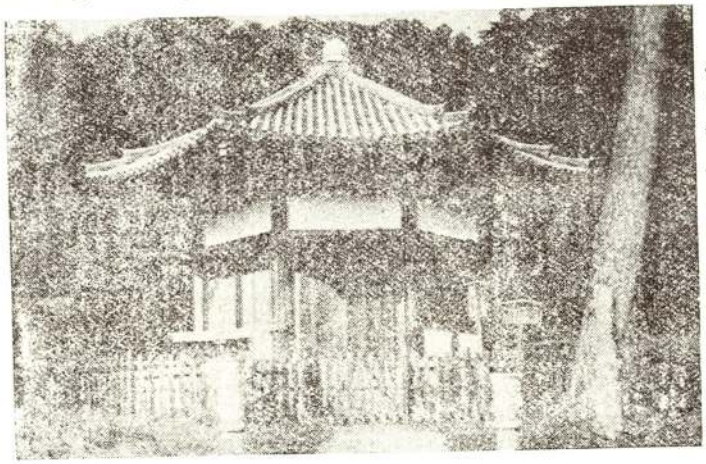
尙八角圓堂としては法隆寺夢殿、興福寺北圓堂、南圓堂と共に有名であるが土地が不便の爲めに周知されないのが殘念である。

七重石塔は臺石二尺五寸方高一丈のもので笠石の形はなか〳〵古雅に出來てゐる。この寺の佛像としては本尊藥師如來及大日如來等であるがよいものではない。然し鐘樓の銅鐘高五尺、徑二尺九寸五分にて小野道風の銘にて菅公の文の入つたもので文字實に優美殊に其撞座は一種の新奇なる形狀にて當代のものとして製作の巧妙を以つて知られ所謂日本三銘鐘の一に數へられてゐる。この鐘は延喜十七年のものにて元、由城の深草道澄寺にあつたものを移したものと傳へられてゐる。開祖武智麿の墓所は寺の後の小島山にあるが荒みはてた廢寺の樣な今の諸堂と思ひ比べて過去の天正時代の爛熟し切つた文化の跡が一層悲哀を痛切に感せしめる

（一九二三、一一、三〇）



八角堂寶相華文



榮山寺八角圓堂



建築の眞實と虚僞其他

＝歪みなく生きるといふこと＝

櫻木浩

時代は絶えず轉變する。轉變は時代の避け得ざる必至の相である。轉變は時代の生命である轉變なき時代は畢竟冷死せる時代であるに過がない。人間文化の發生以來少くともすでに數千年、曾ていまだその時代の轉變の何等かの投影を示さぬ何物もない。如何なる文化の昂揚も曾てその背後に時代の轉變を有たなかつたものはない。如何なる時代の先驅者或は逃避者も曾てその時代の轉變と完全に絶縁し終せたものはない。時代は、畢竟、文化への絶對的の王である從つて、如何に時代に先行し得た藝術も、曾てその光榮の幾分をその時代に負はなかつたものはない。文化の全景は時代の子である。わけても藝術は時代の子である。しばしば、藝術は自ら時代を創ると自負し乍ら、しばしば、時代に依つて僅かにその誕生を許容される。或る藝術が一つの限られたる時代に於いて、その時代の人の生活に最も深強なる交渉を有ち得るとすれば、それは、その藝術がその時代喜ばれたる子であるからに過ぎない。或る一つの時代は、その時代の當然の要望として、その時代の藝術を希求する。あしき時代はあしき藝術を生み、よき藝術はよき時代にのみ生長する。或る一つの藝術は或る一つの時代の必至の子である。彼のルネサレスの爛熟期むしろ頽廢期に於いて、たゞ趣味の愚俗さのみ有つて藝術的敎養なき當時の王侯貴族の低劣なる要求に基いて發生したる建築の一樣式バロックは即ちこの好例である。もとルネサンスの一樣式であり乍ら、彼のゴシック乃至ルネサンスがその各々の時代のその燃ゆるがごとき信仰的意慾或は啓蒙的覇氣を以つてそれに最適なる必然的の表現樣式を貰く選んだのに對して、バロックがたゞ簡潔を輕視しやうための根底なき複雜化、たゞ時代の爛熟を誇示せんがための意義なき贅澤化を喜び、ひたすら技巧的、裝飾的、溺弱的、末梢神經的なる歪める魅力をのみ追ひ、たゝ藝術の必至的內質なき淺薄なる形式を美の至上として享樂惑溺し、遂にはその構造乃至材料等の本質には何等の關與もなき空虚なる形式主義に墮し去りし所以のものは、一つに當時の爛れたる

時代意識の雄辯なる反證である。或はまたロダンをしてその極度にまで洗練されたるよき趣味とその躍動せる永劫の美の輝きとに驚嘆せしめたるゴシックはこの好例である。そこには選ばれたる進取的自由、完成されたる意匠の美とがある。そこには燦えあがる生命の喜悦が激しき情熱をもて横溢する。その外貌をのみ單なる彫像や色彩の空しき羅列で裝はず、簡明壯重質實等の釀成する特異の美しき藝術的効果を有ち、その藝術的雰圍氣は厭くまで清純高貴である。こは、即ち、當時の時代人の止み難き神への情熱的なる憧憬　完全を求めて純情、美への生命的なる感興等の扶き反映以外の何物でもあらう。從つて、ミラノ本寺、クウタンス本寺、マクルウ寺、ブリユウジの鐘塔等を初め、全らゆるゴシック建築のもつ彼の洗練されたる趣味のよさは、畢竟その時代人の洗練されたる藝術的敎養のよさである。ゴシック建築は遂にゴシック時代の嫡子である。時代は生むべき子を生んだに過ぎない。

然らば、時代とは何を意味するものであるか。

時代とは、一言で言へば、生活である時代の發生は、疑ふまでもなく、生活の誕生である。曾て生活なくして時代のみ存有し得たことなく、生活あつて時代のこれとその軌を供にしなかつたこともない。人間時代は、實に人間生活の創生と同一の瞬間からのみその出發を初めるのである。從つて、藝術はその誕生を生活の發生と時を等しくする。生活なくしてもとより、藝術はなく、あしき生活のみあつて、よき藝術はあり得ない。藝術が人生にとつて何等かの意味を有ち得るものとすれば、そは藝術と生活とを無二一如のものとして感得することに依つてのみ、人間生活に於ける藝術の高き光榮と効果とに私達は衷必よりの信賴を賭け得るのである。藝術は單なる表現の遊戲ではなくて、激しき生命の必死的なる把握だからである。ヴイトルヴイウスをして實にまことの正しき建築の創見者なりと言はしめたギリシア人傻れたる建築は、そのドリックの壯重とアイオニックの清楚とコリンシャンの華麗との如何を問はず、全ては彼等の純眞な生命と清澄なる生活との誇り高き反映でないものはない或は壯大艶麗であり或は簡明整調にしてそこに餘すところなく彼等の生活意慾の一切を描破し表現しつくして、煩粗亂調ならざるは彼等の生活の如何情操の香り高くその生命の如何に感能の輝き美しかりしかを示すものである。彼等の柱式に美は即ち彼等の生命の輝きである言ひ得べくんば、藝術は生命そのものである。生命は即ち生活である。藝術は即ち生活である、藝術の香氣は、　竟生活の光彩である。近代人の驚嘆すべき雜多なる發見のうち、最も重大にして光榮ある歷史的發見は、藝術と生活との無二一切であることの發見である。藝術が他の何物にも增して人生の直接即直なる絶對表現として賞揚され價値づけられる所以のものは、即ち　それが決して生活と遊離し浮動せるものではなく、直ちにそれが求めらるべき生活それ自體だからである。

生活はもとより嵐に搖るゝ流雲や流れに漂ふ水草の如きものではない。まことの生活と呼ばるべきものゝ根は千古に變改することなき絶對生命である。生命なき生活は斷じてあらぬ。生命の冷却は全らゆる存在の全的死滅である。從つて、藝術は人間生活の種々相の一切に於ける赤裸の生命への、絶對絶命的の激越なる肉迫突入である。他の一切はことごとく躊躇なく放棄し、たゞこれのみを永劫に

確立しやうとの燃え昂り輝き渡る情意である。その焔は永劫の世界を照破して餘さない輝きの燈明であり、その力は天地を創造せりと言ふエホバの創世記的威力である。その決意は自らの生命を燃却し去つて毫も悔いやうとしない根強き信意の上に立ち、その意慾は厭くまで自らの眞實の一路を行きつくさうとする執念き感能の中に立たうとする。その表現はあくまで自らの主觀の意力的表現であることを要する。あくまで自らの生命の正しき認識を正しく主張し通す絶對必至の表現であることを要する。あくまで自らの心靈の本質的價値を深く重く眞實の奥底深く樹立しやうとする質的表現であることを要する藝術は單なる生活の玩具ではない。遊戯が生命を創造することは能きない。シルレルが藝術は人間の有する特異なる貴き財寶であることを主張し乍ら藝術の目準をして單に自己の遊戯的表現であるとなしたのは、斷じて藝術にとつては正しくはない。生活が單なる遊戯である間、その生活は單に死滅せる存在であるにすぎない。藝術は單なる表現でのみあることが能きない。生活の把握を他にして藝術の生活はない美學を單に知ることは直ちに藝術への深き理解とはなり得ない。文字を有つことが直ぐ藝術の創生を意味することは能きない。曾てギリシャがかくも燦然たる優はしき藝術を有ち得たのは、彼等がその生命の赤裸の本然の姿に生活したからである。彼等の生活を離れて彼等のホオマアもアポロ神殿もない。藝術の生長とは、生活の生長である。藝術の完成とは、畢竟、生活の完成の他ではない。

然らば、生活の完成とは何を意味するものであるか。

生活が生命であることはすでに言つた生命はもとより野の百合花の如きものではない。生命の根底は、疑ひもなく、永劫の深奥に達着する。その基根の堅確さは『太初（はじめ）に道あり道は神と倶にあり道は即ち神なり。』（ここは）と理神の世界のものである生命の根原は、即ち、神より出づる眞實である。生活の完深とは、故に、眞學の完成の謂である。

眞實は人生の根である。わけても、藝術の根である。眞實は一切のよきものゝ母胎である。眞實を理解し得ないで、何人も生命を解し得ることは能きない。眞實は一切の存在の創造の母である。何人も人生の深奥なる眞實の内質に觸れ得ないで、藝術の精緻なる本質の深さと適確なる交とをもち得ない。優れたる藝術の香り高き魅力は、先づその藝術の醗母なる眞實の光輝である。單に藝術の表相にのみ於いて徒らに刺戟的、焦燥的、異常的であることがすぐその藝術の魅力の本然の相ではない。優れたる藝術に激しく脈うつその本質的價値は、眞實の他の何物を以つても斷じて左右し得ない本質的價値である。千古に生長して止まない藝術は眞實の血を以つて、生き空飾を以つて自らを愚かしく裝はない。眞實に徹底してゐること、この外に藝術の生命はない。眞實を自覺し強調するといふこと、これ以外に藝術の存在價値はない。よしそこに如何なる激しき苦悶があらうとも所謂世俗の虚僞とは斷じて妥協しやうとは希はない眞實、如何なるジャアナリズム的ながら騒ぎも昂奮も遂にこれを左右し得ない根底の深さに立つ眞實、その本末の面目のためには自己以上の一切を奪取されても些も悔いやうとしない眞實、これのみが價値でありこれのみが絶對であることを主張して最後まで誤たない眞實、かゝる眞實の絶對道をゆくより以外に藝術の積極道はない。眞實なき安易の

堕勢との圏内は藝術の殘骸の集積場であるにすぎない。或る程度の頭いよさや或る程度の作爲的技巧等に依つて接近し、融合し得る範圍の狹さには眞實はゐない。眞實は單に、附加物に依つて推積し、裝蔽さるべき、表皮の世界には屬してゐない。眞實は外界への卑しい、計畫的なる示唆と、誇表とを蔑視する。眞實は直ちに外面の感じのよさ柔らかさ等を意味しない。眞實は外圍への安易な開示でもなく現出でもない。藝術の完成とはあくまでその眞實に深く重く沈潛してゆくことの調てある。眞實は他の何物にもまして人生の底深くへ靜かに沈む。その美は根底からの美、その力は根底からの力である。從つて、藝術に於いて何よりも先づ求められ、必ず求めらるべきは、眞實である。建築の眞は構造の眞である。その構造は單に空高く伸立せず、深く土と眞實とに根底をもち、そこに彈力強く實在することを要する。從つて、生れ乍らの眞の藝術家は生れ乍らの眞實の使徒であることを要する。シャムポイヨンをして『古代でも近代でも一國としての建築をこんなにも宏壯な規模に、こんなにも偉大な印象に、こんなにも精緻自在に成し就け得たものはなかつた。』と驚嘆せしめた世界最古の美術民族エジプト人が、建築術の發明者と呼ばるゝギリシャ人に先き立つて、ギリシャ初期の時代の建築の實に幼稚拙劣なりし以前すでにかの驚嘆すべき特異の建築を續々完成し、石工冶金等の法を敎へ、石材鍊瓦等の使用法を示し、その柱式のいくらかは繼承せしめ事實に於いてギリシャ文化の先驅をなせし所以のものは、たゞ彼等が彼等が神への敬崇の念如何にもつよく、ひたすら永劫と自然と生活との眞實を求め、生活は宗敎として生活し、宗敎は藝術として具體化しやうとの民族的意慾のまゝに、一意その信ずる眞實の途を、歩みしに依るのである。そこには自信づよき力と威嚴と堅確、狂ひなき安定と牢強と忍耐とがある。その平面と立面との混交された一見奇怪なる繪を殘したことによつて、彼等は整々と對像との觀念を缺いでゐたと批評され乍ら、かのピラミッドの幾何學的な正確さとマスタバのいくつかに察見し得るあの重厚壯重さは、今も彼等の體得せし眞實をして私達の胸のうたしめるものがある。『エジプト人は強力、恒久、壯嚴、諧調、有効なる活動等の性質を素晴らしく完全に所有してゐた。』とペトリイエジプト人への限りなき愛をよせて斷言した。『この諸要素は同情と親切とで融合された。エジプト人はこれら人生の理想をよく藝術に具體化し表現してゐる。而も、その表現は觀賞者の全てにその特質を印象しなければ止まぬ程の力と眞實とを以つて完成された。彼等は實に眞正の藝術の標準を成對した點に於いて、その後に現はれた何れの種族にも劣らないものである。』

藝術の勝利とは、眞實の勝利の謂である。

時代は全らゆる發見創出の母である。時代の全ゆる未知未見の世界と領域とを發堀し露穿しつゝ進む。わけても、近代は前未曾有の騒がしき發見創出の時代である、事實、日夜にも世界はこの發見創出に依つて賑まされ輝かしくなりつゝある。而も、この近代程、今日までのよきものを喪失され破棄されてゆく時代も亦少いであらう。全らゆる雜多なものは昨日發見されて今日は破棄されつゝゆく。今や、時代は明日の發見に醉うて今日の喪失を顧慮しやうとの細心を有たうとせず、たゞたゞ明日へ明日へと苛々しく志

す。この時代に於いて、喪失されたる最大なるものは眞實である。

眞實はすでに私達の目前からその姿を沒しやうとしつゝゆく。近代が曾て機械を得て眞實を忘れ初めて以來、すでに時代は轉變し初めた。今や、全世界をあげて、時代人は物質的幸福のみを人生に於ける唯一の正しき目標とすることを近代的敎養とし、全らゆる精神的價値と曾て呼ばれたるものを侮蔑することを新時代的常識としてゐる。物質以外のものは彼等の理解しやうと望まないものである。彼等にとつては一切は物質化され、若しくは機械化されることを要する。從つてかゝる時代傾向は、全らゆる自稱文化人新時代人を狂氣せしめ、彼等を例外なく拜金宗徒と化せしめる、全ての價値は彼等には手つとり早く金錢的價値に換算される要がある。一圓の藝術、五圓の情熱十三圓の變愛、七百圓の貞操等の觀念はすでに彼等の常識あでる。從つてかゝる世界には多分求めても眞實は見出せないであらう。即ち、眞實は彼等にとつてはすでに金錢に換算するにはあまりに無價値なのである。

私は曾て近代の特質に就いての小論中に左の如うな一節を書いたことがある。

『近代の特質は、一言で言へば、それ自身が既にその內容に於いて何等一定の特質と呼ばるべきものを有つてゐないところにある。雜多繁俗な主義主張等の流動ではあるが、最密な意味に於いて一定の生活樣式を有たないことが、近代生活の特質であるらしく思惟される。言ふまでもなく、近代文化の背景は所謂自然科學の開發生長であるであらう。科學、秩序合理、批評等の字句は、怖ろしいまでに廣い分野に伸擴された近代の合言葉であるらしく見える。全らゆる思想は所謂科學を離れて生長し得ず、全らゆる生活は理想を去つて現實にのみ執着した。現實暴露、幻影滅却は近代の新しい發見であるらしく說かれた。而も、ロマンティシズムの時代の香氣は、今も尙、高くこの時代の私達の生活へおしよせる。功利說はミルのみに主張されず、耽美說はボオドレエルのみの主張ではなかつた。一人は生の歡喜と友愛の悅樂とを歌ひ、一人は生の倦怠と敵視の失意とを歌つた。一人は輝く日光と健康とを歌ひ、一人は蒼い埃穴と屍の蛆とを歌つた。一人は文化禮讚に生き一人は文化拒非に生き、一人は生存競爭を主張し、一人は相互扶助を論議した。ニイチエのナポレオンは超人として威力のうえに濶步し、トルストイのナポレオンは凡輩として平俗のうちに起伏した。全らゆる近代への讃賞と咒咀とが同じ近代の同じ水平線上に相矛盾し相抗爭し合つたのである。時代の避け得べからざる暗流は懷疑と無節操との淵へと私達を追迫し初めた。偶像破壞と神秘暴露とは時代の選ばれたる標語となり初めた。最後まで些の妥協、讓步、折衷等を知らない激越なる自我の自由への開放は、內に痛烈なる自然人と倫理人との衝突反撥を曳起し、外は生への因憶、倦怠恐怖、嫌惡等を誘引した。こゝは昂奮と刺戟との感覺の世界であつた。時代は無理想と無標準との混錯の時代であつた。一言で言つて、近代は狂奔動搖の時代なのである。病的變質者と言ひ、又鄰市病患者と呼ぶ。全ては餘りにも生活意識と虐使過勞させた惠まれざる不具者の謂なのであらう。自殺者と犯罪者と、絕望と悲哀と、自我狂と廢頽者と、又失意と焦燥と、全らゆる誣妄歪曲は近代の內と外とを一杯に充してしまつた。世紀は單なる官能のみの世紀となり下つたのである

かうした時代には、言ふまでもなく、眞實は常に冷遇壓迫されて、歡迎されざる者の席に永く忍耐深く坐りつゞけなければならぬ。或はそこに外貌のみの絢爛の美があり幻影的生活の陶醉があるかもしれぬ。而も、一切は結局金か機械かであつて、世界は弱者と無產者との永劫の地獄でしかない。曾て藝術上に於いて眞實を失へる時代を指摘すれば、かのバロックの益々技巧的、裝飾的、卑俗的に走りし時代、即ちロココ時代をあげることが能きやう。曾て建築上に現はれたる空僞虛薄なる外貌の粉飾と技巧とにして、この時代の時代の如き極端なるものはなかつたであらう。煩雜と無意味とがその一切である。高踏無稽の獨りよがりがそこにある。全ては藝術の餘興でしかない厭くまで寬大にしてあくまで着實なる眞實は、少時はかゝる餘興から遠ざかり、やがては又新しい躍進を初めやうとするのである。

眞實と創造、虛僞と模倣との問題ほど藝術上に於いて古來論議の標的となつたものはない。思ふに虛僞が非眞實ではなく、てむしろ眞實に似せるものであり、摸倣が破壞の謂ではなくてむしろ創造に似せるものであるからに由るのである。即ち、しばしば眞實の効果は虛僞のそれに、創造の眞相は模倣のそれに類似し、一見、そのまことの價値を計量し誤まらせやうとするものである。

藝術の完成が畢竟眞實の完成であるべきはすでに述べた。しからば眞實は創造の酵母であつて、虛僞が遂にまことの創造的効果を有たず、辛うじて模倣に依つてその無價値をまことしやかに價値づけつゝあるものであることはすでに自明の理である。如何なる詭辯家も虛僞が藝術の相貌であり、模倣が藝術の本質であるとは主張し得ないのは既に公理である。たゞ、こゝに考慮すべきは、プラトオンアリストテレス等を初め、ギリシヤ人は純粹藝術は主として自然模倣の藝術だと考へ、この思想の流れをくむ近代の或る人々も、プラトオン等とその思考を一つにして藝術は最高のイデアの模倣であるとなし、藝術自然模倣主義を持してゆづらないことである。

ゲエテの模倣に對する理解は次の如きものである。

『とにかく生れ乍らの才能を有つてゐる藝術家が、いくらか目と手とをある模範に從つて練習せしめた位の早い時期に於いて、自然の對象に向ひ、忠實と勤勉とを以つてそれら對象の形姿と色彩とを極めて精細に模倣し、良心的に決して自然から離れることなく、彼が作成せんとする一つの繪を、再び自然物の面前に於いて開始し、完成したとすれば、かくの如き藝術家は常に尊敬すべき藝術家であらう。何となれば、彼は必然の結果として驚くべき程度に於いて眞實となるし、かつ彼の前作は確實で、力強く且豐富であらねばならぬからである。』

同じく樣式に對する主張は左の通りである。

『藝術が自然の模倣に依つて一つの普遍的な『言葉』を作り出さうとする努力に依つて、對象そのものゝ精密なる且深い研究に依つて、遂に、事物の特質と事物の存立の方法とを精確に益々精確に認知し且諸々の形姿の序列を概觀し、そして種々の特質的なる形式を並列せしめ、模倣することが能きるやうになれば、その時には、『樣式』が藝術の達し得る最高の程度として現はれるのである。その程度に達すれば、藝術は最高の人間の努力に肩を並べ得るやうになつたのである。』

グエテの言葉ではあるが、こゝに言はれた模倣が、何等の主觀の意力的表現を意味せず、何等の良心的な思索の深さも有たず、何等の眞實の必然性からも出發されてゐないとすれば、この模倣は單に一つ低劣なる虛僞的遊戲にしかすぎない藝術の必然性は徹頭徹尾眞實の必然性である。自らの燃ゆるが如き主觀に依つて聖化されない藝術には創造性の輝きはない。正しき自我の正しき直觀なくして、遂に、藝術はない。藝術は何よりも先づ自らの直觀に出發を初める新しき生への躍進、かつ創見・かつ確立である。

時代は幾轉變する。眞實はいつまでその身を虛僞の陰にかくしはしない。鍍金の藝術にいつまでの生命があるのであるか。いつまで空しき模倣に虛しき形式を尋ねやうとするのであるか。時代はすでに來た。

今や、まことに未曾有の人間生活の革命は到來し初めた。すでにそこには既成の概念はない。因襲と固陋とは破られなければならぬ。求めらるべきは新しき價値觀の創成である。歪める偶像は倒される。正しき主觀の徹底的なる確立がある未來派立體派等をその華々しき先驅として、新時代はすでに出發した。一切は燃ゆる內面の必至の生命的表出である。他の何物もこの泉をせきこの焰を消すことは能きない。彼等は、たゞ眞實を標榜しその眞實を彼等の唯一の武器とし 糧とし、生命として一切の歪めるものを毀さうとする。その意氣は眞實そのものゝ有つ底ぬけの意氣だからである。

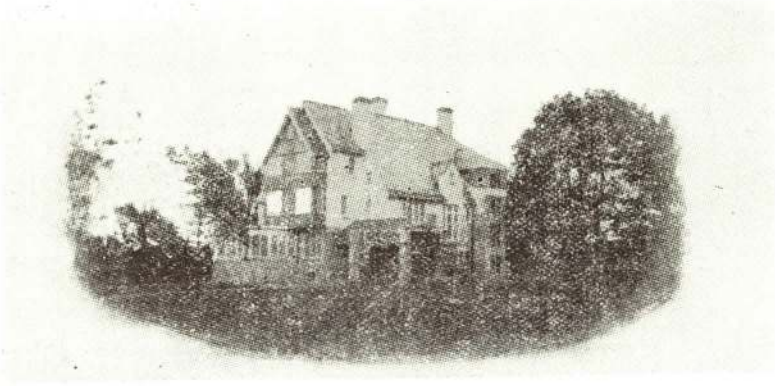
正しく、歪みなく生きること！

これ以外に藝術家の出發も目標もない彼は何よりも先づ虛僞なき赤裸の眞人間であることを要する。眞實に生れ、眞實に死なうと志す眞實の狂使徒であることを要する。彼の生活、生命、表現、享樂受難の一切合切は、彼にあつてはたゞ眞實の一元に還元さるべきことを要する。かくて彼の創出する新しき藝術の本質的價値は、眞實のもつ本質的價値と等しく評價される。こゝ將來さるべきは、新しき眞實の新しき魅力、光榮、力、美であるであらう。一切の歪める感觸はその正しきを得、全らゆる死せる印象はその生命を再び得るであらう。

かくてこそ、こゝに藝術の勝利はある

藝術への道は智慧ではなくて眞實への夢である。

⊙ 希望は思想の父なり。 ⊙



建築隨想記

H・M

⊡建築以上

――強ひて意義を結びつける必要は無いでしょう。

――そうです、結びつけてはいけないといふ譯も又無いでしょう。

――目先の事計り考へたり、又饒舌つたりして居る人が多い中でも、眞理は生長するでしょう。

――そうかも知りません。然し乍ら、眞理のみが、建築への心性を動かし得るものぢやないでしょう。

――勿論眞理のみが、建築を生かし得るものではありません建築家の優れたる作品は常に眞理を通したる、叡智の世界へ微笑みかけて居ります。

――叡智は又、幽遠相と、寂寥相とに沈湎してゐるでしょう

――近代建築から唯物的思想を除いたなら、そこからは何を發見するでしょう。

――それは、恐迫觀念に囚はれてゐやしないかとさへ思はれる樣な言葉ですね。

――何故？

――でも、近代人の感覺や、情緒は能く唯物的思想の中にあつて建築を考へて居るのかも知れませんから……。

――生れた建築は如何にして唯物的思想を、例へば妙な言葉ですが、唯物的唯神思想への表現たらしめんかにとゞまらないでしょう　たゞそれ丈けです。

――とゞまるか、とゞまらないかは別問題としてそれでいゝぢやありませんか。

――處が、それでよくないから困りますね。

野人には野人のみに通用する言葉しか許されてゐませんから駄目です。

――それは、御冗談でしょう

――そうかも知れません。永久の姿態を持つものは、常に瞬きます。野人にのみ許された荒蕪地は、遼遠です。進んで耕すも、退いて心眼を凝らすのも、各自の道を拓く事になるのでし

よう。

——饒舌は、愼しむべきですね。

——そうです。

——ホイツトマンの行け大道へですね

——そうです。建築の大道から遂に、幽遠相と寂寥相とを發見する事が出來れば、その散歩は、大した幸福をもたらします。

——強ひて建築に對する意義をつけてもつけなくつてもどつちでもいゝ。完全に果した行動の藝術としての建築の上に少なくともその建築家にとつては、理想を鮮明たらしめた事になるでしよう。

——そうです。建築以上といふ言葉はそこの境地を言つたのです。

◎風神

——怒つたの……

——いゝえ、ちつとも怒つてやしませんわ。

その實泣く程怒つてゐる。

オールバックや、三つ髷や、太子髷やヴイクターの青盤や、赤盤や、お召や、錦紗や、シヤールムーズなどとお氣に召します品々は、何時なりとも御用命下さい。

——ちよいと貴方、どうしませう。

——……

實は女性一人で制しきれない願望を、わが敬愛なる良人によつて捌け口を求めようとする。

わが敬愛する女王の文化住宅難や、臺所改良意見を聞き得る光榮を持つ者は、風神に哭れて終へ。

◎稱讃

ラジオの話や、麻雀の話や、競馬の話が、一しきり濟んでから、客は話題を變へた。

そして座敷の好みや、調度のかずかずに依る主人の、趣味の廣汎なのを稱讃した。

謙遜の中に、主人は誇りに似たあるものを、瞼のうらが熱くなるのを感じてゐた。

間もなく主人は趣味なるものゝ、價を考へ始めてゐたけれども、遂に趣味なるものゝ、價値を考へない前に、客は、辭し去らうとして居るのであつた。

◎うりの花

『……元々建築は民衆のものなのです』

『がそうですね。それだのに民衆建築といふ樣な、名稱も妙なものですね』

『でも近頃ろではそんな言葉も欲しくなつて參りました』

『よく言ひ古された言葉ですが……パンのみに依つて生命の持續は保證されないですが……』

『勿論、民衆への建築などと大それた思想を考へ出しますと、それは當然の思想であり乍ら、その當然さが、生命への保證すらないパンにも、ありつけ無くなるでしよう』

『……夕にも朝にもつかずうりの花……ですか』

『あなたの御名吟ですか』

『いゝえ、芭蕉が幻住庵に籠れる唄だそうです』

『心細くなつて來ましたね』

『ほんとうです』

◎ある對話

——泉鏡花氏と、鏑木清方氏との作品評などと言ひ出しますと驚かれるでしようね。』

——えゝ、隨分突飛な問題ですね。でも鏡花氏は小說家で、清方氏は、畫家ぢやありませんか。

——仰せの通りです。處が小說家と、

畫家の兩氏の作品より、尊敬させられますのはあの、ミスチックな妖艶さです、凄凉さです。リズミカルな線です、色彩です、優しさです、さみしさです。

リアリズムを飛び越えた、理想主義的な世界が繰り擴げられてゐますところに似通つた兩氏の傾向があるのでは無いでしようか。

――そうでしようか。精しくは見てゐないものですから……けれども、或はそんな觀方や、考へ方も出來そうに思はれて來ます。

――鏡花氏の小說の感覺や、清方氏の浮世繪の情緒は能く異邦の人の間へ完全に移せられるでしようか。

――それは無理でしよう。

――兩氏の作品を通じての雰圍氣は、情妙です、獨自です。簡約された言葉の裡に、情緒があります、ぼやけた線の間に、それは力強い、息吹きが通つてゐます。

――凡て藝術的に、優れたといふ作品は、そうなんでしよう。種々な主義や傾向があるには有りますが。

――一つの作品の主義とか、傾向とかいふ言葉は、他人が全く勝手に作りあげて了ふんでしやう。間接に言へば、その作家も動いてゐるには動いてゐますが、

――それで……

――それで兎に角前に言つた樣な意味で二人の作家を尊敬します。變に頑な、意地の悪い壕壁を殊更らに設ける必要は毫末も無いのですが、それにしても、リアリズムを飛び越えた、殉情的な、理想主義的な、民族的な、獨自の世界を、國境を越えたる上にもたらす、建築家の、わが國の、どこからか出現しないものでしようか。

――でも建築の制作ではね。

――そうです。あなたのいまおつしやる、建築の制作ではね……といつてしまへば、何事もそれ迄でのものです。

⊙機微

『まやかしものは、世の所謂、人情の機微を捉へる事に依つて成功します』

『弄花すたれて、マアジャン現るゝといふ譯ですか』

『比喩は恐れ入りますが、全くです。或は、弄花から、マアジャンへの推移の機微が、本質的に人情の機微を捉へて居るとしても、建築の本質に、かゝる人情の機微を、見出さうとするのは、誤膨です錯誤です。』

『そうです。誤膨と、錯誤との中から、どうして建築の本質的な、機微に觸れ得ませう。』

『建築に對する人情の機微が、弄花からマージャンへの推移より、一歩も出てゐないとすれば、それを捉へる事に依つて確かに、成功です。そうです、まやかしものゝ建築が、人情の機微を捉へ得た事になりますから……然しながらたゞそれ丈けなのです。絶對的に、それ以上ではないのです。』

⊙コンポジション

――コンポジションに就て、

――コンポジションに就てといひますと……

――そうです。御承知の通り、組織とか、組成とか、組立てとかいひますが、此際純理論を、離れての、建築のコンポジションに就て考へて見たいと思ひます

――そうすると、その結果はどうなるのでしよう。

――結局は建築の本質に對する、純粹な理論に悖る筈が無いぢやありませんか

——何故、

——でも、マッスとしての建築の本質を、考へる時に、どうして智的なると、情的なるとの二つの方面を離れて考へ得られないでしよう、それと同時に、智と情との幽遠たるところに、完成に近い、人格への發展があり、藝術的に向上があるでしよう。その作家の、藝術的表現の手段であるところの、對照物であるところの、建築の制作の、價値に對しては、これ迄でに、しば〳〵繰りかへして申し上げてゐる筈ですから更めてこゝでは、申し上げません。

——コンポジシャンに就て、しみじみお考へになつた建築でも御座いませうか

——……探し出せば、幾らでもあるのでしようけれども。

——それぢや卑怯に似た氣持さへします。

——どうしてです。

どうしてですと、いはれる程にも當らないですけれども、過郡に近いとさへ言はれて居るこの都市の、建築郡の中にあつて、これは素的だと思はれる程の、コンポジションの一つや二つは、打突からないといふ筈は無いでしように。

——そうです。そういはれゝば、その說は成立つかも知れません、が或はまた成立たないかも知れません。見逃がしてゐるのか、それとも打突からないかの、二點にかゝるのです。見逃してゐるんでしたら不名譽です。打突からないんだつたら幸福です。

——心齋橋筋の、大丸呉服店を御存知でしよう。あしこの店の東南隅の階段をいま判然とおぼへてゐませんが、三階から四階へ登つてゆきますと、又反對に、上から丁度そこへ下りて來ますと、その邊りに氣持ちのいゝコンポジションに、出會はされないですか。

——えゝそうおつしやればそんな印象も持つて居ります。あの不器用に似た、窓臺に當るあの壁の厚さ、それから緩い勾配の、階段の上り下り、雜沓の街路に面した、あのスチールサッシュの、保つ靜穩さなどが想像されて來ます。

——左樣です。それから又、今橋筋の大阪倶樂部ね、あしこの兩側面の、舖道より見た、地下階への明り取り窓の邊りは全くいゝコンポジションと思ひます。あの北船場の物靜かな夕暮れの、靄の町に、ゆくりなくも、ぽつねんと忘れられた樣なその實全く反對のあのコンポジション！……建築と社會第七輯第七號口繪寫眞參照……

——それから、去年の六月三越呉服店で開かれました分離派建築圖案模型陳列會に出品されてゐました、コンポジションと題されてゐましたあの、ポーチへ續いてゐると思ふ階段の石膏の、出品など印象が甦つて來ます。

——一つの建築物の取り忘れられてゐさうに思つてゐたところからひよいと、素的なコンポジションに出會つて、突然に、鋭い感覺をよびさませられる樣な場合には全く、その作家を尊敬してもいゝ心が、湧いて來ます。

——同感です。

◎非凡

客間と、食堂とに溫室のタイル張りの床が、續いて居ります。溫室から庭の繁みを透して磯馴松の點在してゐるのが見えます。

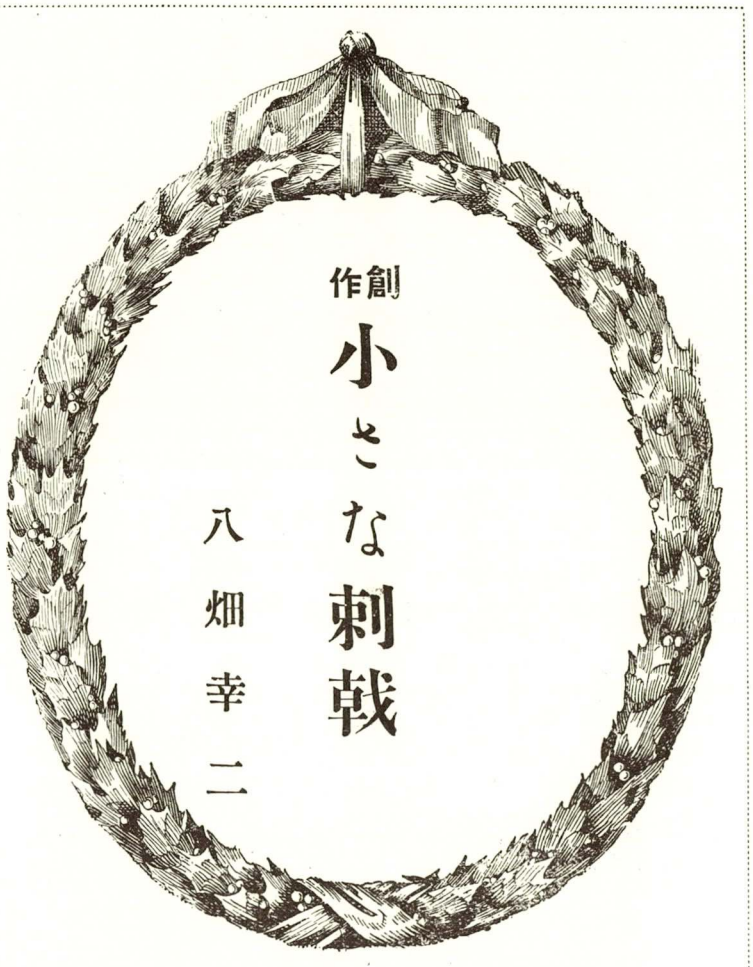
あゝそういへば、冬凪の海に、さみしさうに、ヨットが浮んで居ります。それからそういへば、波の音も聞こえて參ります。

温室の天井の玻璃には、露の玉が一面にちりばめられて居ます、外は嘸かし寒いことでしょう。

だが多とはいふものゝ春の日ざしに似た光が、そこら中たゞよつてゐますからキラキラと寶石でもばら撒いた様な天井です。

燦爛たる植物の持つあらゆる感覺の、シンフォニーに温室から見ゆる、客間も食堂も、又ずつと遠いダンシングホールの後庭の邊りの、飛沫に濡れた噴水盤にも、頽廢に似た、豪侈の影があります。こゝには爛熟に近い極致に近いあるものがあります。それがやゝもすると頽廢的な感覺をさへそゝる様ですが、その實その危なかしさを喰止めてゐます。喰止めてゐる處に作家の竝々ならぬ非凡さがあります。こゝにはそうです。こゝでは將に醇化の藝術、理想主義的藝術の何たるやを考へしめられます。こゝには感情の推摘があります。情熱の燃焼があります理智の閃めきがあります。理想主義的藝術の本質をさへ摑めそうな氣持ちがしますが、こゝで一言ことはつておかねばならぬ事は、感覺の浪費、理智の惑溺、又デレッタンシズムを警戒せねばならない事です。

予は判然自己の希望を知る人を尊敬す、何となれば凡そ世上に存立する苦難の大半は自己の目的を充分に理解せざるに基因すればなり、此類の人々は高塔を建設せんと企つるも其基礎の爲に力を費すの度は僅に小舍を建設するが爲に費すの度に過ぎざるなり。



創作 小さな刺戟

八畑幸二

――平凡な一日――

靴をはき終ると兩足を揃えて勢よく立ち上り、玄關の方へクルリと向き直る。そしてきまつて、兩の爪先きを、二度三度、土間の叩きに蹴り當てる。その間にポケットからは、ゴールデンバットが取り出される。日頃から自慢の樣に『マウスピースを使ふのは、まだほんたうの愛煙家ぢやない』と、わざわざ、燃え殘りの煙草を口から離して、對手の鼻先きに突きつける此の男は、一寸、煙草を右の手先きで輕く揉む。そして左の掌に、トントンと片端を叩きつけて口に入れる。煙草の卷きを柔くして、煙の出方を樂にする爲めである。そして少し反り身になつて、オーバのポケットに兩手を突つ込み、暗い玄關に居る者を見る。

『マッチはお持ち？』

『ウン……』

『パスは？』

『ウン……』

『財布は？』

『ウン……』

『時計は？等、等、等？』

『ウン、ウン……』

男が、兩手をポケットに入れると此處だと許り子供を抱いた女は、男の身につけて居る品物を數えたてゝ。男は、子供の顏に、眼をみはつたり、口を歪めたり、首を振つたりして『笑ひ』を催促しながら、一つ一つに氣の無い返事をする忘れ物がないと、改めて、

『行つてらつしやい』

と、子供に頰ずりしながら女は云ふ。さうすると男は、これが最後だと許り、顏を突き出して『バーッ』と子供の顏先きで眼をむいて見せる。

『何のために親は、あんな眞似をするだらう』と不思議相な顏をして見て居る、生れて七月足らずの子は、それでも時には一度で、生えかゝつた可愛らしい一本の齒先きを、チラッ

と、見せるこの歯を見たさに、一度で駄目な時は、二度三度男は顔を突き出す。勿論其の度毎に、子供の顔も、女の兩手で、男の鼻先きに突き出される。然し笑はない。

『お機嫌が悪いな』

男の苦心も駄目で、子供が遂に歯を見せないと、きつと男の口から出る言葉だ。そしてクルリと向き直つて、ガタピシヤと戸を開け、面白い事には、もう振り返りもしないで、脊後に勢よく締めて、開るい戸外に飛び出す。

（靴の爪先きを叩きに蹴り當てる時から、戸外に出る迄の時間は、五分乃至十分迄）そしてこれが『朝』

不愉快な電車――。それでも、死にかゝつた『鶏の脈れ毛の樣に、髪の毛を盛りあげ、生花の葉蘭のヒヂリを思ひ出す安物のピンを、自棄に後頭部の髪の毛の固りに突き挿し、顔には、紅と白の調和を無視した裝飾をほどこし、チラツと見た眼には、たしかに人の氣を引く丈けの女性を乘り合はす事が時々あるが、大抵決つて、押す。揉まれる。足を踏む。踏み返される。のゴタクサ電車で運ばれる。

汚ない階段を十二段づゝ二度上る。一通りの朝の挨拶。ストーブの側で新聞讀む者、雜談する者。雜多な傳票整理と記入。ペンのすべる音。咳き入る響き。煙草の煙が日を受けて光りながら立ち昇る。それを見送つて眼は天井に屆く。そしてついでに壁の時計をチヨツと見て、また机の上に歸る。欠伸をする。スポーツ刈を指の櫛で無茶苦茶にかく。寢不足の頭に、少しも變らない、不快な響を與へる、タイプライチングの響が、ガチヤガチヤ怒鳴る。――かくして『晝』

不味いトーストバンと、氣の抜けたレモンチー。リリンギツシユの話。銀行員の女房憤死の話。ボールの話。ピンポンの話。寫眞の『シボリ』の話。少し下卑ては、某高等女學校長の醜行共鳴談。話は一渡りさがつて終る。

また傳票の記入。それから一隅で計算が初まる。讀み上げ自慢のKが、『一つ願ひましては……』と初める。三桁から大きく飛ぶ時は『大きく願ひまして……』と、氣持ちのいゝ合いの手を入れる。默つて、讀み聲だけを聞いて居ると、元氣に動く指先きが、『オイ、オイ、もう今日も終りだぞ、しつかり！しつかり！……』と聲につれられて、吾先きに算盤球を彈いて居る樣だ。バタン、バタンと帳簿を閉ぢて、書棚に投げ立てられる。そしてまた電車。ついに『夜』

日光をチツともぞかない北向きの四疊半の疊も、『吾々の夜の室』と云はれるだけに、無作法にぶらさがつて居る五十燭の電光に輝いて居る。電光の餘光は、壁に懸けられて居る油繪の靜物の、燻し金の額緣にまで、落ち着いた輝きを與へて居る。此の額と一所に室に暖みを見せるために用ひられた裝飾は、讀書趣味の一端を見せるため、ズラリと背文字を見せて、本棚がはち切れる迄詰め込まれた本の行列と、床の間に立てかけられたギターのズック箱。本棚の上には油の繪がうす汚なく置いてある事も、見逃し難い物の一つだ。

默つて、猛烈な速力で、膳のものを片つぱしから喰つて行く男は、手を熱いタオルでふいたつきりで、洋服のまゝだ。太れるだけ太つて見たいゝたげの子は、脹れた頰を赤くして母の脊中越しに男を見て居る。時々『ウン』と云ひながら足で母の腰を蹴る。その度に、

『あなた、呼んでますよ』

と女が云ふ。も少し、ゆつくり喰べたらいゝのに、と思ひ

ながら、背中の子を氣にしながら、女も箸を取つて居る。

子供に呼ばれると、男も一寸箸を置いて、『ウン』と云ふ夜の室の子は、夜になると元氣を出す。そしてやたらに今度は聲をはりあげて『ヤン、ヤーン』といふ。惜しげもなく、『朝』は見せ惜しんだ歯先きを見せて……。

最移の番茶を二杯までも呑んで、男は漸く落ちつく。そして、早速バットを口にする。

一休息の後、子は男の膝に乘せられ、父と母にあやされる神の子は神の聲を叫ぶ。人間には解らない。しかし聞く人間は無性に嬉しい氣になる。

『御覽、可愛い手をして居るぢやないか。筍のおばさんが——紅葉の樣なお手をしてと淨瑠璃式な賞め方をした相だが俺の手も昔はこんなだつたらうかねゝ』

と今更らしく不思議がる。

女は、男と、子の顏を等分に見て、大きな顏だと一人可笑しくなる。鼻の低いのが私に似ないでくれ、やはり男の持つて居る偉大な鼻に似て居る方が、大きくなつてから悲觀しないに違ひない。たゞいくら大きくても、煙草の煙が八分通り出て來る事の出來ない、鼻障隔彎曲症などゝいふ有難くない病氣だけは止めて欲しい、と、女は獨りで願つて居る。男は何も知らずに、惡い右鼻孔から微かな煙を出し、完全な左鼻孔から猛烈な、愛煙家の氣焰を吐き出して居る。女は無性に可笑しくなる。そして『そろそろ『借りて來た猫』が初まるな。』と、思ふ。

子に飽きた男は、『おしめを替へろ。』と女に、子を渡す。そして、矢鱈に炭をつぎ、湯を思ひ切り沸かして、茶を呑む。一杯、二杯、三杯。そして火鉢の端に片肱を突いて、頭をかゝえる。動くのは、煙草の煙と、指先きの火箸だけだ。淋しい色が、男の頬に浮ぶと、眼は、火鉢の底を見透す樣に輝く無言、不動の男と女。子はしきりに喜悅の聲を擧げる。時々女は、子に頬ずりしてやる、乳を呑ませる、そして男の顏を見る。もう此の時は女の胸にも一種の淋しい氣しか起つて居ないのだ。

『——毎日歸つて夕飯が濟むと、あなたはきつと今の樣に淋しい、なんだか此の家に落ちつかない樣子をなさる。まるで『借りて來た猫』の樣ですね。も少し面白い顏つきは出來ませんか。本を讀むなり、繪を畫くなり、なさいよ——

と女は、いふ。

『俺を』借りて來た猫』とは、ひどいな。淋しい顏か、間抜けた樣子かに俺は見えるだらうが、俺はこれが一番好きなんだ。何處か、疲れて居る時は是が一番いゝんだぜ』

女の皮肉な形容を笑ひながら、それでも手痛い言葉を知つて居たなと何處かに嬉しい氣にさへなつて、女の顏を見る。子と共に三人は笑ふ。かうして何時の間にか夜はふける。人聲もしない。犬の鳴く聲と、自動車の音が時々する。そしてまた明日の日を迎える眠に就く。

——平凡な一日、此處に終る。

そしてまた『朝』『晝』『夜』の一日が、繰り返へされる。筆者が、今、克明に書いた『或る男の一日』は、最早三年前から、繰り返へし、繰り返へしなされて來たのだ。煙草を吸ふ他に酒も呑めず——女の事は云ふ可からず——活動は好きだが、見に行くのが大儀な男で、たゞ理解の有無は問題外として、

本を讀む事と、煙草を吸ふ事と、これは一番面白い趣味だが飛行機が好きで、ワーンと發動機の遠鳴りが聞えると　大騷ぎをやるだけの平凡人であるのだ。別にお世辭も云へないが他人好きのする男である事だけは、女も知つて居る。だから尙ほ、家に居る彼の態度を否難したくなるのだ。

女の云ふ『借りて來た猫』は、笑つて此の稱號を受けはしたが、一方に『俺の氣持ちは、お前に解らない。矢張り俺は、變化のない今の一日が嫌で嫌で堪らないのだよ』グンと來る變り方はないものかね。大地震でもいゝ、命の短くなる樣なものでもいゝ。もつと面白く、愉快に、日が經つのも、死に近づくのも忘れて暮したい。』といつてやりたいのではあるが自分の淋しい風を氣にして、子の寢顏をのぞいて默り込む女の何時もする態度が、何だか哀れつぽくなつて、云い兼ねて居る。

或る朝の事。女は一通の封書を、床の中の男の鼻先きに突き附けて、にやにや笑つて居た。

見ると、綠色の惡趣味の封筒に、女文字で

『表』　市外天王寺村字天王寺二四六八番地
　　水間爲一樣方
　　前田　操樣

『裏』　（これも惡趣味の、封蠟代りのハート形封緘片で、封じ目をとぢてある）
　　靜子より

と書いてある。水間爲一とは正しく、男の名だ。しかし前田操なる者は居ない。

『なんだらう？』

『なんでせう？』

『水間夫婦は、思はず笑ひ合つた。

『開けて見ようか？』

『開けて御覽なさい。』

レターペーパーは流石に、氣のきいたものだつた。たつた一枚、

——久しくお會ひしない。會はないが故に心配して居る。御變りはないか。私は何時も何時も淋しく暮して居る。お目にかゝりたい——

こんな意味の事が、純粹な氣持ちを、その儘に表現した樣に書いてあつた。そこ迄はよかつたが、後事は惡かつた。先き頃流行つた、俗惡極まる『籠の鳥』の文句に似せた詩?に類するものが書いてあつた。忽ち、男はヒキ破つて終つた。

『まあ——』

と女は驚いて終つた。が次の瞬間、男は笑ひ出した。

『俺の處と、名前はそつくりだが、一體、前田操とは誰だらう。中を讀むと、俺の家に居る筈の前田が、知つて居る、といふより關係した女が、よこしたには相違ない。しかし前田といふのは誰だらうね。それでなければ誰か惡戲したのかも知れないね。』

女も考へた。そして、或る女が居て、その人が誘惑され、誘惑した男が、自分達の所を知つて居て、いゝ加減な名前を造り出して、何々方の誰れそれと、話したのを、本氣に受けた結果だ、と斷定を下した。

『ウフン、俺の日常も面白くなつて來たぞ。戀文の取りなぎを仰せつかつた譯だからな。しかし、前田某が居す　女の宿

所が解らないのには閉口だね。女も女だ。前田には話してあるか知れないが、此處に書かないとは如何したのだらう。一寸、間抜けだねえあなたは欺されて居るのですよ。』と知らせる事も出來ないからな。』

と、男は何時に似合はず、雄辯になつた。そして少し許り讀んだ探偵小說の智惠から、妙に深く深く考へて、自分が一個の探偵になつて、惡漢に誘惑されて居る女を救ふ樣な場面を描き出して、獨りで喜んだ。

それから數日の間『朝』『晝』『夜』そして『一日の終り』迄、水間夫婦の跡には、前田、對　靜子といふ男女の交情、及び如何して自分等の住所が使はれるか、といふ疑念が、斷えず往來して、あれやこれと、前田と名乘り相な人達を考へて見たが、二人には如何しても思ひ當る事が出來なかつた。そしてただ種々と想像する許りであつた。

男は　電車の中や務め先で一寸した心の休息を執る間などに、同僚中の不良性の者に就いて、自己獨特の心的探究法から割出して、前田と名乘る者を觀破しやうと心掛けて、種々と探りを入れて見たが、妙にゴッチャ返へしをする許りで何等の手懸りも得なかつた。それで今日は反對に、靜子と名の附く女の方に就いて考へて見たが、こんな場合悲しい事に、僕々コーヒーに菓子位は、そこここのカフエーで喰べはするものゝ、白エプロンの女の髮形や、白粉の附け方、足袋の汚ないのや、眼の下にある黑子などには、チクチクと針の樣にするどい觀方をするだけで　名前などは、只の一度も聞いた事がないし、又、酒も呑まずに聞く機會もなかつたので、彼の頭の中には『靜子』といふ名前は、一時　日本花柳界にその名を轟かした女の本名以外に、知つて居るものはなかつたから、これこそ尙ほ、手懸りを得る事の出來ないものと、斷念して終つた。

かうして數日は過ぎた。一日一日と過ぎて行くにつけ、男の頭に不圖浮んだのは、若しや女が、靜子なるものと、自分と關係しながら、自分を欺くため殊更に前田某の名を作つて居るのだと、變に思ひ違つて居はしないか、といふ、自分を疑ふ女の心持ちであつた。それで男は、或る夜の事、なんの氣もない風に、

『若し、俺に女が出來て、こんな手紙を、いにかも、俺の處に居る男子に宛てた樣にして、手紙の往復を初めたら、お前は如何する。汽車にひかれるかい』

笑談交りに云つた。處が女の返事は、案外だつた。

『あなたに、そんな眞似が出來るもんですか。若し、出來たら、偉い人だが。死ぬか、死なないか、ためしにやつて御覽なさい。變な事をいふお父さんだね。』

と、最後は、子の頬ずりで、すつと無事に濟んで終つたので、男は一寸、その返事を案外には思つたが、『そんなら女をこしらえて見せてやるよ。』と何時もなら云ひ返すところだが女の言葉には如何にも男を信じ切つて居る心持ちが、はつきり見えて居たので、反つて男には『俺を信じて居てくれて、有難い』といふ感謝の心が浮んだ。そして、女の頬ずりに、聲高い笑ひ聲を出した、兩足をピョンピョンと突つ張つて居る子供の顏と、女とを見守つて居た。

數日また過ぎた。男の探究力が日一日と弱つて行つた。折角平凡な一日に、刺激を與へてくれた一小事件も、何の跡

も殘れずに、消えさるかと思はれた時、また二度目の手紙が來た。手紙の封筒、及び筆跡、宛名は、前と同樣。

内容には、先きの手紙に對して何等返事のなかつた事を恨み、來る三十日午後六時、阿部野橋停留場に來て貰ひたいとあつ。

たこれを讀んだ時、男は『終つた』と叫んだ。

『なんですか、如何したのです。』と、一所に手紙を見て居た女は聞いた。

『此の日は、俺の方の宴會なんだ。それで俺は行けないんだよ。』

『あなた！この日に行けたら、行く積りだつたの。可笑しい人ね。誰かの惡戲なのもかも解りやしないのに。』

と、いくらか、男の心根を卑した樣に、女は云つた。

『可笑しいもんか。俺が行きたいのは斯ふ云う譯だよ……』

と、男は淳々と語り出した。

——此の手紙は、全然の惡戲と解釋したくない。二度も來る處から見ると、必ず、或る一人の女性が、危い淵に臨んで居るに違ひない。いゝや、さう解釋するのが正當だ。それで此の日、阿部野に行つて、會つて話をしてやりたいのだ——

と、男は、一生懸命、疑を持つ女を說き附せにかゝつたが女はまた、笑ひながら、先に、男と靜子との關係があるとした場合、お前は如何すると、聞かれた時の樣に、

『あなたは正直ね。私もさうしてやりたりと思ひます。それで、若し三十日に天氣だつたら私はチーちやんを脊負つて行つて、あなたの代りに女の人に會ひませうか。』

『うん、そうしてくれたらいゝが。』

案外、話の解る女だな、と今日は感じながら、男は女の顏を見た。そして、久しく出なかつた『借りて來た猫』の形をして考へにふけつた。

△

三十日は、朝から生憎の雨だつた。『朝』の言葉の中に、女はかう云つた。

『若し、雨があがつたら行つて見ませう。だけど、泥たんぼの路でせうね。』

その讀みあげが濟んで、みんなは揃つて、ＡＢＣ牛肉屋に行つた。

不味い酒。犬の喰ふ樣なコマ切れ肉を、三枚の大きな薄い肉切れで、海苔で、飯を包む樣に甘く、女中は箸先きでくるんでは、鍋の中に投げ入れるのを、男は感心して見て居た。しかし呑めない口は、無暗に食つた。

『こりや、何ぢが。ソン肉ぢやないか。もつといゝとこを持つて來い。おい女中』

Ｋは、どなつて居る。日頃音なしいＳも、Ａも、Ｍも、Ｔも、酒と、火に眞赤な顏をして、盛んに、はしやいで居る。聞いてると、嫌になる安來節、何處かに、雄壯な大河の流れを想像させる調子をもつ鴨綠江節。殺伐なデカンショ。其他思ひ思ひの歌が出る。男は默つて笑ひながら、周圍の騷動を眺めて、肉を食つた。そして、膝の上に片手をついて、『借りて來た猫』の形で、盛んに愛煙家の氣焰をあげた。

外の、雨あがりの空氣に、ほてつた頰をなぶらせて、公園を抜けて、歩いて歸つた。

『今日、行きませんでしたよ。』

『何が？』

男は、女の事は、全然忘れて居た。變な返事をするといつた女の顔附きを見て、初めて思ひ出した。

『いゝさ。』

何の味もない返事をして、男は床に入つた。そしてすぐ眠つて終つた。

女は、あれほど、こないだは興奮して、女を救ふのなんのと云ひながら、と頼りない男の心を恨んだ。しかし女もすぐ眠つた。

翌日は日曜だつたので、男は、平日の『朝』と『晝』との豫定表を無視して晝頃起きた。『夜の室』で新聞を讀んで居ると、三度目の、綠封筒が來た。

——あなたは薄情だ。雨あがりの日ではあつたが、私は暗い公園の入口に晩く迄待つて居た。天氣が惡かつたから、お出でなかつたのかも知れないが、それにしては何故、こないだの返事をくれないのです。私は何も手につかない。可愛相と思ふなら、手紙をくれ——

と、涙ぐまされる文句で書いてある。

『おい、いよ〳〵面白くなつて來たぞ。』

『どうして？』

『きつと、此の家を尋ねてくるよ。』

『さうか知らん？』

——思ひ余つて、探し探して來る女。なるべく二十以下であつて欲しい。死にかゝつた鷄の毛は、御免を蒙りたいが瓜實顔で、似合ふのなら我慢する。しかし、一の谷合戰の熊谷が開く扇の樣に、襟首の髪の固りにさしたセルロイドは御免だ。白粉も欲しくない。着物は何でもいゝ。足袋と、下駄は新らしくなくてはいけない。顔は、きれいでなくて好い。何處か淋しい感じさへあれば……

尋ねて來たら女がかう云ふ。

『前田は留守だが、すぐ歸るからお上んなさい。』

尋ねて來た女は、一寸ためらふ。しかし、上れといふ女の脊中に、チー公がぶらさがつて居るのに、安心して上る。俺は留守でも、女はきつと、淳々と話をしてやるに違いない。其處で、尋ねて來た女の顔に、不安が湧く。涙を流す。過ぎた事は、夢と思へ。これからの生活を改めたら、取りかへしは、精神的に附くぢやないか。なんかと、女らしい慰め言葉をかける。女は泣き沈む。そして最後にいふ。

『どうぞ、これからの私を守つてください。』

『えゝ。お安いことです。私も友達がないのだから、ちよいちよい遊びにお出で下さい。あなたの好き相な本も少しはありますから。』

こんな會話があつて、一應、女は歸る。それから時々やつてくる。チー公の笑顔は、俺よりも餘計に奪ふ事が出來る樣になる。そして、そして、新たな戀！——

男の空想は、擴がりたいだけ擴がる。終いには、戀の男女を畫いて、その男となる。兩手を頭の下に、組み敷いて、考へられる丈け考へた。面白くなるだけ、面白く事件を擴げて行つた。

しかし、ほんたうには、女は來なかつた。折角の刺戟も、全然夢の樣なものになるに決つて居る。しかし男はまだ、その刺戟を善意に解釋して、獨り喜んで居る。

私は昨夜歌舞天座で菊池寛氏作「時勢は移る」を見た、その舞臺面は忘れ難い印象を頭に刻んでる。

舞臺上の効果の可否を今論ぜんとするのではない。また俳優の技倆を語ろうともしない。只筋そのものの流れが現代思潮の行き惱める、こんとんとしたシンボルの樣に思へてならないからだ。

時代は時代を破壊し、時代は時代を建設してゐる。

時代の流れには抗し得べからざる偉大なる力のある事を忘れてはならない。

時代の力には或る程度迄避け得らるゝとも抗し得られない。

時代は人と共に歩み人は時代を産む、然して人は時代の爲めに亡ぼされる。

人と時代との因果、人と時代との宿命、人と時代とは全く同一のものではなかろうか。

私はここまで考へたぎりで電車を降りた。そして公會堂へと足を運ばせた。

そこには社會相の縮圖を見せられた。

今オーヂトリウムには多くの人達はかたづを呑んでオーゲストラとパレーにうつとりとしてゐる。

今ステーヂにはピロウドの靜かな深い縦の波にボーダーの光はゆるやかにもの凄く投げかけてゐる。オーゲストラのメロデーは汲ひ込まれてゐる。

あゝ都の夜は實にも華かにかざられた世界を現出してゐる。

ふと二階の廊下を距てた中食堂へ這入つた、こゝには丸きり異つた空氣が充滿してゐた。

荒男のいきのあへぎ、立ち昇る煙草の煙の紫の雲、蒸し返るどよめきは若き人の元氣をそゝらずにはゐられなかつた。

むつかしい顔の人々の數約二百になん〳〵としての集ひこそものゝ〳〵しき景色であた。

浮世曼荼羅

池田谷久吉

今一人の理事がこの會の首領を選ばんとして議案を提出してゐる最中である。

理事者の横暴を糾彈すべしとあちこちにざわめきの中に鋒火を擧げてゐる。事の詳細は今物語る必要はない、血氣に滿ちた若人はまつしぐらに自己の歩みの道に精進してゐる。

世智に長けた中老者等は相方の都合よき折衷説を振り舞ふてゐる。

學者肌の男は極めて論理的に之れを處理せんとしてゐる。

すれた男は反對せんが爲めに反對してゐる。

御用黨は自己を裏切つて虚僞の生活に生きながらへてゐる。

理事者の少さいポリシーを善人でありながら小刀細工をしながら時々尻尾を握まへられてゐる。

學閥、地位を振りかざして挑戰してゐる卑怯者もある。

事務員は自己の職責一刻も早く完了されん事を希望してゐるもう堪へられなくなつて來た廊下へ出た。

今カルメンの曲にカーテンはゆらいでゐる。

おゝ天國と地獄！こんな言葉を思ひ出した何れが天國？地獄？それは知らない。

廊下の壁一重を距てゝ藝術はさんらんと輝いてゐる。人々は酔つてゐる。

また片方には何れも人間らしい吐息のもとに喘いでゐる、このコントラストこそ、眞の曼荼羅でなくて何であろう。

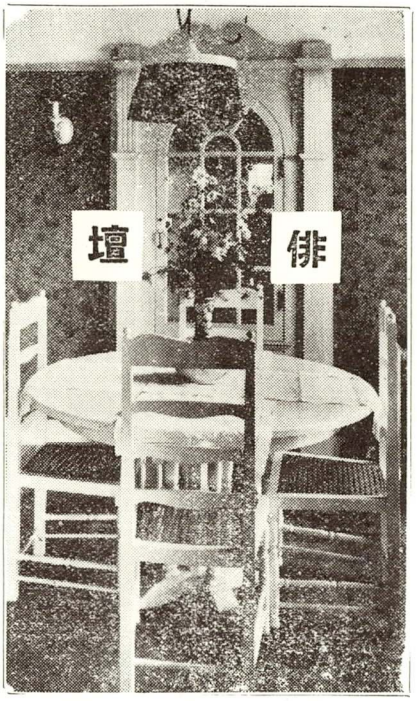
生者必滅、會者定離、榮枯盛衰、色即是空、一切無差別、

盾は兩面を見なければならぬおゝお前達は何れも善人だ。

親しい友達！爭へ、戰へ、破壞の上に建設がある。尊い犧牲の上に建つ平和はたのもしい。

時勢は移る。時勢は移る。

一九二四、一二、一七夜



春の雨

金氣水芹生ふる垣や春の雨　不崩
北窓は暮るゝに早し春の雨　溪舟
春の雨燭に暈ある夜なりけり　かつら
春の雨養魚池に種魚を入る　かつら
新道の暗ぬかるみや春の雨　案山子
春の雨一燈青き青樓哉　香坡
春の雨温泉の山おりて河沿ひに　案山子
山の闇神の灯ふけて春の雨　案山子
軈小屋をもるゝ灯筋や春の雨　みつ子
春の雨降りくれて町の灯かな　みつ子
春雨や山みな烟り水驛　杉居子
未だ咲かぬ木に制札や春の雨　杉居子
寺傘に春雨寒し松一路　孤影
堀川を木場に上るや春の雨　半峰
二階つゞく湯の町の灯や春の雨　半峰
春雨をきゝつゝ家族湯にひたる　鬼居
春の雨垣穂に晴れぬ芝の色　鬼居
春雨や谷の雪なほ椿蔭　なつじ
何時か垣に烏來てゐるや春の雨　多賀子
寮を出る二人蛇の目や春の雨　黒舟
黒々と杉山晴れぬ春の雨　孤影
春の雨讀書の灯竹をもる　かをる
春の雨菜畑つゞき葱畑　井人
籠り居の炭の香したし春の雨　雪鳥
降り暮るゝ春雨や木々の梢なる　央水
廣土間に苗木輓きこむ春の雨　央水

溪舟選

木鋏の音暖かき庭木かな　かつら
山風ぎに塔晴るゝ日や暖かき　かつら
暖かや薙仕事の小半日　滴川
椽に出て藁草擇るや暖かき　滴川
廐藁を入かへる日や暖かき　梨堂
枝にある殘りみかんや暖かき　梨堂
殘照の木肌にあるや暖かき　雪鳥
舠ね橋に來て釣る二人暖かき　雪鳥
紺暖簾にしむ夕日やな暖かき　こだま
南窓や人なく句稿暖かき　こだま
桶の水障子に影る暖かき　井人
暮るゝ山の雲暖かく眺めけり　井人
野の中の赤土畑や暖かき　湍々
暖かく廣ごる銀やな湖光る　湍々
スリッパ歩く芝やな暖かき　葎良
崖崩れの土肌に臼や暖かき　央水
河岸町に紺屋つゞきや暖かき　央水
カアテンに膨らむ風や暖かき　瓢仙
圓木をおりてベンチに暖かき　紫公
梯子してかく看板や暖かき　蓼花
塀の内の樹に鳥籠や暖かき　一亭
新泥に來る花賣や春の雨　溪舟
春の雨匂るかと思ふ木の間哉　陽表
陽表のふくらみ土や暖かき　籾賣
籾賣に雨暖かし茗荷の芽　月中郎

小半日壁つくろひや暖かき　半峰
暖かき日や足だめし鞍馬道　鬼居
土の香や蝶くるかとも暖かき　鬼居
陽の凪や船暖かに町入江　子白
繪馬堂の繪馬見て廻る暖かさ　子白
河岸倉や荷薙埃暖かき　遙村
門川に障子洗ふや暖かき　遙村
足袋を乾し並べて椽や暖かき　月中郎
朝ながら暖かき日や庭掃除　月中郎

句を募る

◇課題　「春寒し」（又は「冴えかへる」にても）「野遊び」（又は「踏青」「青きを踏む」にても）以上の内二題、各五句宛まで、各題別紙に認る事
◇期日　三月十五日迄
◇届先　北區室島濱堂ビル　日本建築協會

課題について

溪舟

1

今度の課題は「春寒し」と「野遊び」である。應募の句の數は五句づゝであるが、二句でも一句でも構はない、それは出す人の隨意である。

「春寒し」——

春は大てい暖かい氣持のものであるがしかし實際は、春だからと云つて暖かい日ばかりではない、かなり「寒いなア」と思ふ日もあるものである。これが即ち「春寒し」とか「冴え返る」とかいふのである。

冬——寒中などに「寒いなア」と思ふ事はふだんであつて、さして珍らしいのでもないが、暖くあるべき春の日に「寒いなア」と感じる、この特異な感じに一種の面白みがあるのである。

たとへば、斯ういふ日には、ちよつとその邊に轉がつてゐる鉋屑や繩切れ藁屑のやうなものを見ても、何んとなく白け返つてゐるやうな氣持にみえる。何か料る庖丁の光などでも、昨日とよりは一段何か又か冴えてゐるやうに感じられたりする。一輪ざしの花などでも、何うやら美しさが引締つたやうな氣持がされたりする。

人の往來、姿、水の光、山の色、物の音、風の働き、何んでもさういふ風に、冬の寒さの感じとはまた格別な、物の甦へつた生々した陰に引締つた氣持のあるのは春の寒さである。

2

「野遊び」——

野に遊ぶといふ事は、何も春に限つた事ではないのだが、しかし春の時候は、一年中でまづ一さう野遊びに適してゐるやうである。冬の寒さから全くのがれて、青々とした野に出て、和らかな日光の下で遊ぶといふ事は、殊に郊外の自然に遠ざかり勝な都會人にとつては、何んともいへぬのんびりとした樂しさである事はいふまでもなからう。

この時分になると、もう春もやゝ時候の進んだ頃であるから「春寒し」といふやうな氣づかひもめつたにないことである。所謂「吹テ面ヲ不ズレ寒カラ楊柳ノ風」といふ好時季であつて、人々はぞろ〳〵郊外へ押しだす。打連れてゆくもあらうし、一人でゆくもあらう。堤、廣野、丘、蘆漬橋のある處、魚の泳ぐ野の水、渡し場、飲めや唄への一群もあらうし、獨り徑を山の方へ辿つてゆく人もあらう。草に座つて本も讀まうしぼんやり町の方の煙突の煙を眺めてゐる人もあらう。茶店の帘、寺の境内をのぞく暮れ方の小寒さ、背中の日のぬくさ、そんな事が何一つとして野遊びの材料にならぬものはない。

3

句を作るには、まづ何が肝要であるかといふと、こゝに假りに四つの要目を擧げることができる。

(一) 廣く他人の句を讀む事
(二) 實地に體驗してみる事
(三) 曾ての體驗を追懷する事
(四) 想像を廣くして自然觀にいたる事

である。如何に作句の力が內に充ちてゐても他人の句を廣く讀まなくては、自分の力を出すのに單純な想像の道より歩む事ができぬ。また實境について自然を伴にしなくては、これまた新鮮な生き生きした句を得る事が難かしくなる故に豫れて自分が體驗した自然や人事を思ひ出して、それを隨意に應用する事も好句を得る一手段となるのである。また出來る丈け想像を自由にして、氣を輕く持つて自然を取りて來なくてはならぬ。

まづざつと右の通りであるが、要するに課題の命ずる處にコリ固つて、それに捉へられてはならぬのである。「春寒し」とあつても、是が非でも春が寒いものと考へてはならぬ。春の寒い中にも、暖かい日があり、暖かい考へが浮ぶ事もある。寒い陰に暖かい何物かを發見するやうな場合もあるのだから、さういふ時の事は、さういふ風に作句すればよいし「野遊び」といつても、野に遊ばうと思つたが、遊べない場合の事を作つても決してわるい事はない。つまり題に執着せずに自由に思ひを奔せて作句するのがいゝのである。

4

俳句の妙諦は、すべて自然に對する人間味、人事に對する人間味を如實に出すといふ點にある。俳句はコシラへ事でなくて、自然にしろ人事にしろ事實が基本となつてゐなければならぬいくら言葉を巧みにし、文字の組立が巧妙に出來てゐるにしても、その句の內面に我々の持つてゐる人間らしい生きた味ひ、イヅハリなしのライフが動いてゐなければ價値がないのである。

文字や言葉の上の自然、人事は俳句には禁物である。

句は端的に簡直に、眞實でなければいけない。しかし以上は作句に通じてゐる人の爲に云つたのではない、句を作らうと志してゐる人に云つたのである。その點を斷つておく。



◉建築物法新施行

現在東京、大阪、横濱、京都、名古屋、神戸の六大都市は市街地建築物法が適用されて技術官は專ら其務任に當つてゐるが、今回更に福岡　岡山、福島其他二十三都市にも建物法を施行することになり十六日の官報で公布された、各都市の技術官は六大都市の技術官と違ひ警視、警部警補は技術官の職務を兼任することになつた

◉月賦賣住宅市營

横暴家主に高い家賃を搾られて毎月數十圓の金を空にすてゝしまふ不利から中産階級以下を救ふために大阪市は『月賦販賣住宅』を建てることを計畫し、政府に十五萬圓と五十萬圓の二口、合計六十五萬圓の低利資金の融通方を賴んでゐたところ二十日朝、先口の十五萬圓の低資をいよ〳〵融通するといふ内報が市社會部へ來たので財政緊縮の折柄、市ではとてもだめだと諦めてゐたのが思はぬ吉報に喜び早速實行にとりかゝることになつた

從來市では中産階級の住宅策として市區扇町と櫻宮、西區鶴町の三箇所に市營住宅を經營してゐる外、安治川、大阪北港の三住宅經營會社に政府から融通してもらつた低資全部で三百萬圓を融通して住宅を建てさせ一般市民に賣らす方法をとつてゐたが、政府は市を通じて民間會社に低資を融通して住宅を建てさせるよりも、市が直接低資で住宅を建て市民に月賦で販賣する方が社會政策的だといふ内示をしてゐるので、將來はみなこの方法によることになつたものである

初めは試みに四十戸の中産階級向の家賃四十圓までの住宅を建て、滿十五箇年永住して家賃を續いて支拂つてゐれば、その土地も家も住居人の所有になるもので假に家賃二十圓の家なら十五箇年間に三千六百圓を支拂へば自分の物となるわけである、場所は市の内外の住宅地區に建てる筈で大體内定はしてゐるが地主に乘ぜられる不利があるので最後の決定を見るまでは發表しない、但しこの月賦販賣住宅は初めは市の方で、疊、建具を一切附けるが以後の取替へや修繕は一切居住人の負擔でしなければならぬ

◉共同宿泊所新設

大阪市社會部で計畫中であつた市立共同宿泊所二箇所の增設に就いては今般一切の具體案が出來上つたので三日午後二時より開會の市參事會に提案して其承認を求めた

增設場所は初め西區九條職業紹介所と同簡易食堂のある所と北區東野田京橋勞働紹介所のある所に内定して居たのであるが京橋の方は同所が寢屋川改修地點に當り土地を得るに困難なため近く接續町村の編入を見越して市外長柄の市營斡儀所の横手（新築勤勞學校裏手）に變更した、九條の方は初めの内定通り變りはない、建物は現在の鶴町、今宮、西野田は和式となつて居るので今度は趣きをかへて寢室を初め内部一切の設備を洋式とする外に附屬設備として九條の方は現在の職業紹介所を殘し尙ほ食堂、理髮、浴場、賣店等を附設、其長柄の方へも食堂、賣店、理髮所等を設ける

收容人員は九條三百三十六人、北長柄四百八十人建物は九條延五百七十坪で鐵筋四階建、北長柄は延五百七十四坪で鐵筋三階建、經費は九條十五萬三千圓、北長柄二十萬七千圓でこれは今月末の市會を通過し次第直ちに遞信省簡易保險局の低資融通を受け三月中に用地の整理並びに設計を終り四月から工事に着手九月完成十月内都の設備を整へ十一月から開所の豫定である

これで市立の共同宿泊所は全部で五箇所になるわけであるが接續町村編入の曉は　らに二、三箇所增設の必要があるので目下その計畫をも進めて居る

◉ぼつ〳〵殖へた本建築

區劃理整の進捗につれて本建築の願ひもぼつ〳〵出初めた、まづ第六地區即ち駿河臺では三浦、河野、石川、近藤、淺田の諸氏から願ひ出があり、その他の地區では東京電燈が本所柳島元町一四七へ出張所を、芝區三田綱町一志水靜氏が麹町區平河町五の二六へ、神田區仲猿樂町松

見交平氏が裏猿樂町六に住宅をなど本建築の願ひ出があつた、なほ月島、吉原、山の手の一部の如き區劃整理が出來て、建築線設定のみの處は今日でも本建築の願ひを出せば許可になるとのことである

◉工事に掛る南北線道路

大阪市更正都市計畫による廣路御堂筋のうち梅田、大江橋間は既に舊臘末までに全部の用地買收が出來て、この三月末までに兩側住民が立退くことになつてゐるので、市ではいよ〳〵本年四月から擴張工事の施行を始めることになつた、この廣路といふのは大大阪市の北から南へ一直線に貫通する大動脈で、交通上はもとより、街衢の美觀といふも一つの條件となつてゐるため、その路面設計については電氣局清水工務部長、都市計畫部長の花井技師等が豫て研究中であつたが、この程漸く成案を得たので清水部長が近く東上の際にこのプランを携へ内務省土木局の認可を申請する筈である。市で内定したこの路面設計の内容は

廣路幅員二十四間の兩側は歩道とし、その内側兩側には荷車や自轉車の通ずる緩速車道を設ける。更にその内側兩側には街路樹を配ひ、中央は高速車道として路面電車軌道のほかに自動車の縱走路をも設ける。このほか歩道の片側にも並木を配置して一路面内に三條の並木地帶を作るのだと

◉大阪郡計地域案

都市計畫大阪地方委員特別委員會で數年來愼重審議の大阪都市計畫地域案が昨年十一月に漸く起案されたので今度愈々府知事より内務當に向つて内申したが其内容は概要左の如きものである

住居地域は安靜快適、商業地域は繁榮利便、工業地域に於ては生産能率の增進を必要々件とするから之等各種地域の位置の選定は土地發達産業の沿革及び現狀地勢其他水産逓運の狀勢等必然的條件を斟酌すべきもので之等諸點を愼重考慮の結果左記の地域案として具體化された譯である

住居地域

東部即ち上町の高臺から東南の郊外を經て大和川北岸に及ぶ一帶の地及び北方千里山、服部方面一帶の地は土地慨れ高燥にして現在に於ても住居地に供せらるゝもので之れを住居地とし尚其外新川右岸豊里村東端に至る一帶春日出、福島、西野田、本庄、天滿の一半はり淀川を挾む東野田、都島一圓の土地は其發達の現狀並に將來の推定が住居地域として保留することが住居者の安寧維持に適するものとして之れ又住居地域とされて居る。

商業地域

市の中心地一帶は勿論北は天滿、曾根崎堂島、福島の一半より堀江、船場、島の内、南は難波の一半新世界を含む舊市の一圓は土地平坦にし街區平然交通の便又整備し土地發達の現狀よりする商業地域とすべきものであり其外市内外にある主要な街路の兩側一帶の敷地及び巾に局部的商業の中心をなす小團地例の北方の十三附近及び南方住吉、平の鄕の一部、西は築港の中樞部分の如きは日常の利益に備へ且つ土地利用上其實情に適せしめ將來更に土地發展と交通系統の確立を待つて適當に之れを配置せんとの意嚮である

工業地域

神崎川沿岸一帶の平野、寢屋川沿岩の一部分城北村の西部より淀川を越え新淀川左岸を經て安治川下流の沿岸に連る一帶の低地、大阪灣に面する尻無川、木津川下流の流域一圓は現在に於ても既に工場地として開發せられ居る處多く其地勢亦將來必要々件なる水陸通運の施設をなすに困難でないが爲め之れを工業地域とせるものである

◉貸家新建の增加

阪急電鐵寶塚沿線の郊外各住宅地では、世の中が寂びれ行くに似ず槌の音忙しく家屋がどん〳〵建つ、いま昨一ケ年間の新築戸數をみると

豊能郡池田町八十八、秦野村廿一、北豐島村四十八、箕面村四十、豊中村約二百、南豊島約百廿、麻田、中豊島、庄内の諸村約二百

で取毀を引いてざつと七百戸に達した譯だが、それらの新築家屋は概れ借家であつて、家賃十五圓位から高々廿五圓程度で會社の通勤者ならば平社員級向のものである、かやうに將棋の駒を列べるやうに家が建つては行くものゝ、最近各住宅地に、かし家、間貸の短册型の札がべらぼうに殖えたのに眼が着く、會社員でいへば課長級どころの住む家賃五、六十圓程度のが池田町字室町、豊中方面の所謂紳士向にもだいぶ空いたまた、箕面の牧落にある百樂莊には赤屋根のバンガローや、新しい樣式の文化住宅で敷地共の五千圓から一萬二、三千圓の既成家屋が正札付で十幾つも陳列されてゐるといふ具合である

但しこれは、土地會社のでつかい既製商品で借家ではない更にいろ〳〵な土地、住宅會社が坪當り四、五圓で手に入れ道路敷地整理の施工をして今では坪三、四十圓も吹いてゐるが、これも餘り商談がなさゝうで、結局煎じつめれば貸家が多い、その上に小住宅が建ち、大きい家がごろ〳〵空きさつぱり敷地が賣れぬとも、これはやつぱり景氣が好くないためだらうが試みに豊能郡當局の調査を見ると納稅成績は新住者の移動が如何に頻繁なるかを語り、稅金の未納、滯納も續出して池田、豊中、麻田の町村がその大關格、それは自慢でないとして豊中の如きは一納期間に五百餘戸からの移動があつて村でも整理に弱つてゐる

主要建築材料値段

◎**耐火リノリウム** 市内施工
大阪耐火リノリーウム會社
チョコレート色 四分仕上坪 八、五〇〇
褐色同同 八、五〇〇
赤色同同 九、〇〇〇
青色同同 三、〇〇〇
マグネシアセメント市内倉庫渡し 九、五〇〇
トンニ付
ドロマイトプラスター 同 八、〇〇〇
一號品 一タル四切半 七、〇〇〇
三號品 同
ストロブロック(模造天然石)市中工事 八五
寒水石大理石類 尺坪 一、二〇〇
花崗石類 同
防水劑ポースイ 一、五〇〇
三封度入 二、三五〇
五封度入 三、〇〇〇
四〇封度入

◎**リノリユーム** 英國チーアン製
奥村重兵衛商店
巾六呎 長九〇呎(十五坪卷) 七、八〇〇
X 一、九ミリ 一坪ニ付 八、六五〇
E 二、二同 同
B 三、〇同 同

◎**ウオールボード** 英國ゼームス純製 四、二〇〇
一坪
寸法 巾三呎 長六呎 三呎巾 長九呎 巾四呎 長八呎

◎**メタルラス**(和製)
廿六番 巾二呎長六呎 一枚 〇、四八〇
廿四番 巾六呎長六呎 同 〇、五五〇
廿番 巾三呎六六呎 同 三、〇〇〇
十八番 巾三呎長六呎 同 三、八〇〇
十三番 巾五呎長六呎 同 四、八〇〇

◎**壁紙** 巾一尺七寸 長三十六尺(張上約一坪五合)
英國製 一卷 一、〇〇〇以上各種
米國製 巾一尺五寸 長五十三尺(張上約二坪) 一、二〇〇以上各種
一卷
張手間 一坪 一圓四十錢以上

◎**金屬天井**
材料 蛇腹 逃板付 一坪 二、〇〇以上
同 逃板ナシ 同 一〇、〇同
張工賃 同 二、〇〇同

◎**日の出印便利瓦** 日本建築紙工 大阪出張所
半號 巾三尺二寸 長七十二尺 附屬品及ペイント添 四、五〇〇
一號 一卷同 同 七、五〇〇
二號 一卷同 同 二、五〇〇
三號 一卷同 同 三、五〇〇

◎**鶴印便利瓦**
半號 一卷 巾三尺二寸 長七十二尺 附屬品及ペイント添 一三、五〇〇
一號 同 同 同 一五、五〇〇
二號 同 同 同 一八、五〇〇
三號 同 同 同 二三、五〇〇

◎**日の出印砂付便利瓦**
半號 一卷 巾三尺二寸 長七十二尺 附屬品及ペイント添 一六、〇〇〇
一號 同 同 同 九、〇〇〇
二號 同 同 同 三、〇〇〇
三號 同 同 同 二七、〇〇〇

◎**日の出印建築用紙** ビルヂングペーパー
一號 一卷 巾三尺二寸 長七十二尺 三、〇〇〇
二號 同 同 四、一〇〇
三號 同 同 五、三〇〇

◎**日の出印パーマネントルーフ井ング**
一號 巾三尺長三十六尺 三十六テ以テ一卷トス 坪平方尺七、〇〇
二號 同 同 四、四〇〇

◎**日の出印衛生疊下用紙**
一號 一卷 巾三尺二寸 長七十二尺 三、〇〇
二號 同 同 四、四〇〇

◎**日の出印瀝靑**(モスパーピール)
一號 一枚 巾二尺八寸 長三尺二寸 一、二五〇
二號 一枚 同 同 一、三〇〇
三號 同 同 一、五五〇

◎**日の出印アスファルトフエルト**
一號 一卷 巾三尺二寸 長七十二尺 三、一〇〇
二號 同 同 四、二〇〇
三號 同 同 五、三〇〇

◎**スレート**
淺野スレート販賣株式會社

◎**淺野波形板**
長六尺 巾二尺二寸 一枚 三、三〇〇
長七尺 巾二尺二寸 同 三、八〇〇
附屬亞鉛木捻釘一本 一、〇五五
長六尺 巾三尺厚一分五ノ一枚 二、八〇〇
長六尺 巾三尺厚二分一枚 三、三〇〇
附屬銅鋲 一本ニ付 一、六〇六毛
同亞鉛寸釘 同 一、〇〇三
同 銅釘 同

◎**石綿スレート**
石綿スレート株式會社大阪支店
淺野スレート販賣株式會社
野澤幸三郎商店
灰白色 十六吋角 一枚 〇、一三〇
淡黑色 十二吋同同 〇、一四三
八吋同同 〇、〇五五
灰黑色 十六吋同同 〇、一四〇
十二吋同同 〇、一六六
八吋同同 〇、(六)
赤色 十六吋同同 〇、一四五
十二吋同同 〇、一五九
八吋同同 〇、〇六一
綠色 十六吋同同 〇、一三〇
十二吋同同 〇、一〇三
八吋同同 〇、〇七八

◎**葺上標準値段**
(一號アスファルトフエルト下葺)
(銅鋲、亞鉛鍍鐵釘使用手間賃共)
◉菱形葺(網目葺) 十六吋角使用
重ね 灰白淡黑 黑 菫 赤 綠
三吋 七、五〇 八、一〇 八、三〇 八、七〇 一〇、一〇
二吋半 八、〇〇 八、六〇 八、七〇 九、一〇 一〇、七〇

◉同　上　十二吋角使用
二　吋　九、一五　九、八五　一〇、一五　一〇、六五　一二、四
二吋半　九、九〇　一〇、七〇　一〇、九五　一一、五〇　一三、五〇
◉同　上　八吋角使用
二　吋　一〇、五〇　一一、二〇　一一、五〇　一二、五〇　一三、八〇
◉一文字葺(額飾共)　六吋角二切使用
葺足寸法　灰白淡黒　黒　董　赤　緑
二寸五分　一一、五〇　一二、五〇　一三、八〇　一三、五〇　一六、〇〇
五　寸　一二、五〇　一三、五〇　一三、八五　一四、五〇　一七、三五

◎石綿盤葺上標準値段

(一面坪單價)
野澤幸三郎商店

網目葺(菱形)ノエルト一號品敷込材料間賃共

色合　寸法　十六吋重三角重二　十二吋重二　八吋重二
　　吋半二吋　吋半二吋

灰白色　淡黒色　黒色　董色　赤色　緑色
七、三〇　七、八〇　八、八〇　九、五五　九、八〇　一〇、〇〇
七、九〇　八、四〇　九、三〇　一〇、三五　一〇、七〇　一一、〇〇
八、一〇　八、三〇　九、三〇　一〇、五〇　一〇、七〇　一一、〇〇
八、三〇　九、〇〇　一〇、二〇　一一、二〇　一一、三〇　一一、五〇

◎ロッコー瓦葺上標準値段

(阪神間ニテ)

平瓦各種共一尺一寸角葺足九寸
一坪約四十三枚葺、軒先ゞ螻羽棟伏等道具瓦完備
灰白色、黒色、董色、赤色共フェルト敷込
一面坪ニツキ
棟　熨斗二段半圓形伏　一間　八、五〇
同　熨斗二段伏　同　三、七〇
同　箱歴振伏　同　五、八〇
熨斗一段積　同　七、五〇
綠色ハ三割高

◎亞鉛引平鐵板

		円
月星	印30	(米一)
タヒ	印30	(米一)
犬	印30	(米一)
三星	印30	(米一)
太陽	印30	(米一)
エビ	印30	(米二)
船	印30	(米二)
月星錨	印30	(米二)
山星	印30	(米二)
五寸切レ		(米板)
蝶	印30	(英一)
ラクダ	印30	(英一)
地球	印30	(英一)
赤丸一印	30	(英一)
桃	印30	(英一)
首	印30	(英二)

		円
#28	一級品	一、四
#26	一級品	一、三五
#24	一級品	一、三〇
#22	一級品	一九、〇〇

◎同浪板

同　百斤ニ付

		円
#30	六尺	〇、九八
#30	七尺	一、〇六
#30	八尺	一、一九

各參錢上り

		円
#28	六尺	一、三三
#28	七尺	一、五〇
#28	八尺	一、七
#2426	各尺百斤ニ付	一七、〇〇 一六、五〇

◎鋼瓦板

巾一尺　長一尺二寸
井筒改藏商店(大阪)

名稱　一枚目付　薄增値　單價和百斤ニ付
自拾二代　一二〇匁　建値　壱、〇〇
至八代　八〇匁

		円
七代	七〇匁	壱、〇〇
六代	六〇匁	七、〇〇
五代	五〇匁	八、一〇
四代	四〇匁	九、〇〇
三代	三〇匁	一〇、〇〇
二代	二〇匁	一三、〇〇

◎銅瓦板

吉田定七商店

定尺巾一尺長一尺二寸(一枚目付和百斤ニ付)

一二〇代増値　一二〇匁建
八代値　八〇匁値　壱、〇〇

七代	七〇匁	壱、〇〇
六代	六〇匁	七、〇〇
五代	五〇匁	八、一〇
四代	四〇匁	九、〇〇
三代	三〇匁	一〇、〇〇
二代	二〇匁	一三、〇〇

◎パイプ

金剛商會大阪支店

内經　厚　長　價格
二吋　四分ノ一吋　六呎　一、五〇
二時半　同　同　一、七〇
三吋　十六分ノ五吋　同　二、〇〇
三吋半　同　同　二、五〇
四吋　八分ノ三吋　同　三、五〇
五吋　同　同　四、五〇
六吋　二分ノ一吋　同　七、〇〇

◎金剛ストレート(葺上値段)

重量　厚サ　円
五貫二五　二分　三、二〇〇
七貫五〇　三分　五、二五〇
一〇貫五〇　四分　七、五〇〇
一二貫七五　五分　九、七五〇
一五貫〇〇　六分　一二、五〇

色合　十六吋菱形　円　七、〇〇〇
灰白色　八吋菱形　円　一〇、〇〇〇

黒色		七、五〇〇
スミレ色		八、〇〇
赤色		八、五〇〇

大阪及東京渡値段

◎アラバスチン會社製品

田中源太郎商店

性質	品名	種類
水性、壁、塗料	アラバスチン	白
容器		單價
五封度入		三、三〇
同		各色 三、八〇
同		同(樽入) 白 三五〇封度入 格安
同		同(樽入) 白 一〇〇封度入 格安
シミ止	アラバスチンコーター	小瓶入 一
パテ材料	アラバスチンパテ	小袋入 〇、六
型	アラバスチンステンシル紙	四ヨリ 一、五〇 迄

インヒリアルバニス及エンタアプライズペイント會社製品

性質	品名	種類
艶消ペンキ	赤三角又ハ紅葉印サテン艶消ペンキ	各色
容器		單價
一ガロン入		一、五〇
同		同 八分ノ一ガロン入 一、四〇
シンクペンダーワンダー用ホワイト		外部用 白

同　一ガロン入　一〇、八〇
紅葉印コーパルバニシ
同　一ガロン入　六、五〇
ワンダーホワイト　艶消白
同　一ガロン入　一〇、八〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、七五
エナメル代用　ワンダーホワイト
同　一ガロン入　一二、三〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、八五
自動車塗料　オートフィニシュ
八分ノ一ガロン入　三、三〇
コンクリート塗料　各色五ガロン入　四九、八〇

◎ルーカス塗料會社製品

性質　品名　種類
汽車屋根塗料　ルーカスルーフセメント　黒色
容器　単価
一ガロン入　四、七五
シエッドウオータープロダクト

會社製品
性質　品名　種類
リノリューム　ホワイトリノリ
防水塗料　ユームバニシュ
容器　単價
四分一ガロン入　三、八五
日本ペイント製造株式會社
白亜ペイントA印　一二瓩半　一〇、六五　円
白鉛ペイント　同　同　四、一〇〇
錆色ペイント　同　同　一、二一〇
赤色ペイント　同　同　一、二一〇
塗料ボイド油　同　一六瓩　二五、三〇〇
光明丹　同　一二瓩半　八、八〇〇
繪具粉末水性ペイント（メロニア）一磅　三、二五〇
スパーレニス　六、〇五〇
コンクリートペイント　五瓩　三、八五〇
暖房塗料　一立　三、五〇〇
パテ　白荏印七〇磅罐　四、九五〇

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所
ウオータイト　一〇ポンド入　五、五〇〇
同　七〇ポンド入　三五、〇〇〇
カヰツクウオタイト　一〇ポンド入　六、〇〇〇
同　六〇ポンド入三〇、〇〇〇

油脂化工社
マノール　一〇ポンド入　五、一〇
同　四〇ポンド入二〇、〇〇〇
急結マノール　一〇ポンド入三、六〇
同　五〇ポンド入七、五〇〇
エキストラ　一ガロン入　四、一〇〇
エキストラ　四ガロン入　一六、〇〇〇

◎木材其他

田村商會（神戸）
平板　一坪ニ付　九、〇〇以上
蛇腹　長ヶ六尺物　一、〇以上
鉦飾　同　六〇以上
中眞帥　同　三、七〇以上

◎金屬天井

パブニボード　一尺平方　一二〇
アイボリボード　同　一三〇

◎メタルサイデング

下飯一坪ニ付　八五〇
角石一坪ニ付

◎メタルラス（引伸金網）

舶來品#26　一坪　三、八五〇
舶來品#24　一坪　三、二〇〇
和製品#26　同　一、五〇〇
同　#24　同　一、二〇〇

◎米松角材（木場渡し）

大角材　一八吋角上　長　二四呎以上　一、〇以上
中角材　一二吋角上　長　二四呎以上　九〇以上
小角材　取合（四吋角　四吋四分ノ一長一三呎　一〇呎　八五〇以上　九〇以上）
取合（四吋角　四吋四分ノ三　二〇呎　九五〇以上）
平材No.8　厚六吋巾一二吋上長二〇呎　一四五〇

◎米栂角材

大角材　一〇吋角上　長二四呎上
小角材　取合（四吋角　一〇呎　八五〇以上）
取合（四吋四分ノ一角　長一三呎　一〇呎　九〇以上）
取合（四吋四分ノ三角　二〇呎　九五〇以上）

◎米杉（尺〆一本ニ付）

丸太　一等級　末口一八吋上長一三呎　一五五〇
桷材一等級　——
平材　ソノ1　——

◎米檜（尺〆一本ニ付）

丸太ソノ2クリヤ級末口二四吋上　長一三呎　二七、〇〇以上
同　末口一八吋上　長一三呎上　一五、〇〇以上
米松床板（神戸同店渡し一延呎ニ付）
巾六吋マーチヤンタブル級　〇四五以上
巾六吋板目無節　〇六〇以上
巾六吋柾目無節　〇六五以上
上巾四吋板目無節　〇四五以上
巾四吋柾目無節　〇五〇以上
同　二等級　同　三、〇〇〇
同　三等級　同　七、五〇〇

◎檜、榧、赤樫、白樫、櫻、栓、

（建築家具用）
新田ベニヤ製造所
三枚合、片面、巾二尺以上ハ厚サ一分五ノ（十六分三）　円　尺　長　青二ツ星　青一ツ星
巾一尺一寸以上ハ厚サ二分（四分一）何れも一平方尺ニ付キ　一、二五　六四寸　一、三〇　一、一〇
同　一、三五　一、二〇
同　一、五〇　一、三〇
一、六五　一、四〇
一、七五　一、五〇
二、〇〇　一、六〇
二、二五　一、九〇
二、五〇　二、〇〇
二、七五　二、一〇
三、〇〇　二、三〇
三、二五　二、五〇
三、五〇　二、七五
三、七五　三、〇〇
四、〇〇　三、二五
四、二五　三、五〇
四、五〇　三、七五
四、七五　四、〇〇
五、〇〇　四、二五
五、二五　四、五〇
五、五〇　四、七五
五、七五　五、〇〇
六、〇〇　五、二五
六、二五　五、五〇
六、五〇　五、七五
六、七五　六、〇〇
七、〇〇　六、二五
七、二五　六、五〇
七、五〇　六、七五
七、七五　七、〇〇
八、〇〇　七、二五
八、二五　七、五〇
八、五〇　七、七五
八、七五　八、〇〇
九、〇〇　八、二五
九、二五　八、五〇
九、五〇　八、七五
九、七五　九、〇〇

◎二等品（家具用）

厚一分九ノ（十六分ノ三）又ハ二分（四分ノ一）
三枚合　片面　代價（一平方尺）
巾　長　尺　青二ツ星　青一ツ星
二尺　六尺　六四寸　一、三〇　一、一〇
表三枚又四枚矧混合　二、三五　一、九五
同　二、五〇　二、一〇
同　三、〇　二、五〇

◎天井用（一坪ニ付）

巾　長　尺　青二ツ星　青一ツ星
一尺　六四　円　九、五〇　円　一、一〇〇
同　一、三五　一、一〇〇
同　一、五〇　一、二〇〇
一、六五　一、三〇〇
一、七五　一、四〇〇
以上一分五——厚　二、一〇〇　一、六〇〇
六尺四寸　二、二五　一、七〇〇
同　二、三〇　一、八〇〇

◎日本間用杉天井板

杉柾、杉本　一坪　一、〇〇〇以上
神代杉　同　三〇、〇〇〇以上
屋久杉　同　三〇、〇〇〇以上
以上二分厚

◎格天井用（厚一分九厘）

檜柵棒　櫻しな　栓　黄檗
寸法　樹種　代價
二尺角　青一ッ星　一〇、四四〇
同　青一ッ星　三、六八〇
楓　二尺角　青二ッ星　三、三一〇
同　同　青一ッ星　六、九二〇

◎同　厚　二分

檜柵棒　櫻　しな　栓　黄檗
二尺五寸角　青二ッ星　一五、〇〇〇
〃　二尺五寸角　青二ッ星　一四、二一〇
檜柵棒　櫻　しな　栓　黄檗
三尺角　青一ッ星　一五、四八〇
〃　三尺角　青一ッ星　一五、一三〇
栓　三尺ハ　一五、一三〇
檜柵棒　櫻　しな　栓　黄檗
三尺五寸角　青二ッ星　青一ッ星　一九、七四〇
〃　三尺五寸角　青二ッ星　青一ッ星　一九、〇〇〇
楓　三尺五寸角　一五、二一〇　二四、七八〇

◎腰羽目用（一分五厘）（枚ニ付）

厚　檜柵棒　櫻　黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星　なし
一尺三寸五分　三尺二寸　一、〇二〇　一、三三〇
楓一尺三寸五分　三尺二寸　一、二六〇　一、七二〇
檜　柵　棒　櫻　栓　黄檗
一尺六寸　五分　三尺二寸　一、三九〇　一、八〇〇
楓一尺六寸五分　三尺二寸七、一〇　二、三一〇
檜柵棒栓　しな　黄檗
二尺　三尺　一、七四〇　二、二六〇
楓三尺　二尺　二、一六〇　二、八二〇

◎同　二分厚

檜柵棒　櫻　栓　しな　黄檗
二尺五寸　三尺　二、三三〇　三、〇〇〇
楓二尺五寸　三尺　二、八二〇　三、七二〇

◎障子腰板用（一分五厘厚）

三枚合　兩面　一枚ニ付
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一尺五　二尺五　一、〇五〇
一尺二五　二尺三　一、〇八〇
一尺〇五　三尺一　一、一二〇
一尺二五　三尺一　一、三二〇

◎床地板用（五分厚五枚合片面）

檜柵棒　櫻
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　六尺四寸　八、四〇〇　九、七〇〇
同　樹種
二尺五寸　六尺四寸　九、九〇〇　一二、八〇〇
三尺二寸　六尺四寸　一二、〇〇　一四、五六〇

◎舞良戸及帶戸用（二分厚）

三枚合　片面及兩面
檜柵棒　櫻　しな　栓　黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺三　六尺　片　三、九九〇　五、一〇〇
〃　六尺　兩　五、三九〇　七、〇三〇
楓　片　四、九九〇　六、五〇〇
二尺三　六尺　兩　六、五〇〇　八、七八〇
檜柵棒　櫻　しな　栓　黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
三尺五分　六尺　片　五、九四〇　七、七四〇
〃　六尺　兩　八、〇三〇　一〇、四五〇
楓　片　七、三五〇　九、七二〇
三尺五分　六尺　兩　一〇、二一〇　一三、一三〇

◎楓　一分五厘厚三枚合

片面　一平方尺ニ付
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　四尺　円　三二〇　四七

二尺　五尺　三一〇　四七
〃　六尺　三三〇　四七
同品　二分厚ニ枚合片面
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺五　五尺　三八〇　五〇〇
〃　六尺　四二〇　五四〇
三尺　六尺　四八〇　六二〇
三尺五　七尺　五一〇　六六〇
〃　八尺　五四〇　七〇〇
四尺　八尺　五八〇　七五〇

◎杢物楓栓（一分五厘厚）

三枚合片面（一平方尺）
寸法　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星
一尺五角　円　七四〇　一、〇〇〇　一、三五〇　一、七五〇
二尺角　八二〇　一、一〇〇　一、四八〇　一、八六〇
同品　二分厚　三枚合片面
二尺五角　八九〇　一、一九〇　一、五三〇　一、九二〇
三尺角　九六〇　一、二八〇　一、六五〇　二、〇六〇
三尺五角　一、〇三〇　一、三七〇　一、七六〇　二、一九〇
四尺角　一、一〇〇　一、四七〇　一、八九〇　二、三六〇

◎杢物楓、（一分五厘厚）

巾　長　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星
二尺　四尺　八二〇　一、一〇〇　一、四八〇　一、八六〇
二尺　五尺　九二〇　一、二三〇　一、六五〇　二、〇七〇
二尺　六尺　一、〇二〇　一、三六〇　一、八二〇　二、二九〇
同品　二分厚
二尺五　五尺　一、一五〇　一、五三〇　二、〇五〇　二、五七〇
二尺五　六尺　一、二七〇　一、七〇〇　二、二八〇　二、八五〇
三尺　六尺　一、四一〇　一、八九〇　二、五四〇　三、一八〇
三尺五　七尺　一、六〇〇　二、一三〇　二、八四〇　三、五五〇
四尺　八尺　一、八二〇　二、四三〇　三、二四〇　四、〇五〇

◎檜柾目（一分五厘又ハ二分）

三枚合　片面　一平方尺ニ付
巾　長
二尺　六尺　二六〇　三四〇　四五〇　五六〇

二尺五　同　三二〇　四二〇　五六〇　七〇〇
三尺　同　三九〇　五一〇　六八〇　八五〇

◎製圖版楊

七分厚　三尺巾　四尺長一枚　一三〇、〇〇
同　二尺五寸　三尺五　同　一一、〇〇

◎九鐵

山本東作商店

	長サ	二尺	二尺五	三尺	三尺五	四尺	四尺五	五尺	五尺五	六尺
一分	十二尺	六〇	七五	九〇	一〇五	一二〇	一三五	一五〇	一六五	一八〇
	十五尺	七五	九四	一一三	一三二	一五一	一七〇	一八九	二〇八	二二七
	十八尺	九〇	一一三	一三五	一五八	一八〇	二〇三	二二五	二四八	二七〇
	二十尺	一〇五	一三二	一五七	一八四	二一〇	二三七	二六二	二八九	三一五
二分	十二尺	七二	九〇	一〇八	一二六	一四四	一六二	一八〇	一九八	二一六
	十五尺	九〇	一一三	一三五	一五八	一八〇	二〇三	二二五	二四八	二七〇
	十八尺	一〇八	一三五	一六二	一八九	二一六	二四三	二七〇	二九七	三二四
	二十尺	一二六	一五七	一八九	二二〇	二五二	二八四	三一五	三四六	三七八
二分五厘	十二尺	八四	一〇五	一二六	一四七	一六八	一八九	二一〇	二三一	二五二
	十五尺	一〇五	一三一	一五七	一八三	二一〇	二三六	二六二	二八八	三一五
	十八尺	一二六	一五七	一八九	二二〇	二五二	二八四	三一五	三四六	三七八
	二十尺	一四七	一八三	二二〇	二五六	二九四	三三一	三六七	四〇四	四四一
三分	十二尺	九六	一二〇	一四四	一六八	一九二	二一六	二四〇	二六四	二八八
	十五尺	一二〇	一五〇	一八〇	二一〇	二四〇	二七〇	三〇〇	三三〇	三六〇
	十八尺	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六	四三二
	二十尺	一六八	二一〇	二五二	二九四	三三六	三七八	四二〇	四六二	五〇四
三分五厘	十二尺	一〇八	一三五	一六二	一八九	二一六	二四三	二七〇	二九七	三二四
	十五尺	一三五	一六八	二〇二	二三六	二七〇	三〇三	三三七	三七一	四〇四
	十八尺	一六二	二〇二	二四三	二八四	三二四	三六五	四〇五	四四六	四八六
	二十尺	一八九	二三六	二八四	三三一	三七八	四二五	四七二	五一九	五六六
四分	十二尺	一二〇	一五〇	一八〇	二一〇	二四〇	二七〇	三〇〇	三三〇	三六〇
	十五尺	一五〇	一八七	二二五	二六二	三〇〇	三三七	三七五	四一二	四五〇
	十八尺	一八〇	二二五	二七〇	三一五	三六〇	四〇五	四五〇	四九五	五四〇
	二十尺	二一〇	二六二	三一五	三六七	四二〇	四七二	五二五	五七七	六三〇
五分	十二尺	一三二	一六五	一九八	二三一	二六四	二九七	三三〇	三六三	三九六
	十五尺	一六五	二〇六	二四七	二八八	三三〇	三七一	四一二	四五三	四九四
	十八尺	一九八	二四七	二九七	三四六	三九六	四四五	四九五	五四四	五九四
	二十尺	二三一	二八八	三四六	四〇四	四六二	五一九	五七七	六三五	六九二
六分	十二尺	一四四	一八〇	二一六	二五二	二八八	三二四	三六〇	三九六	四三二
	十五尺	一八〇	二二五	二七〇	三一五	三六〇	四〇五	四五〇	四九五	五四〇
	十八尺	二一六	二七〇	三二四	三七八	四三二	四八六	五四〇	五九四	六四八
	二十尺	二五二	三一五	三七八	四四一	五〇四	五六七	六三〇	六九三	七五六
七分	十二尺	一五六	一九五	二三四	二七三	三一二	三五一	三九〇	四二九	四六八
	十五尺	一九五	二四三	二九二	三四一	三九〇	四三九	四八七	五三六	五八五
	十八尺	二三四	二九二	三五一	四〇九	四六八	五二六	五八五	六四三	七〇二
	二十尺以上五十尺位迄	二七三	三四一	四〇九	四七七	五四六	六一四	六八二	七五〇	八一九

十五尺　四五五
十六尺　四五五
十八尺　四五〇
二十尺以上五十尺位迄　四七〇

八分
十二尺　四五五
十五尺　四五五
十六尺　四五五
十八尺　四五五
二十尺　四五五
二十尺以上五十尺位迄　四七〇

九分
十二尺　四五五
十五尺　四五五
十六尺　四五五
十八尺　四五五
二十尺　四五五
二十尺以上五十尺位迄　四七〇

一寸
十二尺　四五五
十五尺　四五五
十六尺　四五五
十八尺　四五五
二十尺　四五五
二十尺以上五十尺位迄　四七〇

一寸二分
十二尺　四五五
十五尺　四五五
十六尺　四五五
十八尺　四五五
二十尺　四五五
二十尺以上五十尺位迄　四七〇

一寸二分
十二尺　四五五
十五尺　四五五
十六尺　四五五
十八尺　四五五
二十尺　四五五
二十尺以上五十尺位迄　四七〇

◎Lアングル

一〇厚
二十尺位　五三〇

八分
同　五三〇

一寸
同　五三〇

一寸二分
同　五三〇

一分五厘厚
二十尺位　五三〇

一寸
同　五三〇

同　二分　四五五
同　三分　四五五
同　四分　四五五

◎丸鐵

径	長サ	
一寸一分	十八尺位	四三五
一寸四分	同	四三五
一寸六分	同	四三五
一寸八分	同	四三五
二寸	同	四三五
二寸二分	同	四三五
三吋	同	四四五
三吋二分	同	四四七
三吋半	同	四六〇
三吋六分	同	四六〇
四吋	同	五〇〇
四吋半	同	五一〇
五吋	同	五一〇
五吋半	同	五三〇
六吋	同	五三〇
六吋半	同	五三〇
七吋	同	五三〇
七吋半	同	五三〇
八吋	同	五三〇

◎角鐵

一分五厘	十二尺位	五八五
二分	同	五六〇
二分五厘	同	五三〇
三分	同	四八〇
四分	同	四六五
五分	十五尺以上	四三五
六分	同	四三五
七分	十八尺位	四三五
八分	同	四三五
九分	同	四三五
一寸	同	四三五

一寸二分　同　五〇〇
一寸四分　同　四五〇
同　三〇　四五〇
同　四〇　四五〇

◎Iチヨイスト

厚サ	巾吋	高吋	目付ポンド	
分厘				
三分厚	4	9、5	一、七	四八〇
同	5	一一、〇	一、七	四八〇
三十尺位	6	一二、〇	二、〇	四八〇
同	6	一二、〇	二、〇	四八〇
同	5	4″/2	一八、〇	二、五	四八〇
同	5	一八、〇	二、五	四八〇
三十尺位	7	一六、〇	二、二	四八〇
同	8	一八、〇	二、二	四八〇
同	9	二一、〇	二、五	四八〇
同	6	二五、〇	三、三	四八〇
同	8	二八、〇	三、〇	六五〇
同	10	三〇、〇	同	四八〇
同	12	三二、〇	同	四八〇
同	15	四二、〇	三、五	四八〇
同	15	四二、〇	三、五	五五〇
同	15	四二、〇	三、三	五五〇
同	15	三五、〇	三、三	五五〇
同	8、10	四二、〇	三、二	五五〇
同	12	四四、〇	三、五	五五〇
同	15	五四、〇	四、〇	五五〇
同	15	五九、〇	同	五五〇

◎コチヤンネル

厚サ分厘	巾吋	高吋	目付ポンド	
三、七	同	18	五五、〇	四九〇
四、〇	6″/4	20	六五、〇	五一〇
四、五	7	18	七五、〇	五一〇
四、〇	同	21	七九、九	五〇〇
五、〇	7″/2	20	八九、〇	五〇〇
同	同	24	一〇〇、〇	五〇〇
二、〇	1″/2	3	五、二	五二〇
二、〇	2	3″/2	六、八	四八〇
二、〇	同	4	八、〇	四八〇
二、五	2″/2	5	一一、〇	四八〇
同	同	6	一二、〇	四八〇
同	同	8	一五、〇	五五〇
同	同	6	一四、五	四八〇
三、〇	同	同	一六、三	四八〇
同	同	7	一七、五	四九〇
三、〇	同	8	一六、三	五〇〇
同	同	9	一九、三	五二〇
三、二	3″/2	7	二〇、〇	五五〇
三、四	同	8	二二、七	五五〇
三、〇	同	9	二二、三	五五〇
同	同	10	二三、五	五五〇
同	同	12	二六、一	五五〇
同	同	三二、九	三六、五	五五〇
同	同	15	四一、九	五五〇

◎丁形

二分	二吋	五三〇
同	二吋半	五三〇
同	三吋	五三〇
三分	三吋	五三〇
四吋		五七〇

◎合掌用切鐵板

厚サ一分　六〇〇

一寸二分	同	同	四三五
一寸四分	同	同	四四〇
一寸六分	同	同	四四〇
二寸	同	同	四四五
三吋	同	同	四四五
三吋半	同	同	四四五
四吋	同	同	四五〇
四吋半	同	同	四五〇
五吋	同	同	四五〇
◎平鐵			
三分	十二尺位		四七一
四分	同	同	四七一
五分	同	同	四六〇
六分	同	同	四六〇
七分	同	同	四六〇
八分	同	同	四六〇
一寸	同	同	四六〇
一寸一分	十五尺以上十八尺位		四六〇
一寸二分	同	同	四六〇
一寸四分	同	同	四六〇
一寸六分	同	同	四六〇
一寸八分	同	同	四六〇
二寸	同	同	四六〇
二分厚	十二尺位		五一五
三分	同	同	五〇〇
四分	同	同	五〇〇
五分	同	同	五〇〇
六分	同	同	五〇〇
七分	同	同	五〇〇
八分	同	同	五〇〇
一寸	同	同	四八〇
一寸二分	同	同	四七五
一寸四分	十五尺以上十八尺位		四七五
一寸六分	同	同	四七五
一寸八分	同	同	四七五
二寸	同	同	四七五
三吋	同	同	四七五
三吋半	同	同	四七五
四吋	同	同	四七五
四吋半	同	同	四七五
五吋	同	同	四七五
六分	十二尺位		四八〇
七分	同	同	四八〇
八分	同	同	四八〇
一寸	同	同	四八〇
一寸二分	同	同	四八〇
一寸四分	十五尺以上十八尺位		四八〇
一寸六分	同	同	四八〇
一寸八分	同	同	四八〇
二寸	同	同	四八〇
三吋	同	同	四八〇
三吋半	同	同	四八〇
四吋	同	同	四八〇
四吋半	同	同	四八〇
五吋	同	同	四八〇

●第八集　第三号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
日本洋瓦大阪出張所
浅野スレート販売
政正
石綿スレート大阪出張所
二和商会
南満鉱業
原田商会
福田製作所
早苗会
奥村重兵衛商店
浅野物産
ベニア商会
田村商会
日本ペイント会社
山本東作商店
HANKEN SEISAKUSYO
横河橋梁製作所
大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
駒崎化学建材研究所

湯浅蓄電池製造
共益社
長山施工店
今崎製作所
中村グラニット商会
ベニス工房
日本セメント防水剤製造所
金剛商会
カールツ、アイス
浅野スレート販売大阪出張所
野沢幸三郎商店
森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
大阪鉄管商会
東亜ペイント製造
浅海商店
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
小笠原建築事務所
岡部顯則建築事務所

大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
野村、橋本建築事務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
前田松本建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組

大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組営業所
有山組
駒井喜兵衛商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
大理石工業

須賀商会
栄進社
松尾
山本窯業商店
境川文庫
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
日本本材工芸
高島屋呉服店
城口研究所
サカイブン建築鉄工所
浜口商店
丸三メント工業所
小野田セメント製造
セール、フレザー
星製薬
河村青写真調製所
阿部鉄工所
東京建鉄
大阪耐火リノリウム工業
日本工剤
内外土木建築材料
山中商会

木下商店
日本アスベスト大阪支店
桐田商会
日本耐火スレート
建築世界社
金属建材工作所
長田商店
日米板硝子
大東塗料